

第４６回豊島廃棄物等管理委員会次第

日時 平成２９年７月９日（日）１３：００～
場所 直島町総合福祉センター

I 開会

II 審議・報告事項

- 1 豊島廃棄物等の最終の処理済み量及び副成物等の現在の状況（報告）
- 2 豊島廃棄物等処理事業の実施状況
 - (1) 豊島廃棄物等処理事業の実施状況（報告）
 - (2) 豊島廃棄物等処理事業の原単位表等（報告）
- 3 豊島処分地の地下水浄化対策
 - (1) 第２７回豊島処分地排水・地下水等対策検討会の審議概要（報告）
 - (2) D測線西側の油混じり水等の処理（審議）
- 4 処分地内のつぼ掘り部の整地とトレンチドレーンの撤去等への対応（審議）
- 5 中間処理施設等の最近のトラブルと対応（報告）
- 6 副成物の有効利用
 - (1) 溶融スラグの品質試験結果（報告）
 - (2) 溶融スラグを使用したコンクリート構造物のモニタリング計画（審議）
- 7 豊島の中間保管・梱包施設、特殊前処理物処理施設及び直島の中間処理施設等の撤去等
 - (1) 堆積物の除去・除染の業務委託先の決定（報告）
 - (2) 堆積物の除去・除染の実施状況（報告）
 - (3) 施設の撤去等に係る環境計測の実施計画（報告）
- 8 豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会の設置要綱等（審議）
- 9 その他
 - (1) 環境計測及び周辺環境モニタリングの結果（報告）
 - (2) 緊急時等の報告（正式評価）（報告）
 - (3) 健康管理委員会の審議概要（報告）

III 閉会

豊島廃棄物等の最終の処理済み量及び副成物等の現在の状況

1. 概要

直島中間処理施設において廃棄物等の処理が平成 29 年 6 月 12 日に完了し、豊島・直島施設のピット内にある廃棄物等の固着物の処理が 6 月末に完了したことから最終の処理済み量を報告する。また、処理完了に伴い、中間処理（焼却・溶融処理）の過程で生成される副成物の発生が確定したことから副成物等の現在の状況について報告する。

2. 廃棄物等の最終の処理済み量

(1) 6 月 1 2 日までの処理済み量

平成 15 年度に開始した廃棄物等の処理について、6 月 12 日までの処理済み量を表 1 のとおり年度ごとに取りまとめた。廃棄物等の処理済み重量は 911,054t となった。

表 1 処理実績

年 度		重 量 (t)													
		溶融炉			キルン炉			岩石等 特殊前 処理	小計	直下土壌等			小計	特殊前処 理物等委 託処理	合計
		廃棄物等	土壌主体 廃棄物	計	溶融 不要物	土壌主体 廃棄物	計			セメント 原料化	地下水 浄化	溶融処理			
15	9月～翌年3月 (試運転を含む)	—	—	26,472	136	—	136	73	26,681	0	0	0	0	—	26,681
16	4月～翌年3月	—	—	52,243	836	—	836	219	53,298	0	0	0	0	—	53,298
17	4月～翌年3月	—	—	53,186	759	—	759	81	54,026	0	0	0	0	—	54,026
18	4月～翌年3月	—	—	51,261	936	—	936	24	52,221	0	0	0	0	—	52,221
19	4月～翌年3月	—	—	53,183	1,027	—	1,027	17	54,227	0	0	0	0	—	54,227
20	4月～翌年3月	47,186	11,797	58,983	900	621	1,521	93	60,597	0	0	0	0	—	60,597
21	4月～翌年3月	50,920	15,210	66,130	1,195	2,690	3,885	138	70,153	0	0	0	0	—	70,153
22	4月～翌年3月	51,490	17,163	68,653	1,679	4,410	6,089	201	74,943	0	0	0	0	—	74,943
23	4月～翌年3月	48,951	16,230	65,181	1,904	3,634	5,538	276	70,995	0	0	0	0	—	70,995
24	4月～翌年3月	49,248	15,809	65,057	1,823	3,815	5,638	257	70,952	647	0	0	647	—	71,599
25	4月～翌年3月	54,110	17,275	71,385	2,420	2,565	4,985	705	77,075	3,579	0	0	3,579	—	80,654
26	4月～翌年3月	32,565	28,419	60,984	2,336	4,157	6,493	980	68,457	2,598	0	(274)	2,872	—	71,055
27	4月～翌年3月	17,761	45,671	63,432	4,366	2,093	6,459	856	70,747	1,946	0	(264)	2,210	210	72,903
28	4月～翌年3月	11,761	57,422	69,183	6,369	636	7,005	1,283	77,471	1,719	0	0	1,719	91	79,281
29	4月～6月12日	0	15,126	15,126	1,078	0	1,078	—	16,203	2,217	—	—	2,217	—	18,420
合 計				840,459			52,385	5,203	898,046	12,707	0	(538)	13,245	301	911,054

(2) 6月末までの固着物の処理済み量

豊島・直島施設のピット内にある廃棄物等の固着物の処理済み量は表 2 に示す。廃棄物等の処理済み重量は 1,319t となった。

表 2 固着物処理済み量

区分			重量 (t)
廃棄物等	固着物処理済み量		1,319
	内訳	豊島側	(588)
		直島側	(731)
	計		1,319

(3) 測量の結果

これまで場内移動分（掘削された廃棄物等）の処理済み体積は、地山に換算（掘削された廃棄物等の体積から体積変化率で除算）して算出していたが、体積変化率が若干正確性を欠いたものであるため、最終の処理済み体積は、平成 14 年 3 月までに実施した暫定的な環境保全措置の地形図（平成 16 年 6 月測量）を基に、3D モデルを用いて算出したところ、廃棄物等の処理済み体積は、表 3 のとおり 609,132m³ となった。

表 3 処理対象体積

区分		体積 (m ³)
掘削前	H16/6測量	609,132
掘削完了	H29/1測量	

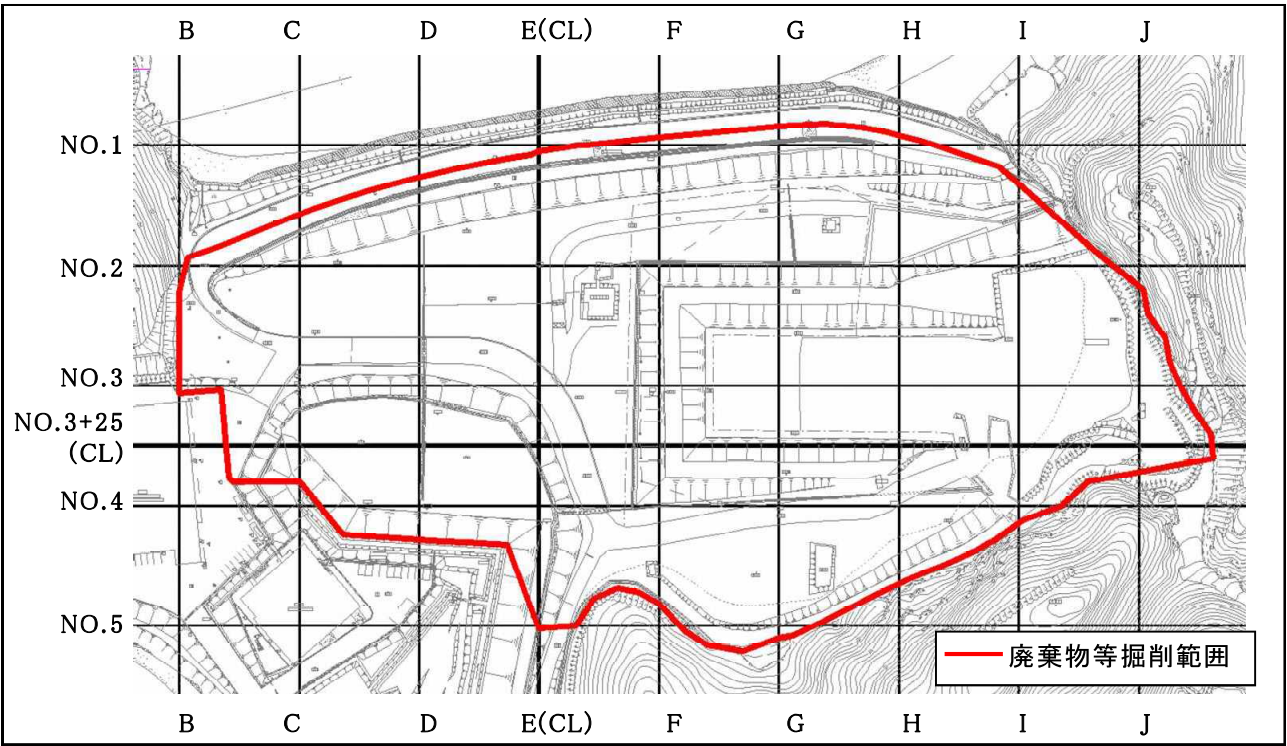


図 1 平面図

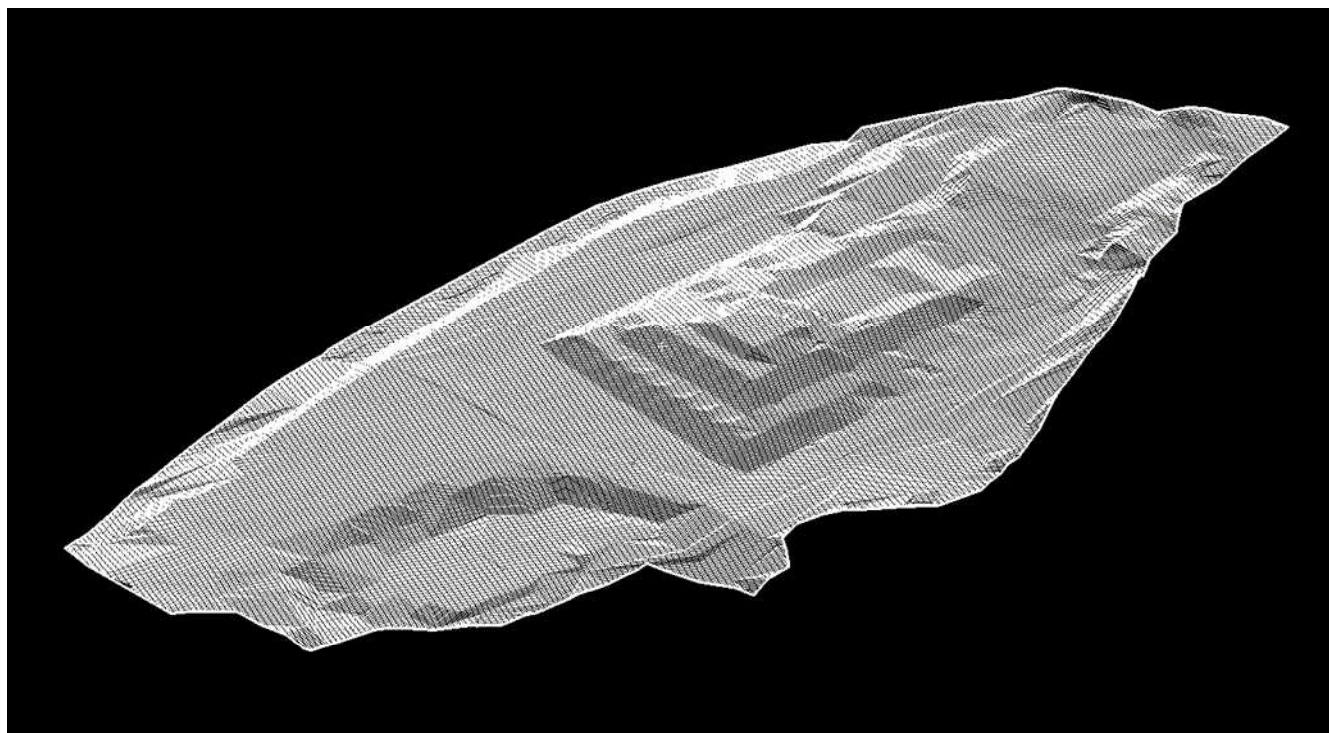


图 2 掘削前地形图

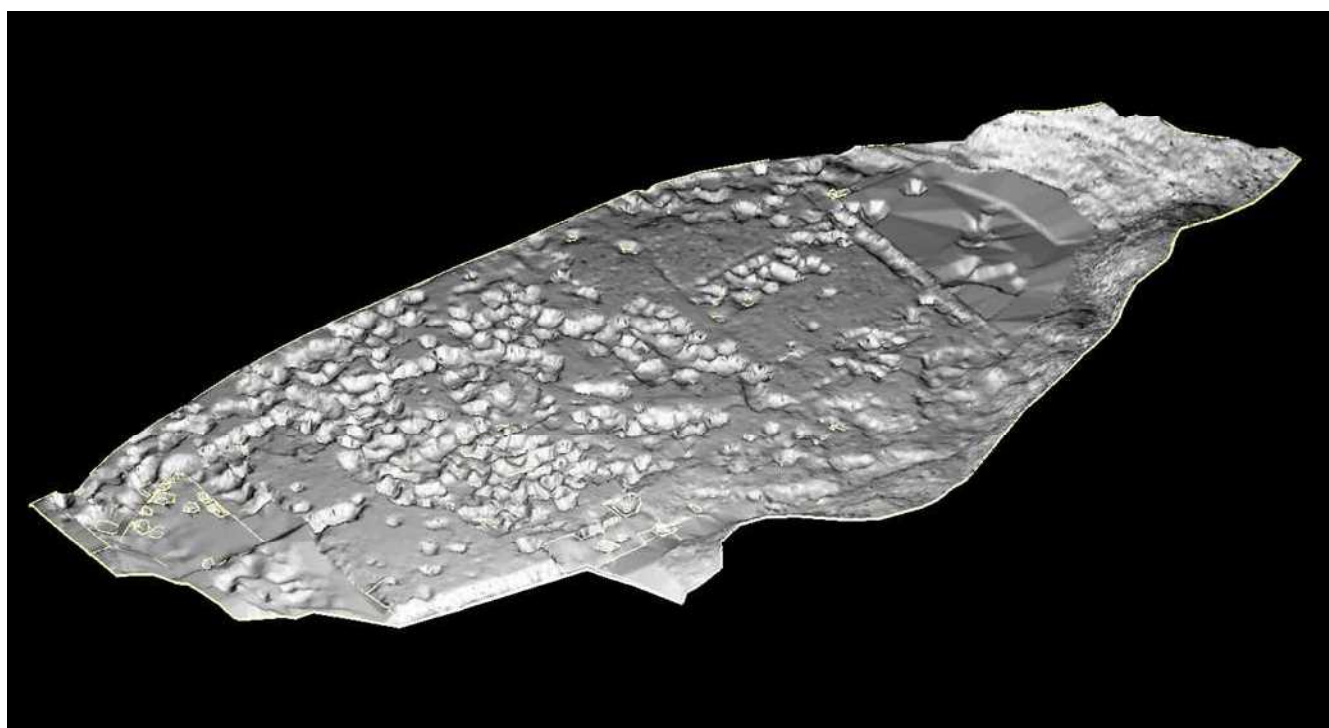


图 3 掘削完了地形图

(4) 全体の処理済み量

平成 29 年 6 月 12 日までの処理済み量とその後のピット内固着物の処理済み量を合わせた廃棄物等の処理済み量に汚染土壌を加えた全体の処理済み量を表 4 に示す。廃棄物等の処理済み体積は、616,525m³、処理済み重量は、912,373t となり平成 11 年 5 月の公調委調査から廃棄物等 365,768t 増、直下土壌 109,605t 減、総重量 256,163t の増となった。

表 4 全体処理済み量

区分			体積 (m ³)	重量 (t)	備考
廃棄物等処理済み量	廃棄物等	6月12日までの処理済み量	609,132	897,809	
		ピット内固着物		1,319	
		小計	609,132	899,128	
	直下土壌		7,393	13,245	
	計		616,525	912,373	
平成11年5月公調委調査による廃棄物等処理対象量	廃棄物等		477,600	533,360	平成7年9月に公調委が実施した調査結果より廃棄物等を算出したものから、その後覆土等及び汚染土壌の判定基準を土壌環境基準に変更した汚染土壌量等を増加したもの
	直下土壌		70,200	122,850	
	計		547,800	656,210	
公調委との差	廃棄物等		[+131,532]	[+365,768]	
	直下土壌		[-62,807]	[-109,605]	
	計		[+68,725]	[+256,163]	

※ [] 内数値は、廃棄物等処理量と平成 11 年 5 月公調委調査による廃棄物等処理対象量との差を表した数値である。

3. 副成物等の現在の状況

(1) 溶融スラグ

溶融スラグは、定期的にサンプリングし、安全性検査と品質検査等を実施し、基準に合格したものを各スラグステーションへ搬出し、土木用材料として公共工事で有効利用している。

現在、直島環境センター、各スラグステーションに保管されている溶融スラグは表5のとおり約56,000tあり、これまでの販売実績を考慮すると平成31年度中までの販売となる。

表5 各スラグステーションの保管量（平成29年6月30日現在）

保管場所	在庫量	備考
直 島	3,000 t	高松スラグステーションの保管容量と調整しながら搬出する。
坂出スラグステーション	1,423 t	平成29年8月頃販売完了予定。9月以降は、仮囲い等の施設撤去を行う。 坂出スラグステーションの廃止に伴い、中讃・西讃地区の公共工事では、高松スラグステーションの溶融スラグを使用することとし、引き続き県内全域で溶融スラグを使用していく。
高松スラグステーション	50,563 t	現在、保管容量いっぱいの状況である。今後は、販売状況を見ながら直島環境センターに保管されている溶融スラグを搬入する。 これまでの販売実績を考慮すると平成31年度中に販売完了予定。
オリーブスラグステーション	650 t	直島環境センターに保管されている溶融スラグを搬入するが、直島環境センターに保管されている溶融スラグがなくなれば、高松スラグステーションにある溶融スラグを搬入し、引き続き溶融スラグを使用していく。 これまでの販売実績を考慮すると平成31年度中に販売完了予定。
合 計	55,636 t	

(2) 溶融スラグ以外の副成物

直島環境センター内には、溶融スラグの他に粗大スラグ、仮置き土、シルト状スラグが保管されている。

粗大スラグは約8,100t、仮置き土は約2,600tが保管されており、三菱マテリアル㈱九州工場の保管容量と調整しながら平成29年8月以降、海上輸送しセメント原料化を行う。

またシルト状スラグは約800t保管されており、三菱マテリアル㈱九州工場へ陸上輸送し、セメント原料化を行い、有効利用を図る。

なお、鉄・銅・アルミ・溶融飛灰・清掃ダストは随時有効利用しており、保管されているものはない。

(3) 地下水対策で対応している汚染土壌

豊島処分地では、地下水位面より下方にある土壌の汚染は地下水浄化対策として一体的に対応することとなっている。

現在、D測線西側においては、地下水基準水位であるTP1.3mまで地盤を下げたうえで地下水揚水浄化を行っている。また、D測線西側以外のエリアにおいても、地下水基準水位までの汚染土壌の掘削を行い、それより下方を地下水対策として対応している箇所がある。

豊島廃棄物等処理事業の実施状況(平成 29 年 5 月末まで)

1. 豊島廃棄物等の処理量について

①豊島廃棄物等の処理量

平成 29 年 6 月 12 日までの豊島廃棄物等の処理実績は、下表1－1及び1－2のとおりである。なお、直島の一般廃棄物は除いている。

表 1－1（平成15～28年度）

（単位：t）

区分	15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	試運転～ 28年度 小計	29年度 4月～ 6/12 小計	累計(暫定) 平成29年6月12日 まで
	試運転 (4月～ 9月17日)	本格稼動後 (9月18日 ～3月)																
処理計画 ①	-	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	71,785	73,711	64,629	64,641	72,406	901,462	11,336	
溶融炉処理計画		35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	59,000	63,860	64,890	65,625	67,470	68,083	60,040	59,064	65,932	851,884	10,504	
(うち、直下土壌)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1,300)	(2,400)	(186)	(0)	(3,886)	(0)	
キルン炉処理計画	-	-	-	-	-	-	3,000	7,200	6,000	5,980	4,200	5,499	4,326	5,321	6,254	47,780	832	
岩石等特殊前処理計画	-	-	-	-	-	-	-	500	207	108	115	129	263	256	220	1,798	0	
年間処理実績(中間処理) ②	14,629	11,979	53,079	53,945	52,197	54,210	60,504	70,015	74,742	70,719	70,695	76,370	67,477	69,891	76,188	876,640	16,203	892,844
溶融炉処理実績	14,539	11,933	52,243	53,186	51,261	53,183	58,983	66,130	68,653	65,181	65,057	71,385	60,984	63,432	69,183	825,333	15,126	840,459
(うち、直下土壌)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(274)	(264)	-	(538)	(0)	(538)
キルン炉処理実績	90	46	836	759	936	1,027	1,521	3,885	6,089	5,538	5,638	4,985	6,493	6,459	7,005	51,307	1,078	52,385
うち、仮置土処理実績	-	-	-	-	-	-	(621)	(2,690)	(4,410)	(3,634)	(3,815)	(2,565)	(4,157)	(2,093)	(636)	(24,622)	0	(24,622)
岩石等特殊前処理 ③	10	63	219	81	24	17	93	138	201	276	257	705	980	856	1,283	5,203	0	5,203
処理量合計 ④＝②＋③	14,639	12,042	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	70,995	70,952	77,075	68,457	70,747	77,471	881,843	16,203	898,046
溶融炉処理量／溶融炉処理計画量	74.7%		87.1%	88.6%	85.4%	85.1%	100.0%	103.6%	105.8%	99.3%	96.4%	104.8%	101.6%	107.4%	104.9%	96.9%	144.0%	97.5%
キルン炉処理量／キルン炉処理計画量	-		-	-	-	-	50.7%	54.0%	101.5%	92.6%	134.2%	90.7%	150.1%	121.4%	112.0%	107.4%	129.5%	107.8%
処理量合計④／処理計画量①	75.3%		88.8%	90.0%	87.0%	86.8%	97.7%	98.0%	105.4%	99.0%	98.8%	104.6%	105.9%	109.4%	107.0%	97.8%	142.9%	98.4%
処理量合計④／全体量(898,347t)	3.0%		5.9%	6.0%	5.8%	6.0%	6.7%	7.8%	8.3%	7.9%	7.9%	8.6%	7.6%	7.9%	8.6%	98.2%	1.8%	100.0%
掘削量(m³)	315,159									41,762	57,181	52,750	46,780	42,486		556,118	-	
密度(t/m³)	1.42									1.70	1.24	1.47	1.48	1.67	1.58	1.46	-	

直下汚染土壌処理実績(セメント原料化処理に限る。)

処理計画 ⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,000	7,500	23,800	14,300	4,354	55,954	0	
直下土壌等委託処理実績 ⑥	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	647	3,579	2,598	1,946	1,719	10,489	2,217	12,707
処理量合計(⑥)／処理計画量(⑤)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.8%	47.7%	10.9%	13.6%	39.5%	18.7%	#DIV/0!	22.7%
処理量合計(⑥)／全体量(12,707t)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.1%	28.2%	20.4%	15.3%	13.5%	82.5%	17.4%	100.0%
掘削量(m³)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	385	2,130	1,342	1,275	2,261	7,393	-	
密度(t/m³)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.68	1.68	1.94	1.83	1.74	1.79	-	

特殊前処理物等委託処理実績

特殊前処理物等委託処理実績 ⑦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	210	91	301	0	301
-----------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	----	-----	---	-----

全体処理実績

処理計画(全体) ⑧ (①＋⑤)	0	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	77,785	81,211	88,429	78,941	76,760	957,416	11,336	
処理量合計 ⑨ (④＋⑥＋⑦)	14,639	12,042	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	70,995	71,599	80,654	71,055	72,903	79,281	892,634	18,420	911,054
合計(⑨)／処理計画量(⑧)	75.3%		88.8%	90.0%	87.0%	86.8%	97.7%	98.0%	105.4%	99.0%	92.1%	99.3%	80.4%	92.4%	103.3%	93.2%	162.5%	94.0%
合計(⑨)／全体量(911,054t)	2.9%		5.9%	5.9%	5.7%	6.0%	6.7%	7.7%	8.2%	7.8%	7.9%	8.9%	7.8%	8.0%	8.7%	98.0%	2.0%	100.0%
掘削量(m³)	315,159									41,762	57,566	54,880	48,122	43,761		561,250		

1) 直下土壌等処理には、重金属のみに汚染された覆土を含む。

2) 直下土壌等処理のうち、中間処理施設にて溶融処理を要するダイオキシン等が完了判定基準を超過した汚染土壌は中間処理の溶融炉処理計画及び実績に含む。

表 1-2 (平成29年度)

(単位:t)

区分	試運転～ 28年度 小計	29年度													累計(暫定) 平成29年6月12日 まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～ 6/12 小計	
処理計画 ①	901,462	5,232	6,104	3,590										11,336	
溶融炉処理計画	851,884	4,848	5,656	3,334										10,504	
(うち、直下土壌)	(3,886)	-	-	-										(0)	
キルン炉処理計画	47,780	384	448	256										832	
岩石等特殊前処理計画	1,798	-	-	-										0	
年間処理実績(中間処理) ②	876,640	6,513	7,373	2,318										16,203	892,844
溶融炉処理実績	825,333	6,048	6,872	2,205										15,126	840,459
(うち、直下土壌)	(538)	0	0	0										(0)	(538)
キルン炉処理実績	51,307	464	501	112										1,078	52,385
うち、仮置土処理実績	(24,622)	(0)	(0)	(0)										(0)	(24,622)
岩石等特殊前処理 ③	5,203	0	0	0										0	5,203
処理量合計 ④=②+③	881,843	6,513	7,373	2,318	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,203	898,046
溶融炉処理量／溶融炉処理計画量	96.9%	124.8%	121.5%	66.1%										144.0%	97.5%
キルン炉処理量／キルン炉処理計画量	107.4%	120.9%	111.9%	43.9%										129.5%	107.8%
処理量合計④／処理計画量①	97.8%	124.5%	120.8%	64.6%										142.9%	98.4%
処理量合計④／全体量(898,347t)	98.2%	0.7%	0.8%	0.3%										1.8%	100.0%
掘削量(m ³)	556,118	-	-	-										-	
密度(t/m ³)	1.46	-	-	-										-	

直下汚染土壌処理実績(セメント原料化処理に限る。)

処理計画 ⑤	55,954	0	0	0										0	
直下土壌等委託処理実績 ⑥	10,489	1,507	710	0										2,217	12,707
処理量合計(⑥)／処理計画量(⑤)	18.7%	-	-	-										#DIV/0!	22.7%
処理量合計(⑥)／全体量(12,707t)	82.5%	11.9%	5.6%	0.0%										17.4%	100.0%
掘削量(m ³)	7,393	-	-	-										-	
密度(t/m ³)	1.79	-	-	-										-	

特殊前処理物等委託処理実績

特殊前処理物等委託処理実績 ⑦	301	0	0	0										0	301
-----------------	-----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	-----

全体処理実績

処理計画(全体) ⑧ (①+⑤)	957,416	5,232	6,104	3,590										11,336	
処理量合計 ⑨ (④+⑥+⑦)	892,634	8,020	8,083	2,318										18,420	911,054
合計(⑨)／処理計画量(⑧)	93.2%	153.3%	132.4%	64.6%										162.5%	94.0%
合計(⑨)／全体量(911,054t)	98.0%	0.9%	0.9%	0.3%										2.0%	100.0%
掘削量(m ³)	561,250														

②中間処理施設処理分 搬出量、積込量及び輸送量

平成 29 年 3 月までの掘削現場からの搬出量、中間保管・梱包施設での積込量及び陸上・海上輸送量の実績は、下表2のとおりである。

表 2 (平成15～28年度)

(単位:t)

区分		15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	試運転～ 28年度 小計	累計 29年3月末まで
		試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)															
処理計画量		-	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	71,713	71,785	73,711	64,629	64,641	72,406	901,462	901,462
実績	掘削現場からの搬出量	16,831	10,420	46,900	51,020	49,800	53,746	62,910	70,002	71,506	70,438	72,190	77,396	64,242	72,807	77,676	867,884	867,884
	うち、仮置土搬出量	-	-	-	-	-	-	(1,850)	(4,147)	(5,010)	(4,438)	(5,130)	(3,260)	(4,817)	(2,090)	(4,585)	(35,327)	(35,327)
	積込量	15,253	11,213	49,917	51,870	50,090	53,191	60,354	69,351	71,858	69,496	72,787	78,199	63,979	69,718	81,005	868,281	868,281
	うち、仮置土積込量	-	-	-	-	-	-	(699)	(2,661)	(4,446)	(3,581)	(4,207)	(2,562)	(4,039)	(2,133)	(5,170)	(29,498)	(29,498)
	輸送量	15,147	11,200	49,820	51,817	50,031	53,281	60,346	69,284	71,956	69,535	72,739	78,038	64,237	68,925	80,778	867,134	867,134
	うち、仮置土輸送量	-	-	-	-	-	-	(698)	(2,660)	(4,557)	(3,578)	(4,204)	(2,557)	(4,019)	(2,122)	(5,135)	(29,529)	(29,529)

1) 掘削現場からの搬出量とは、掘削現場で廃棄物等をトラックに積み込む際に、トラクタショベルに取り付けた重量測定装置で計量したものである。

2) 積込量とは中間保管・梱包施設でダンプトラックに積込時にトラックスケールで計量したもので、輸送量とは中間処理施設の受入ピットのトラックスケールで計量したものである。

3) 仮置き土搬出量、積込量、輸送量とは、ロータリーキルン炉で高温熱処理(平成 21 年 2 月開始)するために搬出、積込、輸送した仮置き土の数値(量)である。

③直下土壌等 島外処理搬出量、輸送量、処理量等

平成 29 年 5 月までの掘削現場からの搬出量、積替施設からの輸送量、島外処理量、溶融処理対象となった量、非汚染土壌量、掘削対象外土壌量の実績は、下表のとおりである。

表 3 (平成24～28年度)

(単位:t)

区分				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	試運転～ 28年度 小計	29年度												累計 29年5月末 まで
										4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
計画範囲内	処理計画量			6,000	7,500	23,800	14,300	4,354	55,954	0	0									0	55,954	
	実績	島外処理対象土壌	掘削現場からの搬出量→島外処理確定量	528	0	1,590	837	309	3,264											0	3,264	
			輸送量	138	390	1,284	1,142	309	3,264										0	3,264		
			委託処理済量	104	424	1,284	1,142	309	3,264										0	3,264		
			焼却・溶融処理対象土壌量	0	0	0	0	0	0										0	0		
	掘削対象外土壌	非汚染土壌量	2,572	0	9,273	17,562	7,729	37,136											0	37,136		
		地下水浄化対象土壌量	0	0	0	0	0	0											0	0		
	計画範囲外	実績	島外処理対象土壌	掘削現場からの搬出量→島外処理確定量	3,698	0	1,534	633	3,578	9,443										0	9,443	
輸送量				1,158	2,540	1,314	804	3,627	9,443										0	9,443		
委託処理済量				543	3,155	1,314	804	1,410	7,226	1,507	710								2,217	9,443		
焼却・溶融処理対象土壌量			0	0	274	264	0	538										0	538			
掘削対象外土壌			地下水浄化対象土壌量	0	0	0	0	0	0											0	0	
計	実績	島外処理対象土壌	掘削現場からの搬出量→島外処理確定量	4,226	0	3,123	1,470	3,888	12,707										0	12,707		
			輸送量	1,296	2,930	2,598	1,946	3,936	12,707										0	12,707		
			委託処理済量	647	3,579	2,598	1,946	1,719	10,490	1,507	710								2,217	12,707		
		焼却・溶融処理対象土壌量		0	0	274	264	0	538										0	538		
		掘削対象外土壌	非汚染土壌量	2,572	0	9,273	17,562	7,729	37,136											0	37,136	
			地下水浄化対象土壌量	0	0	0	0	0	0											0	0	

- 1) 計画範囲内とは、公害等調整委員会の調査結果と、県が平成 23 年 3～6 月に行った測量結果に基づき推計した直下汚染土壌量である。
- 2) 計画範囲内の処理計画量について、平成 24 年度の 6,000 トンは密度 2.24 t/m^3 (サンプル調査結果)、平成 25 年度以降は処理実績から密度を、平成 25、26 年度は 1.68 t/m^3 、平成 27 年度は 9 月までは 1.77 t/m^3 、10 月以降平成 28 年 9 月までは 1.81 t/m^3 、平成 28 年 10 月以降は 1.83 t/m^3 としたものである。
- 3) 実績は、実測に基づく量である。
- 4) 輸送量とは、積替え施設に運搬する際にトラックスケールで計量したものである。
- 5) 島外委託処理済量とは、島外処理委託業者から処理完了の報告のあったものである。
- 6) 溶融処理対象量とは、溶融処理を要するダイオキシン等が完了判定基準を超過した汚染土壌である。
- 7) 計画範囲内の掘削対象外土壌のうち、完了判定の基準を満たした土壌量は非汚染土壌量に、また、地下水等の浄化対策で処理を要する VOCs が第二溶出量基準以下の汚染土壌は地下水浄化対象土壌量としている。

④特殊前処理物の処理量

平成 29 年 3 月までの特殊前処理物処理施設等における処理実績は、下表4のとおりである。

表 4 (平成15～28年度)

(単位:t)

区分		15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	試運転～ 28年度 小計	累計 29年3月末まで
		試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)															
処理 実績	岩石及び コンクリート(t)	9.00	62.75	199.91	74.80	20.60	16.32	80.48	103.51	104.06	266.76	251.36	677.15	962.72	835.14	1,271.37	4,935.93	4,935.93
	金属物(t)	1.16	0.00	18.73	6.61	2.98	1.11	12.33	3.75	8.40	8.99	5.73	7.94	9.59	20.92	11.87	120.11	120.11
	ケーブル屑(t)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	30.83	88.42	0.00	0.00	19.57	7.36	0.00	0.00	146.18	146.18
	ドラム缶(本)	2	142	102	105	59	0	142	11	56	86	111	96	227	273	45	1,457	1,457.00
	可燃物(t)	29.92	188.79	629.46	440.77	281.90	184.81	215.62	153.86	407.89	321.85	366.05	294.54	260.55	140.19	93.83	4,010.03	4,010.03
委託 処理 実績	低濃度 PCB 汚染物																	
	ラガーロープ(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30.72	43.51	74.23	74.23
	ロール状 廃棄物(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.47	0.10	2.57	2.57
	ラガーロープ (金属くず)(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21.34	21.34	0.00
	ロール状廃棄物(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.52	0.00	9.52	9.52
	空ドラム缶(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	167.15	25.53	192.68	192.68

1) ケーブル屑は、平成 20 年度までは、溶融不要物としてキルン炉で処理。平成 21 年度以降は、特殊前処理物処理施設で洗浄後、金属リサイクル業者において有効利用。平成 21 年及び 22 年度の処理量は、特殊前処理物処理施設で洗浄完了した時点で計上しており、平成 23 年度以降は、処理委託の完了報告を受けた時点で計上している。

2) 処理実績のドラム缶本数は、特殊前処理物処理施設で充填作業を行った2重ドラム缶の本数である。

3) 委託処理実績は、平成 27 年 8 月以降の処理量である。

⑤施設撤去等に伴う処理量

平成 29 年 5 月までの施設撤去等に伴う処理実績は、下表のとおりである。

表 5-1 (平成15～29年度)

(単位:t)

区分		平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	試運転～ 28年度 小計	29年度 4～5月 小計	累計 29年5月末まで
		試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)																
処理 実績	アスファルト殻(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	101.42	116.73	341.26	559.41	0.00	559.41
	コンクリート殻(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	231.87	360.32	592.19	0.00	592.19
	がれき類(トレンチドレー ン)(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	587.62	1,940.34	2,527.96	0.00	2,527.96
	シート類(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	79.17	16.28	95.45	0.00	95.45
	フレコン袋(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45.30	0.00	45.30	0.00	45.3
	単管(t)	有効利用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.06	2.84	11.90	0.00	11.90
	空きドラム缶(300lオーバー・ ラム)(t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.18	10.18	0.00	0.00

1)アスファルト殻は平成 27 年 1 月以降、コンクリート殻は平成 28 年 1 月以降の処理量である。

2)シート類、フレコン袋、単管は、平成 27 年 8 月以降の処理量である。

3)がれき類(トレンチドレーン)は平成 28 年 3 月以降の処理量である。

表 5-2 (29年度)

(単位:t)

区分		平成15年度		試運転～ 28年度 小計	29年度													累計 29年5月末まで
		試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～5月 小計	
処理 実績	アスファルト殻(t)	—	—	559.41	—	—											0.00	559.41
	コンクリート殻(t)	—	—	592.19	—	—											0.00	592.19
	がれき類(トレンチドレー ン)(t)	—	—	2,527.96	—	—											0.00	2,527.96
	シート類(t)	—	—	95.45	—	—											0.00	95.45
	フレコン袋(t)	—	—	45.30	—	—											0.00	45.3
	単管(t)	有効利用	—	—	0.00	—	—										0.00	0.00
			—	—	11.90	—	—										0.00	11.90
	空きドラム缶(300lオーバー・ ラム)(t)	—	—	10.18	—	—											0.00	0.00

⑥副成物の有効利用量

平成 29 年 5 月までの副成物の発生量及び販売量など有効利用の実績は、下表6－1及び6－2のとおりである。

表 6－1 （平成15～28年度）

（単位:t）

区 分			15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	試運転～ 28年度 小計	29年度 4～5月 小計	累計 29年5月 末まで
			試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)																
実績	鉄	発生量	10.0	6.2	305.7	323.2	345.5	321.3	368.4	546.1	672.8	643.9	613.3	625.5	661.3	538.0	322.1	6,303.3	52.5	6,355.8
		販売量	9.8	0.0	312.1	296.8	333.8	353.3	366.5	383.7	517.6	444.5	423.5	525.3	620.0	488.0	35.0	5,109.9	0.0	5,109.9
	銅	発生量	161.9	111.1	404.8	450.4	625.7	518.6	492.2	608.6	790.2	850.6	966.4	1,070.9	1,542.5	937.0	593.2	10,124.1	86.3	10,210.4
		販売量	161.9	0.0	505.8	457.3	628.9	507.3	502.3	598.7	741.6	781.9	904.6	955.3	1,376.4	850.7	478.5	9,451.2	0.0	9,451.2
	アルミ	発生量	31.0	57.1	48.3	58.1	58.1	215.1	232.3	409.2	291.4	418.4	494.8	487.7	1,266.3	1,310.3	253.6	5,631.7	0.0	5,631.7
		再選別除去量	0.0	0.0	0.0	0.0	158.5	107.7	38.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1,094.6	1,671.4	1,591.8	957.7	5,619.9	0.0	5,619.9
		内 鉄（強磁性）	—	—	—	—				—	—	—	—	158.1	149.5	110.5	79.2		0.0	
		鉄（弱磁性）	—	—	—	—				—	—	—	—	30.2	42.2	37.8	32.0		0.0	
		スラグ	—	—	—	—				—	—	—	—	906.3	1,479.7	1,443.6	843.6		0.0	
		再選別アルミ量	—	—	—	—				—	—	—	—	40.7	40.9	29.2	19.4		0.0	
		販売量	30.5	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	43.2	28.9	0.0	0.0	0.0	32.8	39.6	31.5	20.2	242.3	0.0	242.3
	溶融飛灰	発生量	587.0	593.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	2,501.3	2,662.2	2,377.9	2,212.6	2,314.8	2,218.2	31,547.7	453.8	32,001.5
		処理量	587.0	593.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	2,501.3	2,662.2	2,377.9	2,212.6	2,314.8	2,218.2	31,547.7	453.8	32,001.5
	溶融スラグ	発生量	1,942.5	9,152.0	32,398.5	34,705.8	32,114.4	31,428.2	30,751.4	34,851.1	33,842.6	34,708.6	33,949.5	38,016.1	34,784.6	38,311.0	41,206.1	462,162.4	8,559.3	470,721.7
		用 無垢構造物用生コン	0.0	0.0	13,852.8	30,913.3	33,326.5	24,547.9	26,565.5	27,721.4	26,393.3	23,661.8	30,875.9	31,161.4	27,167.5	23,423.3	20,670.0	340,280.6	2,441.5	342,722.1
		造 コンクリート二次製品	0.0	0.0	2,391.9	1,159.8	4,337.7	2,462.4	2,976.2	3,555.5	2,794.4	2,932.8	3,013.9	2,390.7	1,921.3	1,378.4	1,577.2	32,892.2	311.8	33,204.0
		合計販売量	0.0	0.0	16,244.7	32,073.1	37,664.2	27,010.3	29,541.7	31,276.9	29,187.7	26,594.6	33,889.8	33,552.1	29,088.8	24,801.7	22,247.2	373,172.8	2,753.3	375,926.1
		処理量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,503.8	385.4	3,334.4	5,223.6	0.0	5,223.6
	粗大スラグ （粗大スラグの発生量は、溶融スラグの発生量に含まれる。）	発生量	—	—	—	—	1,068.6	2,322.9	5,977.5	6,590.8	5,471.9	5,779.8	5,681.7	7,983.9	11,861.7	13,563.5	23,794.4	90,096.7	2,569.8	92,666.5
		販売量	—	—	—	—	(1,068.6)	(2,272.9)	(4,654.7)	(4,664.2)	(3,845.1)	(4,609.2)	(3,146.6)	(6,277.1)	(0)	(0)	(0)	(30,538.4)	(0)	(30,538.4)
		処理量	—	—	—	—	—	—	—	1,993.1	2,771.0	1,179.8	1,946.1	1,839.3	11,199.4	13,031.5	26,072.8	60,033.0	852.2	60,885.2
	シルト状スラグ	発生量	—	—	—	—	159.1	1,400.0	3,073.9	4,552.4	5,093.3	4,037.9	3,657.0	3,754.0	4,447.9	4,382.3	3,300.8	37,858.6	752.1	38,610.7
		処理量	—	—	—	—	0.0	1,400.1	2,467.3	4,343.3	4,698.1	3,961.7	3,545.2	3,058.6	4,101.3	3,741.0	2,874.4	34,191.0	421.1	34,612.1
	清掃ダスト	発生量	—	—	—	—	88.2	79.5	175.4	82.0	95.6	61.8	69.3	62.5	54.1	56.5	56.2	881.1	0.0	881.1
		処理量	—	—	—	—	0.0	167.7	96.8	126.7	129.5	61.8	41.7	43.2	46.2	58.3	107.8	879.7	0.0	879.7
	仮置土	発生量	—	—	—	—	—	—	621.0	2,690.0	4,410.4	3,633.5	4,095.9	2,564.6	4,157.4	2,093.4	630.3	24,896.5	0.0	24,896.5
		処理量	—	—	—	—	—	—	—	2,961.9	4,590.5	3,762.6	4,008.0	2,531.6	5,357.8	5,076.6	5,223.0	33,512.0	0.0	33,512.0

- 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売。アルミの再選別除去量とは、1次発生したアルミの純度を上げるために、平成 18 年度～20 年度はバッチ処理により、平成 25 年度からはアルミ選別設備（試運転期間を含む）により、アルミと鉄とスラグに再選別し、除去した鉄とスラグの総量である。なお、再選別除去量について、平成 18 年度～20 年度は鉄とスラグに分けた内訳量を統計していなかったが、25 年 7 月からは鉄とスラグを分けて統計している。また、鉄については、平成 25 年 9 月 19 日以降は強磁性と弱磁性に分けて統計しているが、それ以前（7 月～9 月 18 日）は、強磁性にまとめて記載している。再選別した鉄はそのまま副成物（鉄）として取扱い、スラグは、平成 18 年度～20 年度は再溶融処理、平成 25 年度からはセメント原料として有効利用した。
- 溶融スラグは、上記販売量のほか、試験研究のために 2, 8 5 8 . 8 トン（試運転～平成 29 年 5 月）使用した。
- 溶融スラグの処理量とは、**安全性検査又は品質検査で基準を満たさない**スラグを粗大スラグと混合し、セメントの原料として有効利用した量である。
- 粗大スラグ、シルト状スラグ、清掃ダストの発生量・販売量・処理量は、処理量対策として再溶融を止め、有効利用を開始した以降の数値を記載している。
- 粗大スラグは、混合比を発生量に対してその 7 5 %、5 0 %、2 5 %混合したアルカリシリカ反応性試験を実施し、合格したものを平成 18 年 10 月から平成 26 年 3 月まで有効利用しており、その販売量は溶融スラグの合計販売量の（内数）である。なお、水分の蒸発等により、発生量と販売量・処理量の計は合致しない。
- 粗大スラグの処理量とは、製砂スラグに混合できない粗大スラグを製錬珪砂代替品（平成 21 年度）やセメントの原料（平成 22 年度～）として有効利用した量である。
- 仮置土の処理量とは、ロータリーキルン炉により高温熱処理した仮置土をセメントの原料として有効利用した量である。
- 不溶化ダストは平成 19 年 10 月から溶融飛灰と一緒に処理しており、その発生量・処理量とも溶融飛灰に含まれる。

表 6-2 (平成29年度)

(単位:t)

区 分			試運転～ 28年度 小計	29年度												累計 29年5月 末 まで	
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4～5月 小計
実績	鉄	発生量	6,303.3	24.3	28.3										52.5	6,355.8	
		販売量	5,109.9	0.0	0.0										0.0	5,109.9	
	銅	発生量	10,124.1	38.9	47.4										86.3	10,210.4	
		販売量	9,451.2	0.0	0.0										0.0	9,451.2	
	アルミ	発生量	5,631.7	0.0	0.0										0.0	5,631.7	
		再選別除去量	5,619.9	0.0	0.0										0.0	5,619.9	
		内 訳	鉄(強磁性)		0.0	0.0										0.0	
			鉄(弱磁性)		0.0	0.0									0.0		
			スラグ		0.0	0.0									0.0		
		再選別アルミ量	0.0		0.0									0.0			
		販売量	242.3	0.0	0.0										0.0	242.3	
		溶融飛灰	発生量	31,547.7	207.5	246.3										453.8	32,001.5
	処理量		31,547.7	207.5	246.3										453.8	32,001.5	
	溶融スラグ	発生量	462,162.4	3,878.4	4,680.9										8,559.3	470,721.7	
		用 無筋構造物用生コン	340,280.6	850.4	1,591.1										2,441.5	342,722.1	
		途 コンクリート二次製品	32,892.2	140.7	171.1										311.8	33,204.0	
		合計販売量	373,172.8	991.1	1,762.2										2,753.3	375,926.1	
		処理量	5,223.6	—	—										0.0	5,223.6	
	粗大スラグ (粗大スラグの販売量は、溶融スラグの販売量に含まれる。)	発生量	90,096.7	1,292.1	1,277.7										2,569.8	92,666.5	
		販売量	(30,538.4)	(0)	(0)										(0)	(30,538.4)	
		処理量	60,033.0	852.2	0.0										852.2	60,885.2	
	シルト状スラグ	発生量	37,858.6	327.3	424.7										752.1	38,610.7	
		処理量	34,191.0	192.3	228.9										421.1	34,612.1	
	清掃ダスト	発生量	881.1	0.0	0.0										0.0	881.1	
		処理量	879.7	0.0	0.0										0.0	879.7	
	仮置土	発生量	24,896.5	0.0	0.0										0.0	24,896.5	
		処理量	33,512.0	0.0	0.0										0.0	33,512.0	

⑦高度排水処理施設の処理量

平成 29 年 5 月までの高度排水処理施設の処理実績は、下表7－1及び7－2のとおりである。

表 7 －1 （平成15～29年度）

（単位：m³）

区分		15年度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	試運転～ 28年度 小計	29年度 4～5月 小計	累計 29年5月末まで
		試 運 転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)																
計画量		10,075	14,910	22,490	22,945	22,165	22,360	22,360	20,345	21,905	21,905	27,040	26,720	27,360	27,040	27,040	336,660	4,560	341,220
実績	処理量	9,660	13,089	22,807	23,074	24,105	23,979	23,073	23,878	23,623	25,519	27,188	26,264	27,557	29,130	27,978	350,924	2,660	353,585
	海域への放流量	9,515	12,426	20,858	20,054	22,676	21,563	20,406	20,509	20,430	24,288	24,203	23,346	24,503	27,050	25,806	317,633	2,576	320,209
	散水等への利用量	145	663	1,949	3,020	1,429	2,416	2,667	3,369	3,193	1,231	2,985	2,918	3,054	2,080	2,172	33,291	84	33,376

1) 散水等への利用量とは、処理水を場内の粉塵抑制のための散水や特殊前処理物の洗浄用水としての利用量をいう。

2) 高度排水処理施設の処理量は平成 23 年 11 月 18 日以降、65 m³/日から 80 m³/日に変更した。

表 7 －2 （平成29年度）

（単位：m³）

区分		試運転～ 28年度 小計	29年度												累計 29年5月末まで	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4～5月 小計
計画量		336,660	2,080	2,480	2,000	2,480	2,480	2,400	2,480	2,400	2,200	2,200	1,360	2,480	4,560	341,220
実績	処理量	350,924	1,715	946											2,660	353,583
	海域への放流量	317,633	1,665	911											2,576	320,209
	散水等への利用量	33,291	50	35											84	33,376

1) 2 月の計画量は、定期点検整備のため少なくなっている。

⑧凝集膜分離装置の処理量

平成 29 年 5 月までの凝集膜分離装置の処理実績は、下表のとおりである。

表 8（平成23～29年度）

（単位：m³）

区分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度												累計 29年5月末まで	
								4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4～5月 小計
計画量		1,970	5,688	3,850	10,400	8,500	8,500	0	1,250	1,250	1,250	500	1,250	1,250	750	500	0	0	500	1,250	40,158
実績	処理量(西海岸放流量)	2,223	5,690	8,278	1,306	4,625	4,813	0	0											0	26,935

1)平成 24 年 2 月 15 日から稼働。

⑨活性炭吸着塔の処理量

平成 29 年 5 月までの活性炭吸着塔の処理実績は、下表のとおりである。

表 9（平成25～29年度）

（単位：m³）

区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度												29年度 4～5月 小計	累計 29年5月末まで
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～5月 小計	
計画量		—	12,000	13,000	13,000	0	0	4,000	0	0	5,000	4,000	0	0	0	0	0	0	38,000
実績	処理量(西海岸放流量)	1,192	2,890	5,911	9,511	0	0											0	19,504

1)平成 26 年 3 月 19 日から稼働。

⑩加圧浮上装置の処理量

平成 29 年 5 月までの加圧浮上装置の処理実績は、下表のとおりである。

表 10（26～29年度）（単位：m³）

区分		26年度	27年度	28年度	29年度												累計 29年5月末 まで	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4～5月 小計
実績	処理量	4.5	800.8	2,741.1	0.0	0.0											0.0	3,546.4
	うち、高度排水処理施設の既 設処理工程の前処理量	(4.5)	(106.4)	(22.8)	(0.0)	(0.0)											(0.0)	(133.7)

1) 平成 27 年 2 月 10 日から稼働。

表 11

平成 29 年 7 月 8 日までのモニタリング等の計画及び実績は、下表のとおりである。

表 11

項目				29年度																				備考				
				4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月			2月		3月	
				計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		計画	実績	計画	実績
豊島	環境計測	沈砂池1	放流水水質												○												放流の都度実施。年1回全項目	
		沈砂池2	放流水水質	○						○				○						○							年1回全項目	
		高度排水処理施設	排水口水質														○											
		掘削・運搬	敷地境界 大気汚染															○										気象については、必要に応じて適宜実施
			敷地境界 騒音															○										
			敷地境界 振動															○										
			敷地境界 悪臭															○										
	地下水	◎	○	◎	○	◎	○	○		◎		○		◎		◎		◎		○		◎		○		○は水位測定、◎は合わせて水質分析も実施		
	周辺環境モニタリング	水質汚濁			○	○					○					○				○							水質は年4回、底質は年1回（夏季）	
		生態系					○															○						
	作業環境測定	掘削・運搬	常時監視	⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		
			定期監視			◎				⊖				⊖		◎		⊖				⊖			⊖		⊖	○はダイオキシン類、粉塵、◎は合わせて重金属等も実施
			個人暴露量			⊖				⊖				⊖		⊖		⊖		⊖		⊖			⊖		⊖	
			騒音																									必要に応じて実施
中間保管・梱包施設		常時監視	⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖		⊖			
		騒音	⊖											⊖														
高度排水処理施設	常時監視																			○						定期点検時（年1回程度）		
直島	環境計測	中間処理施設	敷地境界 大気汚染							○																		
			煙突 （ばいじん）			○	●			○				○				○								○		
			煙突 （CO）																									
			煙突 （ダイオキシン類）			○ ₂	●			○ ₁				○								○ ₂				○ ₁		○ ₁ :1号炉煙突、○ ₂ :2号炉煙突
			水質汚濁							○																		大雨が長く続き、雨水を海域へ排出する場合（年1回）
			敷地境界 騒音・振動・悪臭					●																				必要に応じて実施
			最大着地点 大気汚染											○														環境計測の敷地境界（最大着地点）と兼ねる
	周辺環境モニタリング	排水口 水質・底質									○																	
		最大着地点 土壌																									数年（3年を目安）に1回、前回は25年度	
		作業環境測定	中間処理施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○		○		○		○		○	
	定期監視									○										○								
	常時監視 （排水処理施設）																				○						定期点検時（年1回程度）	
	騒音												○										○					
	輸送	周辺環境モニタリング		海域 水質汚濁								○															水質、底質それぞれ、年1回	

実績欄凡例

○：分析済

●：分析中

△：異常時の対応として
実施、分析済

▲：異常時の対応として
実施、分析済

1) 5月の分析中(中間処理施設の煙突(ばいじん)、煙突(ダイオキシン類)、敷地境界 騒音、振動、悪臭)については、分析に通常2か月程度の日数を要しており、5月下旬に検体を採取したため。

3. 薬品、ユーティリティの使用実績

平成 29 年 5 月までの薬品、ユーティリティの使用実績は、下表12-1-1、12-1-2、12-2-1、12-2-2、12-3-1及び12-3-2のとおりである。

表 12-1-1 掘削・運搬、中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成15～29年度)

区分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	15年度～ 28年度 小計	29年度 1～5月 小計	累計 29年5月末まで
		本格稼働後 (9月18日 ～3月)																
掘削・運搬	生石灰(kg)	300,000	1,005,000	885,000	795,000	785,000	1,380,000	1,820,000	1,670,000	1,480,000	1,525,000	2,075,000	1,425,000	1,882,000	1,577,000	18,604,000	0	18,604,000
	炭酸カルシウム(kg)	930,000	4,200,000	3,720,000	4,095,000	4,695,000	3,123,000	3,060,000	1,700,000	3,440,000	3,685,000	4,380,000	7,940,000	10,435,000	12,325,000	67,728,000	0	67,728,000
	酸化第二鉄(kg)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,470,000	1,470,000	0	1,470,000
	電力量(kwh)	1,688,076	1,726,776	1,570,692	1,535,496	1,537,608	1,510,548	1,492,704	1,560,504	1,643,496	1,624,740	1,625,496	1,574,940	1,622,928	1,259,100	21,973,104	215,280	22,188,384
中間処理	炭酸カルシウム(kg)	722,933	3,203,644	3,329,034	2,909,340	3,939,552	2,828,038	4,282,999	4,822,952	5,133,449	5,646,260	4,913,018	1,806,485	896,403	1,452,321	45,886,428	767,144	46,653,572
	消石灰(kg)	247,587	880,309	600,619	543,626	555,081	886,134	1,117,691	1,029,852	1,013,929	1,079,730	1,162,609	1,113,470	1,186,558	915,829	12,333,024	187,207	12,520,231
	活性炭(kg)	237	2,021	8,776	16,299	25,657	28,982	15,829	15,831	15,240	15,645	16,840	6,814	6,802	6,854	181,827	1,193	183,020
	PAC(kg)	21,508	79,570	85,710	126,550	100,870	134,230	143,100	166,750	132,930	127,190	155,930	129,770	141,310	136,310	1,681,728	22,680	1,704,408
	重油(kℓ)	2,789	9,520	11,934	13,177	9,924	11,950	12,335	11,694	10,774	11,443	13,279	13,926	15,203	17,931	165,880	3,333	169,212
	うち、溶融炉(kℓ)	2,730	9,056	11,540	12,831	9,473	11,507	11,474	10,731	9,929	10,493	12,230	12,924	14,282	16,841	156,042	3,128	159,170
	うち、キルン炉(kℓ)	59	464	394	346	451	443	861	963	845	950	1,049	1,003	921	1,090	9,838	205	10,043
	電力(MWh)	9,258	19,909	20,087	19,976	19,488	19,750	19,910	19,972	20,126	19,906	20,245	19,785	19,102	18,327	265,840	3,006	268,847
	上水(m3)	15,246	55,748	69,303	79,405	65,865	65,790	84,987	71,731	72,628	82,405	87,768	85,864	86,396	85,799	1,008,935	15,540	1,024,475
	純水(t)	16,528	63,164	68,996	65,869	66,120	73,256	65,155	73,835	51,770	62,388	58,542	54,387	48,273	45,634	813,917	8,980	822,897
	外部蒸気送り量(t)	15,083	59,192	64,522	61,586	58,954	64,505	60,452	64,627	56,004	61,159	56,297	52,038	45,762	43,051	763,231	8,394	771,624

- 1) 生石灰、炭酸カルシウムなどの主な薬品や重油、電力などのユーティリティの原単位(廃棄物処理量1トン当たりの実績値)は、別紙に示している。
- 2) 掘削・運搬の電力については、平成 15 年 4 月からの中間保管・梱包施設/特殊前処理物処理施設の使用電力量であり、凝集膜分離装置(平成 24 年 2 月～)及び活性炭吸着塔(平成 26 年 3 月～)の電力を含む。
- 3) 平成 18 年1月から、中間処理施設の排ガス中のダイオキシン類対策として活性炭の噴霧を行っているため、活性炭の使用量が急増している。
- 4) PACについては、自動計測器がなく、毎月購入し在庫を持たないことから、購入量を使用量として記載している。
- 5) H22.6.14～H22.8.7 の間、上水使用に係る積算流量計故障により、上水使用量(作業・稼働情報)が計測不能となっている。

表 12-1-2 掘削・運搬、中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成29年度)

区分		15年度～ 28年度 小計	29年度												累計 29年5月末まで
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
掘削・運搬	生石灰(kg)	18,604,000	0	0										0	18,604,000
	炭酸カルシウム(kg)	67,728,000	0	0										0	67,728,000
	酸化第二鉄(kg)	1,470,000	0	0										0	1,470,000
	電力量(kwh)	21,973,104	111,468	103,812										215,280	22,188,384
中間処理	炭酸カルシウム(kg)	45,886,428	371,592	395,552										767,144	46,653,572
	消石灰(kg)	12,333,024	80,849	106,358										187,207	12,520,231
	活性炭(kg)	181,827	557	636										1,193	183,020
	PAC(kg)	1,681,728	10,040	12,640										22,680	1,704,408
	重油(kℓ)	165,880	1,580	1,753										3,333	169,212
	うち、熔融炉(kℓ)	156,042	1,483	1,645										3,128	159,170
	うち、キルン炉(kℓ)	9,838	97	108										205	10,043
	電力(MWh)	265,840	1,457	1,550										3,006	268,847
	上水(m3)	1,008,935	6,679	8,861										15,540	1,024,475
	純水(t)	813,917	4,421	4,559										8,980	822,897
	外部蒸気送り量(t)	763,231	4,132	4,261										8,394	771,624

表 12-2-1 中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成15～29年度)
(下表の薬品については、年間に数回しか使用していないため、購入量を使用量とみなしている。)

1) ボイラー薬品三種と HCl 試薬については、平成17年度から薬品の原料を購入(下段)し、希釈して使用している。

区分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	15年度～ 28年度 小計	29年度 1～5月 小計	累計 29年5月末まで
		本格稼働後 (9月18日 ～3月)																
中間処理	苛性ソーダ (kg)	80,790	261,260	180,820	80,530	60,320	80,360	60,200	41,180	20,120	20,450	41,060	102,520	779,290	1,484,440	3,293,340	311,580	3,604,920
	次亜塩素酸ソーダ(kg)	400	800	200	500	1,400	1,000	1,400	720	1,760	600	2,600	2,400	2,800	1,200	17,780	0	17,780
	高分子凝集剤(kg)	550	1,600	1,450	2,150	1,300	1,950	5,100	2,200	5,500	4,250	4,900	2,650	2,600	2,500	38,700	300	39,000
	ボイラー清缶剤(kg) 下段は <原料名第3リン酸ソーダ>	100	500	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	800	—	800
		—	—	50	25	25	25	25	25	0	0	50	50	50	75	400	0	400
	ボイラー脱酸素剤(kg) 下段は <原料名ヒドランジヒドラー>	400	1,200	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,800	—	1,800
		—	—	80	160	280	280	240	360	80	240	200	60	80	120	2,180	0	2,180
	ボイラー満水保缶剤(kg) 下段は <原料名オキシノンM-608>	100	400	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	500	—	500
		—	—	—	112	128	128	192	224	112	192	128	64	96	128	1,504	0	1,504
	冷却水薬品 (プラント機器)(kg)	700	1,400	1,000	1,200	2,000	1,400	1,600	1,000	1,600	1,600	1,200	2,400	2,000	1,800	20,900	200	21,100
	冷却水薬品 (溶融炉)(kg)	1,400	4,400	3,200	3,200	1,300	1,200	1,000	400	1,800	1,400	2,000	4,000	3,600	3,600	32,500	1,200	33,700
	HCl試薬(ℓ) <原料名フタル酸水素カリウム>	300	150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	450	—	450
		—	—	10	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50

表 12-2-2 中間処理施設 薬品、ユーティリティ使用実績（平成29年度）
（下表の薬品については、年間に数回しか使用していないため、購入量を使用量とみなしている。）

区分		15年度～ 28年度 小計	29年度												累計 29年5月末まで	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4～5月 小計
中間処理	苛性ソーダ(kg)	3,293,340	151,070	160,510											311,580	3,604,920
	次亜塩素酸ソーダ(kg)	17,780	0	0											0	17,780
	高分子凝集剤(kg)	38,700	0	300											300	39,000
	ボイラー清缶剤(kg)	800	—	—											—	800
	下段は　＜原料名第3リン酸ソーダ＞	400	0	0											0	400
	ボイラー脱酸素剤(kg)	1,800	—	—											—	1,800
	下段は　＜原料名ヒドラジンヒドラード＞	2,180	0	0											0	2,180
	ボイラー滴水保缶剤(kg)	500	—	—											—	500
	下段は　＜原料名オキシノンM-608＞	1,504	0	0											0	1,504
	冷却水薬品 （プラント機器）(kg)	20,900	200	0											200	21,100
	冷却水薬品 （溶融炉）(kg)	32,500	600	600											1,200	33,700
	HCl試薬(ℓ)	450	—	—											—	450
	＜原料名フタル酸水素カリウム＞	50	0	0											0	50

表 12—3—1 高度排水処理施設、凝集膜分離装置、活性炭吸着塔 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成15～29年度)

区分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	15年度～ 28年度 小計	29年度 4～5月 小計	累計 29年5月末まで
高度排水 処理施設	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	18,930	24,130	15,850	17,860	18,060	17,770	20,310	15,680	17,830	17,550	17,870	14,235	12,955	17,670	246,700	1,660	248,360
	酸(硫酸) (ℓ)	9,330	10,895	11,772	6,940	10,120	7,025	7,570	7,625	6,210	5,825	6,540	7,625	6,870	5,740	110,087	560	110,647
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	32,375	37,905	27,860	28,305	29,460	28,980	29,320	29,325	29,405	28,785	28,245	23,525	20,875	19,805	394,170	1,885	396,055
	リン酸 (ℓ)	822	731	325	129	299	228	168	33	29	21	254	174	272	407	3,892	41	3,933
	凝集助剤(AP-636) (kg)	7.6	8.6	7.3	6.2	7.3	6.3	8.0	7.0	4.7	6.7	6.2	6.2	7.0	6.8	95.9	0.8	96.7
	メタノール (ℓ)	10,190	14,290	10,220	6,120	7,090	3,460	4,680	6,390	3,770	3,630	4,500	7,150	6,320	6,500	94,310	730	95,040
	次亜塩素酸ソーダ (ℓ)	118.5	157.0	121.0	54.0	41.0	100.0	128.0	167.0	143.0	195.0	80.5	118.5	168.0	179.5	1,771.0	19.0	1,790.0
	脱水助剤(CP-360H) (kg)	285	330	135	135	180	180	285	135	195	195	255	135	135	195	2,775	30	2,805
	消泡剤(アワセセンサー) (kg)	32.4	66.2	55.6	20.0	17.6	18.4	14.0	17.6	16.4	16.4	24.0	13.8	7.2	6.6	326.2	0.2	326.4
	活性炭(水用) (kg)	1,290	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	34,830	0	34,830
	電力量 (kwh)	766,107	774,317	654,346	647,530	641,025	627,241	631,121	617,767	621,631	608,083	593,285	577,003	614,908	607,080	8,981,444	76,326	9,057,770
凝集膜 分離装置 (平成24年 2月稼働)	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	14	2,246	4,688	985	3,193	5,118	16,244	0	16,244
	酸(硫酸) (ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	0	53	32	1	0	0	86	0	86
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	—	—	—	—	—	—	—	—	303	4,863	6,594	1,256	4,498	6,265	23,779	0	23,779
	凝集助剤(AP-636) (kg)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	35	3,655	12,550	16,240	0	16,240
活性炭吸着 塔(平成26年 3月稼働)	活性炭 (kg)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1,300	3,050	3,050	7,400	0	7,400

表 12-3-2 高度排水処理施設、凝集膜分離装置、活性炭吸着塔 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成29年度)

区分		15年度～ 28年度 小計	29年度												累計 29年5月末まで	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4～5月 小計
高度排水 処理施設	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	246,700	1,160	500											1,660	248,360
	酸(硫酸) (ℓ)	110,087	365	195											560	110,647
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	394,170	1,220	665											1,885	396,055
	リン酸 (ℓ)	3,892	27	14											41	3,933
	凝集助剤(AP-636) (kg)	95.9	0.5	0.3											0.8	96.7
	メタノール (ℓ)	94,310	490	240											730	95,040
	次亜塩素酸ソーダ (ℓ)	1,771.0	12.0	7.0											19.0	1,790.0
	脱水助剤(CP-360H) (kg)	2,775	15	15											30	2,805
	消泡剤(アワセンサー) (kg)	326.2	0.0	0.2											0.2	326.4
	活性炭(水用) (kg)	34,830	0	0											0	34,830
	電力量 (kwh)	8,981,444	41,430	34,897											76,326	9,057,770
凝集膜 分離装置 (平成24年 2月稼働)	アルカリ剤(苛性ソーダ) (ℓ)	16,244	0	0											0	16,244
	酸(硫酸) (ℓ)	86	0	0											0	86
	凝集剤(塩化第二鉄) (ℓ)	23,779	0	0											0	23,779
	凝集助剤(AP-636) (kg)	16,240	0	0											0	16,240
活性炭吸着 塔(平成26年 3月稼働)	活性炭 (kg)	7,400	0	0											0	7,400

1) 活性炭吸着塔の活性炭は、入れ替え時点の量である。

4. 豊島廃棄物等の掘削実績(体積)について

平成 29 年 3 月までの廃棄物等の掘削実績は、下表のとおりである。

表 13 （平成15～28年度）(単位:m³)

区分	15年度～ 22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	15年度～ 28年度 累計
掘 削 量	315,159	41,762	57,181	52,750	46,780	42,486	46,669	602,787
うち、公害等調整委員会調 査結果外	14,944	3,992	7,895	11,399	8,582	8,503	—	55,315

- 1) 公害等調整委員会調査結果外とは、公害等調整委員会調査の廃棄物等区域以外の周辺部廃棄物等、つぼ掘り廃棄物等の量であり、平成 22 年度までの年度ごとの把握は困難なことから、平成 15～22 年度に一括掲載している。
- 2) 平成 22 年度末の周辺廃棄物等掘削量(18,721 m³)のうち、H測線東側から掘削した廃棄物量(3,777 m³)は、平成 23 年度に掘削したことが判明したため、平成 23 年度の掘削量とした。

5. 見学者数について

平成 29 年 5 月までの豊島、直島それぞれの見学者の実績は、下表のとおりである。

表 14(単位:人)

区分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	15年度～ 28年度 小計	29年度														累計 29年5月末 まで
		本格稼働後 (9月18日 ～3月)															4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～5月 小計		
実績	豊島側	3,514	5,489	3,240	2,605	1,922	1,876	1,806	1,561	1,754	1,776	1,914	1,593	1,795	2,071	32,916	140	55												195	33,111
	直島側	4,935	7,827	5,297	4,114	3,867	3,471	3,673	3,064	1,768	1,957	1,634	1,834	1,864	1,714	47,019	-	-											0	47,019	
	合計	8,449	13,316	8,537	6,719	5,789	5,347	5,479	4,625	3,522	3,733	3,548	3,427	3,659	3,785	79,935	140	55											195	80,130	

6. ひやり・ハット等の状況

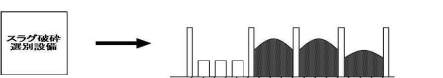
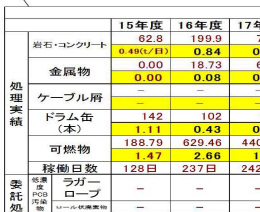
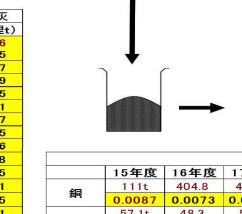
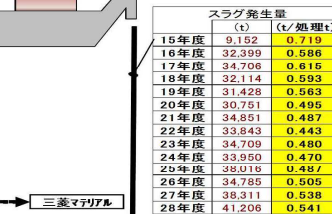
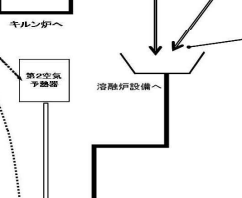
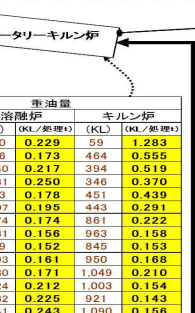
平成29年7月8日までのひやり・ハット等の報告は、下表のとおりである。(前回までの報告分を除く。)

番号	日 時	発生場所等	区 分	内 容	再発防止の対応等
1	H28. 8. 29	掘削現場	物損	処分地内において、場内整備の為に10t ダンプトラック及び軽トラック自動車を縦列駐車していた。作業を終えたので、10 t ダンプトラックを所定位置へ戻す為に後進したところ、後方に停車していた軽トラック自動車に気付かず接触してしまった。	・当日（平成28年8月29日）にミーティングにてKYK（危険予知活動）を実施した。 ・再発防止検討会及び安全教育を実施する。 ・停止車両を運転する前には、周囲の確認を徹底する。 ・死角になるような場所には駐車しないことを徹底する。 ・運転席に「周囲確認よいか!」「後方確認よいか!」の注意喚起を表示する。
2	H28. 11. 16	直島・中間処理施設	物損	中間処理施設プラットフォームにて、豊島廃棄物をピットに投入した後、洗車室に移動したコンテナダンプトラックが、スリップして壁に接触し、サイドミラー支柱を損傷させた。 原因は、路面でタイヤが滑ってしまい、車両がオーバーランしたことによる。	・洗車室内では車両がスリップする可能性があるため、運転を慎重に行うよう、全員に周知徹底した。 ・洗車室内で車両がスリップ又はオーバーランしてしまった際の安全対策として、洗車室内前方に車止めを設置した。 ・車両運転手に壁面が近いことを明瞭に示すため、反射シールの付いた三角コーンとバーを設置した。 ・車両停車位置の目安となる場所（運転席の横壁面）に、赤色のペイントを施した。
3	H28. 11. 24	直島・中間処理施設	物損	中間処理施設プラットフォームにて、コンテナダンプトラック内の豊島廃棄物を4番ピットに投入する為、ハンドルを調整しながら同ピットに後進させていた。 その際、4番ピット横の壁面（入口側）と、車両左後方のガード部を軽く接触させてしまった。 原因は、運転手がピット横壁面までの距離を見誤ってしまったことによる。	・4番ピットには、車両を誘導する為の補助線を設けているので、その線を目標にしながら、慎重に運転を行うよう、全員に周知徹底した。

4	H29. 2. 8	直島・中間処理施設	人身	投入ホッパー表面に付着した土状の廃棄物を除去するため、ホッパーに入り、グリズリーの櫛刃の上になり、スコップを使い作業をしていた。その際、作業に集中して足元が疎かになり、櫛刃の間に左足がはまり、その拍子にバランスを崩し左足が櫛刃にはまったまま転倒し、左足に体重が掛かり負傷した。	【設備】 ①粒度選別機下部シュート内部を明るくするため、棒状の照明を櫛刃の隙間から照らし、照明を確保した ②清掃し易い足場板のサイズに変更した。 【作業】 ①作業中の巡視は、所長、副所長、班長が行い、作業の指導を行う。定常作業時の治具の使用方法を再確認し、手順書の見直しを行う。 ②粒度選別機内部に清掃用の鉄棒を立て掛けられるように改善した。 【人】 ①手順書の教育は、手順書の説明だけで教育とするのではなく、作業前のKY時に所長もしくは班長が、作業内容と安全ポイントを理解しているか、問いかけKYを実施して確認する。
---	-----------	-----------	----	---	--

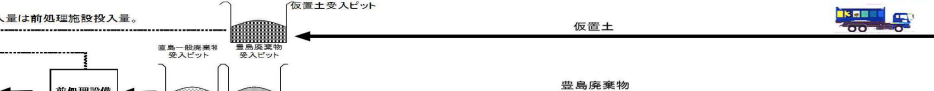
- ・平成15年度は、平成15年9月18日から平成16年3月31日までの処理実績
- ・網掛けは処理量1t当りの実績値

投入量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
生石灰	300t	1,005	885	795	785	1,380	1,820	1,670	1,480	1,525	2,075	1,425	1,882	1,577
	0.029	0.021	0.017	0.016	0.015	0.023	0.028	0.025	0.022	0.023	0.028	0.024	0.027	0.022
炭酸	930t	4,200	3,720	4,095	4,695	3,123	3,060	1,700	3,440	3,685	4,380	7,940	10,435	12,325
炭酸ウム	0.089	0.090	0.073	0.082	0.087	0.051	0.046	0.026	0.052	0.055	0.059	0.134	0.148	0.169



積込量 (t)		仮置土
15年度	11,213	—
16年度	49,917	—
17年度	51,870	—
18年度	50,090	—
19年度	53,191	—
20年度	60,354	(699)
21年度	69,351	(2,661)
22年度	71,858	(4,446)
23年度	69,496	(3,581)
24年度	72,787	(4,207)
25年度	78,199	(2,562)
26年度	63,979	(4,039)
27年度	69,718	(2,133)
28年度	81,005	(5,170)

	輸送量(t)	仮置土
15年度	11,200	—
16年度	49,820	—
17年度	31,817	—
18年度	30,031	—
19年度	33,281	—
20年度	30,346	(699)
21年度	69,284	(2,660)
22年度	71,956	(4,557)
23年度	69,535	(3,578)
24年度	72,739	(4,204)
25年度	78,038	(2,557)
26年度	64,237	(4,019)
27年度	68,925	(2,122)
28年度	80,778	(5,135)

[illegible]

遊戯カルシウム		
15年度	7231	0.0568 (イ/総推)
16年度	3,203.6	0.0580
17年度	3,329.0	0.0590
18年度	2,909.3	0.0538
19年度	3,939.6	0.0705
20年度	4,288.0	0.0455
21年度	4,283.0	0.0598
22年度	4,823.0	0.0632
23年度	5,139.4	0.0710
24年度	5,646.3	0.0781
25年度	4,133.0	0.0730
26年度	1,806.6	0.0282
27年度	896.4	0.0126
28年度	1,452.3	0.0191

	直下汚染土壌量(t)		
	島外委託 処理済量	その他 焼却・溶融 処理対象	地下水 浄化対象
24年度	647	0	0
25年度	3,579	0	0
26年度	2,598	274	0
27年度	1,946	264	0
28年度	1,719	0	0

[illegible]

		副成物発生量													
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
銅	16	404.8	450	625.7	518.6	492.2	701.9	702	850.6	966	1070.9	1542	937.0	893.2	
	0.0087	0.0073	0.0080	0.0116	0.0093	0.0079	0.0085	0.0104	0.0118	0.0134	0.0137	0.0224	0.0132	0.0078	
アルミニウム	57.1	48.3	58.1	58.1	215.1	232.3	409.2	291.4	418.4	494.8	487.7	1266.3	1310.3	253.6	
	0.0045	0.0009	0.0010	0.0011	0.0039	0.0037	0.0057	0.0038	0.0058	0.0068	0.0063	0.0184	0.0184	0.0034	

豊島廃棄物等処理事業 原単位表（その2）【平成29年度】

・ 網掛けは処理量1t当りの実績値

[illegible]

搬出量(t)		仮置土
4月	—	—
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

副成物発生量		鉄
	(t)	(t/処理t)
4月	24.3	0.00373
5月	28.3	0.00384
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

副成物発生量	仮置土処理物 (t)	(t/処理t)
4月	411.8	0.06323
5月	438.7	0.05950
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

ボイラー外部蒸気送り量		
	(t)	(t/処理t)
4月	4.132	0.634
5月	4.261	0.578
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

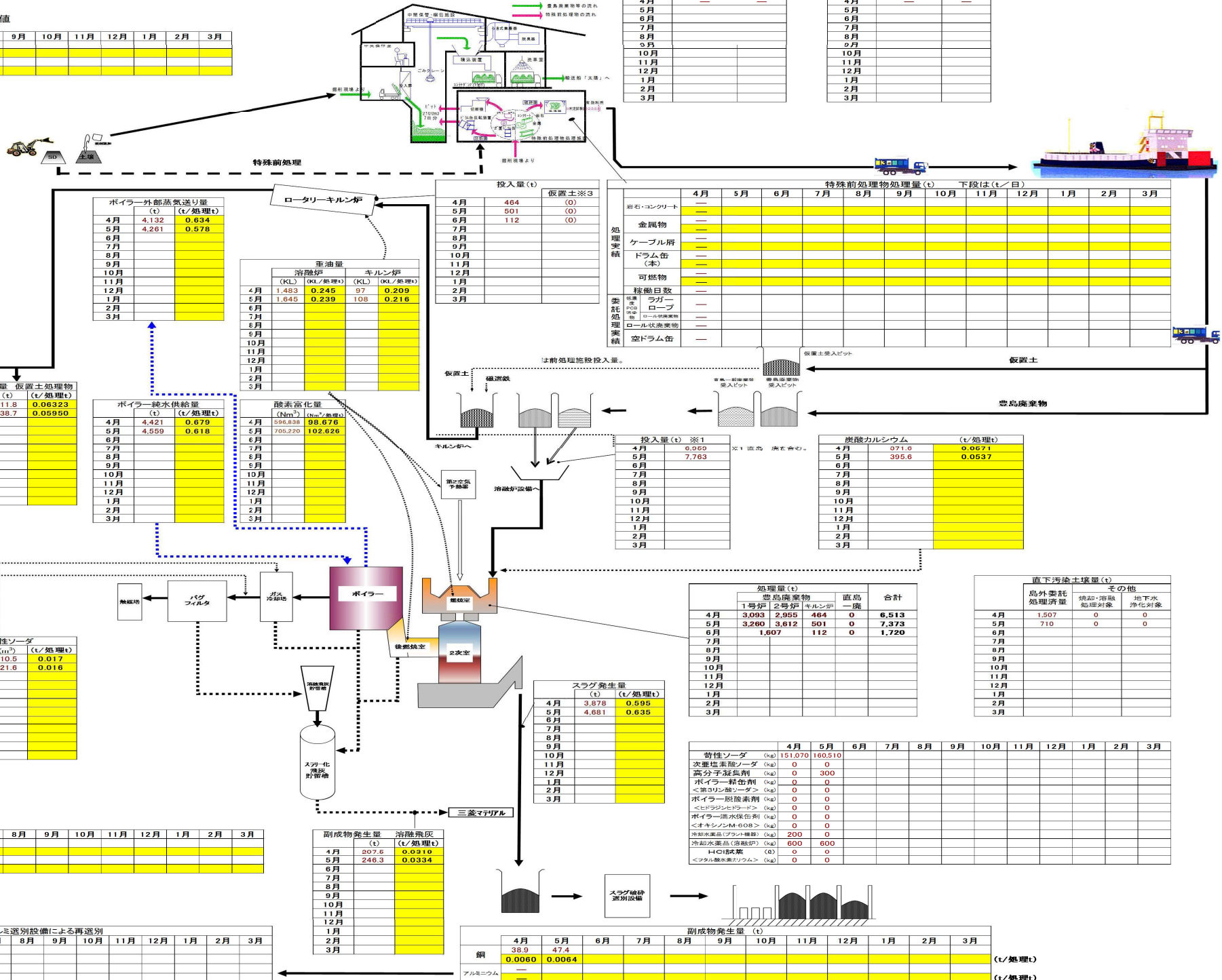
	溶融炉		キルン炉	
	(KL)	(KL/処理t)	(KL)	(KL/処理t)
4月	1,483	0.245	97	0.209
5月	1,645	0.239	108	0.216
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				

ボイラー純水供給量		
	(t)	(t/処理t)
4月	4.421	0.679
5月	4.559	0.618
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

	酸素富化量	
	(Nm ³)	(Nm ³ /重量%)
4月	596,838	98.676
5月	705,220	102.626
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

消石灰		
	(t)	(t/処理t)
4月	80.8	0.012
5月	106.4	0.014
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

	苛性ソーダ	
	(m^3)	(t/処理t)
4月	110.5	0.017
5月	121.6	0.016
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

[illegible][illegible]

積込量(t)		仮置土
4月	—	—
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

輸送量(t)		仮置土
4月	—	—
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

[illegible]

投入量(t) ※1	
4月	6,959
5月	7,763
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

炭酸カルシウム		(t/処理t)
4月	571.9	0.0671
5月	395.6	0.0537
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

	処理量(t)			直島 一廃	合計
	豊島廃棄物		キルン型		
	1号炉	2号炉			
4月	3,093	2,955	464	0	6,513
5月	3,260	3,612	501	0	7,373
6月	1,607	112		0	1,720
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月					

直下汚染土壌量(t)			
	島外委託 処理済量	その他	
		焼却・熔融 処理対象	地下水 浄化対象
4月	1,507	0	0
5月	710	0	0
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

[illegible][illegible]

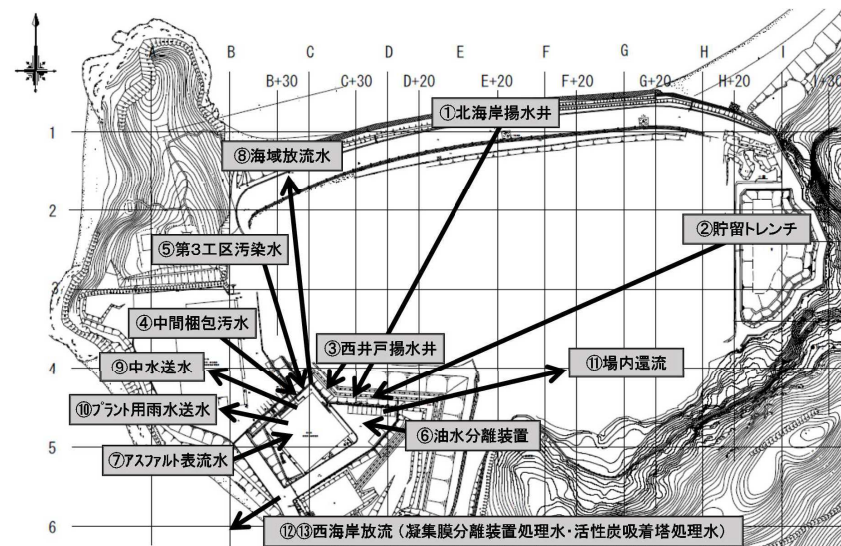
豊島廃棄物等処理事業 原単位表（その3）【排水処理関係】

高度排水処理施設

			15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度											
																	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受入水量 m	第1槽（流入槽）	北海岸揚水井 ①	19,642	27,620	21,731	25,965	14,200	19,048	19,679	24,435	20,363	18,771	51,841	21,835	22,174	42,922	1,183	738										
		東井戸揚水井	538	6,991	892	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
		貯留トレンチ ②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	456	0	773	1,730	363	231									
		西井戸揚水井 ③	18,019	11,887	13,064	21,537	9,735	15,790	11,866	6,138	8,308	4,725	0	0	46	0	0	0	0									
		中間梱包汚水 ④	34	184	166	153	170	186	288	452	261	309	591	659	910	905	32	0	0									
	第5槽（多目的槽2）	第3工区汚染水 ⑤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
		油水分離装置 ⑥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	106	23	0	0									
		アスファルト表流水 ⑦	52	413	854	1,033	1,162	1,045	1,465	1,105	1,318	1,341	1,099	605	778	634	93	44										
		沈砂池雨水	821	180	966	1,006	163	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
		受入水量合計		39,107	47,275	37,673	49,694	25,430	36,118	33,298	32,130	30,250	25,145	53,987	23,103	24,787	46,214	1,671	1,013									
送水量 m	処理水	海域放流水 ⑧	20,745	20,858	20,054	22,676	21,563	20,406	20,509	20,430	24,288	24,203	23,346	24,503	27,050	25,806	1,665	911										
		中水送水 ⑨	724	1,948	3,020	1,429	2,416	2,667	3,369	3,193	1,231	2,985	2,918	3,054	2,080	2,172	50	35										
	プラント用雨水送水	⑩	267	434	440	431	511	493	612	616	565	877	1,109	1,225	1,440	1,288	82	16										
		場内還流 ⑪	17,867	32,560	26,430	28,711	3,005	12,728	11,121	9,366	4,679	342	28,033	0	177	22,328	0	0										
	送水量合計		39,603	55,801	49,944	53,247	27,495	36,294	35,611	33,605	30,763	28,406	55,407	28,782	30,747	51,594	1,797	962										

高度排水処理施設 薬品使用量・活性炭使用量・電力使用量

		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度											
																4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アルカリ剤（苛性ソーダ）	(L)	18,930	24,130	15,850	17,860	18,060	17,770	20,310	15,680	17,830	17,550	17,870	14,235	12,955	17,670	1,160	500										
	(L/処理m ³ (⑧+⑨))	0.882	1.058	0.687	0.741	0.753	0.770	0.851	0.664	0.699	0.646	0.680	0.517	0.445	0.632	0.676	0.529										
酸（硫酸）	(L)	9,330	10,895	11,772	6,940	10,120	7,025	7,570	7,625	6,210	5,825	6,540	7,625	6,870	5,740	365	195										
	(L/処理m ³ (⑧+⑨))	0.435	0.478	0.510	0.288	0.422	0.304	0.317	0.323	0.243	0.214	0.249	0.277	0.236	0.205	0.213	0.206										
凝集剤（塩化第二鉄）	(L)	32,375	37,905	27,860	28,305	29,460	28,980	29,320	29,325	29,405	28,785	28,245	23,525	20,875	19,805	1,220	665										
	(L/処理m ³ (⑧+⑨))	1.508	1.662	1.207	1.174	1.229	1.256	1.228	1.241	1.152	1.059	1.075	0.854	0.717	0.708	0.711	0.703										
リン酸	(kg)	822	731	325	129	299	228	168	33	29	21	254	174	272	407	27	14										
	(kg/処理m ³ (⑧+⑨))	0.0383	0.0321	0.0141	0.0054	0.0125	0.0099	0.0070	0.0014	0.0011	0.0008	0.0097	0.0063	0.0093	0.0145	0.0157	0.0148										
凝集助剤	(kg)	7.6	8.6	7.3	6.2	7.3	6.3	8.0	7.0	4.7	6.7	6.2	6.2	7.0	6.8	0.5	0.3										
	(kg/処理m ³ (⑧+⑨))	0.00035	0.00038	0.00032	0.00026	0.00030	0.00027	0.00034	0.00030	0.00018	0.00025	0.00024	0.00022	0.00024	0.00024	0.00029	0.00032										
メタノール	(L)	10,190	14,290	10,220	6,120	7,090	3,460	4,680	6,390	3,770	3,630	4,500	7,150	6,320	6,500	490	240										
	(L/処理m ³ (⑧+⑨))	0.475	0.627	0.443	0.254	0.296	0.150	0.196	0.270	0.148	0.134	0.171	0.259	0.217	0.232	0.286	0.254										
次亜塩素酸ソーダ	(L)	118.5	157.0	121.0	54.0	41.0	100.0	128.0	167.0	143.0	195.0	80.5	118.5	168.0	179.5	12	7.0										
	(L/処理m ³ (⑧+⑨))	0.0055	0.0069	0.0052	0.0022	0.0017	0.0043	0.0054	0.0071	0.0056	0.0072	0.0031	0.0043	0.0058	0.0064	0.0070	0.0074										
脱水助剤	(kg)	285	330	135	135	180	180	285	135	195	195	255	135	135	195	15	15										
	(kg/処理m ³ (⑧+⑨))	0.0133	0.0145	0.0059	0.0056	0.0075	0.0078	0.0119	0.0057	0.0076	0.0072	0.0097	0.0049	0.0046	0.0070	0.0087	0.0159										
消泡剤	(kg)	32.4	66.2	55.6	20.0	17.6	18.4	14.0	17.6	16.4	16.4	24.0	13.8	7.2	6.6	0.0	0.2										
	(kg/処理m ³ (⑧+⑨))	0.0015	0.0029	0.0024	0.0008	0.0007	0.0008	0.0006	0.0007	0.0006	0.0006	0.0009	0.0005	0.0002	0.0002	0.0000	0.0002										
活性炭使用量	(kg)	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	2,580	0	0										
	(kg/処理m ³ (⑧+⑨))	0.12	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.10	0.09	0.10	0.09	0.09	0.09	0.00	0.00										
電力使用量	(kWh)	766,107	774,318	654,346	647,530	641,025	627,241	631,120	617,767	621,631	608,083	593,285	577,003	614,908	607,080	41,430	34,897										
	(kWh/処理m ³ (⑧+⑨))	35.7	34.0	28.4	26.9	26.7	27.2	26.4	26.2	24.4	22.4	22.6	20.9	21.1	21.7	24.2	36.9										



凝集膜分離装置

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度											
								4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処理水量（西海岸放流）（m ³ ） ⑫		2,223	5,690	8,278	1,306	4,625	4,813	0	0										

凝集膜分離装置・油水分離装置 薬品使用量

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度											
								4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アルカリ剤（苛性ソーダ）	(L)	14	2,246	4,688	985	3,193	5,118	0	0										
	(L/処理m ³ (⑥+⑫))	0.006	0.395	0.566	0.754	0.690	1.063	—	—										
酸（硫酸）	(L)	0	53	32	1	0	0	0	0										
	(L/処理m ³ (⑥+⑫))	0.0000	0.0093	0.0039	0.0008	0.0000	0.0000	—	—										
凝集剤（塩化第二鉄）	(L)	303	4,863	6,594	1,256	4,498	6,265	0	0										
	(L/処理m ³ (⑥+⑫))	0.136	0.855	0.977	0.962	0.973	1.302	—	—										
凝集助剤	(L)	0	0	0	35	3,655	12,550	0	0										
	(L/処理m ³ (⑥+⑫))	0.000	0.000	0.000	0.027	0.790	2.608	—	—										

活性炭吸着塔

		25年度	26年度	27年度	28年度	28年度											
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処理水量（西海岸放流）（m ³ ） ⑬		1,192	2,890	5,911	9,511	0	0										

活性炭吸着塔 活性炭使用量

		25年度	26年度	27年度
--	--	------	------	------

高度排水処理施設関係



高度排水処理施設運転管理		
事業費(千円) (円/処理t)		
16年度	34,411	648
17年度	36,062	689
18年度	32,596	625
19年度	35,493	655
20年度	33,380	551
21年度	32,193	459
22年度	32,981	440
23年度	33,138	467
24年度	35,522	501
25年度	42,147	547
26年度	41,253	604
27年度	40,111	565
28年度	41,569	536

(円/処理m)

1,509	※処理水22,807m ³ の処理単価
1,563	※処理水23,074m ³ の処理単価
1,352	※処理水24,105m ³ の処理単価
1,480	※処理水23,979m ³ の処理単価
1,447	※処理水23,073m ³ の処理単価
1,348	※処理水23,878m ³ の処理単価
1,396	※処理水23,623m ³ の処理単価
1,195	※処理水27,742m ³ の処理単価
1,080	※処理水23,623m ³ の処理単価
1,179	※処理水32,734m ³ の処理単価
1,302	※処理水31,753m ³ の処理単価
994	※処理水40,360m ³ の処理単価
923	※処理水45,020m ³ の処理単価

(処理水量内訳)

高度排水処理施設本体	処理施設分離装置	活性炭吸着塔	加圧浮上装置
22,807	—	—	—
23,074	—	—	—
24,105	—	—	—
23,979	—	—	—
23,073	—	—	—
23,878	—	—	—
23,623	—	—	—
25,519	2,223	—	—
27,188	5,690	—	—
26,264	8,278	1,192	—
27,557	1,306	2,890	—
29,130	4,625	5,911	694
27,978	4,813	9,511	2,718

高度排水処理施設保守点検		
事業費(千円) (円/処理m)		
16年度	12,495	548
17年度	14,817	642
18年度	17,857	741
19年度	22,338	932
20年度	32,396	1,404
21年度	29,190	1,222
22年度	27,668	1,171
23年度	27,752	1,000
24年度	43,641	1,327
25年度	32,619	913
26年度	58,115	1,830
27年度	32,098	795
28年度	31,835	707

※PLC全面更新(13,503)

※オゾン発生装置電源盤等更新(26,460)

薬品(運転管理費の再掲)	
高度排水(千円) (円/処理m)	
16年度	11,721
17年度	14,550
18年度	12,255
19年度	15,092
20年度	13,917
21年度	15,256
22年度	15,094
23年度	14,764
24年度	14,728
25年度	18,721
26年度	16,876
27年度	15,067
28年度	16,442

※平成25年度の活性炭吸着塔の薬品は、当初の設置費用に含まれている。

高度排水処理施設機器交換等		
事業費(千円) (円/処理m)		
16年度	2,468	108
17年度	3,187	138
18年度	3,052	127
19年度	472	20
20年度	5,617	243
21年度	751	31
22年度	3,694	156
23年度	32,241	1,162
24年度	5,233	159
25年度	50,107	1,402
26年度	91,900	2,894
27年度	1,276	32
28年度	783	17

※凝集膜分離装置設置(30,762)

※凝集膜分離装置改修(3,255)

※活性炭吸着塔設置(22,575)、貯留槽(第1、2槽)食塩装(24,003)、オゾン分解塔改修(2,556)

※貯留槽(第3、4、5槽)食塩装(71,226)、加圧浮上装置設置(19,548)

高度排水処理施設電気料		
事業費(千円) (円/処理m)		
16年度	10,506	461
17年度	9,158	397
18年度	9,398	390
19年度	9,432	393
20年度	10,229	443
21年度	9,253	388
22年度	9,129	386
23年度	9,827	354
24年度	9,917	302
25年度	10,225	286
26年度	10,588	333
27年度	10,462	259
28年度	9,742	216

直島中間処理施設の大規模補修

(単位:千円)											
項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
溶融炉耐火物張替え	184,596	201,698	222,980	270,437	247,032	201,566	421,441	0	406,590	0	
電気計装設備更新	0	0	0	0	0	0	207,398	72,540	0	0	
新面土高置機処理に伴う改造	0	0	69,795	0	0	0	0	0	0	0	
酸害富化に伴う改造	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95,666	
その他 ・クレートワーク交換 ・ダクト更新 等	0	0	23,617	0	0	0	26,065	20,517	33,802	11,880	64,241
計	184,596	201,698	316,391	270,437	247,032	201,566	654,904	93,057	440,392	107,546	64,241

耐火物張替え箇所

箇所	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
天井・内筒		◎			◎				◎		
スラグポート			●			●			●		
二次燃焼室上部		●				●					
一次燃焼室中部		●(上部)	●(下部)						●		
二次燃焼室下部						●			●		
二次煙道					●						
後燃焼室			●						●		
ボイラー1室					●(下半分)	●(上半分)					
ボイラー2室									●		
ボイラー3室									●		
天井・内筒		◎		◎			◎				
スラグポート			●			●					
二次燃焼室上部		●				●					
二次燃焼室中部			●				●				
二次燃焼室下部				●			●				
二次煙道				●							
後燃焼室			●				●				
ボイラー1室				●							
ボイラー2室							●				
ボイラー3室							●				

注1)【◎】は張替え実施実績を示す。
【●】は主燃焼室耐火物大規模補修を示す。

(参考)全体コスト

全体	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	2,493,728
17年度	2,815,856
18年度	3,099,227
19年度	3,226,552
20年度	3,628,955
21年度	3,594,876
22年度	3,575,110
23年度	3,645,355
24年度	4,589,013
25年度	4,459,023
26年度	4,959,728
27年度	4,730,070
28年度	5,614,143

副産物有効利用	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	398,946
17年度	351,394
18年度	298,057
19年度	362,989
20年度	399,732
21年度	562,077
22年度	585,628
23年度	521,053
24年度	518,133
25年度	487,896
26年度	670,802
27年度	680,563
28年度	950,677

全体(収益控除)	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	2,463,803
17年度	2,770,046
18年度	3,045,630
19年度	3,181,764
20年度	3,577,662
21年度	3,542,267
22年度	3,515,414
23年度	3,581,376
24年度	4,514,402
25年度	4,380,893
26年度	4,894,955
27年度	4,688,717
28年度	5,588,116

豊島	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	454,912
17年度	430,967
18年度	374,364
19年度	366,305
20年度	401,063
21年度	432,518
22年度	432,508
23年度	503,539
24年度	506,519
25年度	707,089
26年度	670,469
27年度	1,006,800
28年度	1,160,148

環境計測等	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	57,052
17年度	65,454
18年度	58,084
19年度	66,403
20年度	62,235
21年度	47,762
22年度	55,598
23年度	58,138
24年度	56,592
25年度	59,651
26年度	63,227
27年度	77,761
28年度	100,116

銅販売	
販売費(千円) (円/処理t)	
16年度	14,870
17年度	24,104
18年度	26,412
19年度	26,620
20年度	29,534
21年度	31,434
22年度	38,934
23年度	45,151
24年度	53,190
25年度	56,173
26年度	44,595
27年度	24,805
28年度	13,953

輸送(再掲)	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	387,450
17年度	387,450
18年度	389,310
19年度	389,310
20年度	305,835
21年度	305,835
22年度	305,835
23年度	305,835
24年度	319,558
25年度	319,966
26年度	321,171
27年度	354,959
28年度	531,911

汚染土壌処理(搬移・運搬、輸送費、処理費)	
事業費(千円) (円/処理t)	
24年度	18,447
25年度	65,159
26年度	48,588
27年度	41,139
28年度	78,728

*24年度事業費には、掘削量4,226tで算出。単価は処理量647tで算出。

汚染土壌処理関連工事	
事業費(千円) (円/処理t)	
24年度	57,577
25年度	234,038

鉄販売	
販売費(千円) (円/処理t)	
16年度	5,309
17年度	2,462
18年度	3,505
19年度	4,080
20年度	5,003
21年度	2,417
22年度	3,261
23年度	2,800
24年度	1,112
25年度	1,379
26年度	1,674
27年度	790
28年度	162

直島	
事業費(千円) (円/処理t)	
16年度	1,195,368
17年度	1,580,591
18年度	1,979,412
19年度	2,041,545
20年度	2,459,990
21年度	2,246,684
22年度	2,195,541
23年度	2,256,790
24年度	3,112,187
25年度	2,585,224
26年度	3,185,471
27年度	2,568,848
28年度	2,792,563

スラグ販売	
販売費(千円) (円/処理t)	
16年度	9,747
17年度	19,244
18年度	22,598
19年度	14,080
20年度	16,757
21年度	18,728
22年度	17,501
23年度	15,532
24年度	20,309
25年度	20,131
26年度	17,948
27年度	15,303
28年度	13,731

アルミ販売	
販売費(千円) (円/処理t)	
18年度	1,082
20年度	499
21年度	30
25年度	447
26年度	556
27年度	442
28年度	175

廃バッテリー等販売	
販売費(千円) (円/処理t)	
23年度	496
27年度	13
28年度	6

スラグの保管費が低下したため、19.64～9.30まで販売を一時的に止めた。

※ は、収益を表示。

※ は、全体事業費。

第 27 回豊島処分地排水・地下水等対策検討会の審議概要

第 45 回管理委員会（H29. 4. 16）以降に開催された、第 27 回検討会（H29. 6. 18）の審議結果の概要は以下のとおりである。

第 27 回排水・地下水等対策検討会（H29. 6. 18）

1. D 測線西側の地下水質等の状況

揚水井を設置して地下水浄化を進めている D 測線西側のモニタリング結果を報告した。浅い層では排水基準値を満足してきているが、深い層では満足している項目は少ないことなどを報告した。

あまり浄化が進んでいない深い層の浄化対策として、集水井を設置するために実施設計を進めていることを報告した。また、その他の浄化手法としてどのようなものがあるのか、その効果や適用の可能性について報告した。

油混じり水は加圧浮上装置と高度排水処理施設で処理することとなっているが、点在している油混じり水が付着していた土壌について、破碎後に水洗浄する方法、破碎後に中間処理施設で溶融する方法及び外部委託処理する方法を提案した。

<委員からの意見等>

- 集水井については、風化花崗岩層では効果が限られる可能性がある。試しに(C+5,2+40)くらいまでの短い距離ですることも検討してほしい。また、掘削した時の土壌の取扱いも考えておく必要があるが、揮発性があるので現場で処理する方法がよいと思う。
- 油混じり水の周りの土壌については、分析結果を見るとダイオキシン汚染土壌ではあるが、P C B 汚染土壌ではないので外部委託はもう少し安くなるのではないかな。
- 洗浄試験の方では、洗浄後のダイオキシン類が 160pg-TEQ/g は土壌の環境基準（1000pg-TEQ/g）は満足しているが、底質の基準（150pg-TEQ/g）を超えているので取扱いに気をつけないといけない。2 回洗浄することでもっとダイオキシン類は下がるかもしれない。
- 中間処理施設での処理案はスケジュール的に外さざるを得ない可能性があるのできちんと調べてほしい。
- 加圧浮上装置で処理後の汚泥にダイオキシン類が濃縮されるのでその処理方法も検討してほしい。

2. 地下水概況調査等の状況

前回調査中であった②②、②⑧～②⑩及び②⑩～②⑫の 30m メッシュの区画（12 区画）について、全ての項目において排水基準値を満足していたこと、一方、②⑩、②⑪、②⑭及び②⑮の 30m メッシュの区画（5 区画）については、ベンゼンが排水基準値を超過していたことから、順次、詳細調査を実施しており、結果が判明した②⑩及び②⑪の詳細調査結果を報告した。

また、つぼ掘り湧水調査については、新たに 8 地点のつぼ掘りを調査し、1 地点においてベンゼンが排水基準値を超過していたことを報告した。

<委員からの意見等>

- 区画は関係なしにつぼ掘り毎の調査結果をまとめてほしい。つぼ掘りを埋め戻す時に調査結果によって扱いが変わってくると思う。
- ②⑩、②⑪及び②⑫の西側についても調査ができていないところについては、30m メッシュに 1 か所程度で

概況調査をしてほしい。

3. 処分地内の地下水対策等

つぼ掘り部分について、多数のつぼ掘りが連なっているために作業用の通路やスペースが取れず、また、風雨等により浸食を受けてつぼ掘り周辺地盤が脆くなり、崩落も生じているなど、大変危険な状態となっていることから地下水対応のために埋め戻すことを検討することを報告した。

これまでの調査において、排水基準値の超過が確認されているつぼ掘りについては、事前に可能な限り水質を確認し、排水基準値を超過していた場合は揚水が行えるように井戸側を設置した上で埋め戻し、排水基準値を超過していなかったつぼ掘りについては流用土で埋め戻すことを検討していることを報告した。

また、詳細調査により周辺地下水も比較的高濃度の汚染が確認されている⑬、⑭及び⑮の区画については、一部を掘削してつぼ掘りを広げて広く揚水できる素掘り穴にすることで浄化の効果を確保することを検討していることを報告した。

流用土については、つぼ掘り周辺の地盤の高いところを切り盛り土工により流用し、併せてトレンチドレーンについても撤去し、透水性の高い花崗土で埋め戻すこととし、この時、揚水設備を複数設けることで排水対策を講じることを報告した。

<委員からの意見等>

- つぼ掘りを埋め戻すことで、湧水を採取できなくなるため、地下水が浄化されたかどうかを判断する方法を別途定める必要がある。
- 排水基準を超えて対策地域と判定された地点については、対策実施前に改めて地下水濃度の確認を行う。ただし、湧水については採水している間に揮発によって濃度が低くなっているおそれがあり、対策の必要性を的確に判定できていない可能性があるため、排水基準値の2分の1を超過しているところについては、埋め戻しを行ったあとに観測井を設けて水質を確認する必要がある。

D 測線西側の油混じり水等の処理

1. 概要

D 測線西側の地表付近にある油混じり水については、加圧浮上装置に通したうえ、高度排水処理施設で処理することとなっているが、油混じり水には P C B や高濃度のダイオキシン類が含まれており、土壌についてもその一部が付着していると考えられることから、掘削された土壌についても取扱いを検討する。

2. 油混じり水の処理

油混じり水の存在を確認しながら少しずつ掘削範囲を広げ、出てきた油混じり水は加圧浮上装置を通して油を除去したうえ、その後、少しずつ高度排水処理施設で処理する。

油混じり水が点在していると考えられるエリアは図 1 のとおりである。



図 1 油混じり水が点在していると考えられるエリア

3. 掘削された土壌の取扱いの検討

油混じり水には P C B (0.41mg/L(H28.4.4 採水))や高濃度のダイオキシン類(390ng-TEQ/L(H28.8.26 採水))が含まれており、土壌についてもその一部が付着していると考えられる。

そこで、掘削された土壌の取扱いについて、次の 2 つの案を検討した。

なお、中間処理施設での熔融処理については、①熔融助剤と混合するためには 2 mm 程度まで細かな破碎処理が必要となる②熔融助剤との均質化作業及び人員の確保が難しい③中間処理施設では、ピット固着物の処理後は運転体制を縮小するため、再度体制整備しなければ対応が難しい④熔融炉に直接投入するため、土壌のフレコン詰め・解袋作業が必要となる⑤除染等廃棄物の処理との調整が難しいなどの問題点があり、検討案から除外した。

【案 1】 土壌洗浄を行う案

掘削した土壌は図 2 のイメージ図のように水切り用に傾斜をつけ、集水ピットを備えたコンクリート製のヤードに仮置きし、篩い分け及び破碎等を行った後、現場に持ち込んだコンパクトな土壌洗浄装置(図 3)に通し、洗浄水については油混じり水とともに加圧浮上装置及び高度排水処理施設において処理を行う。

洗浄土については、事前に洗浄試験を実施した結果、表 1 のとおりであり、問題なく処理できると考えられることから、埋め戻すこととする。なお、コンクリートヤードのピットに溜まった水については、加圧浮上装置を通して、高度排水処理施設で処理を行う。

なお、表 1 の検査結果のとおり、掘削された土壌には P C B の汚染は確認されなかった。

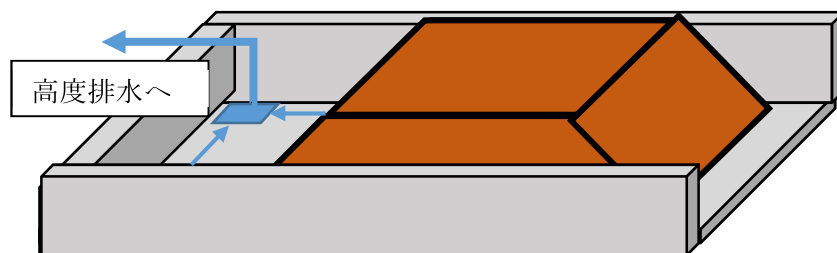


図2 コンクリートヤードイメージ (15m四方程度)

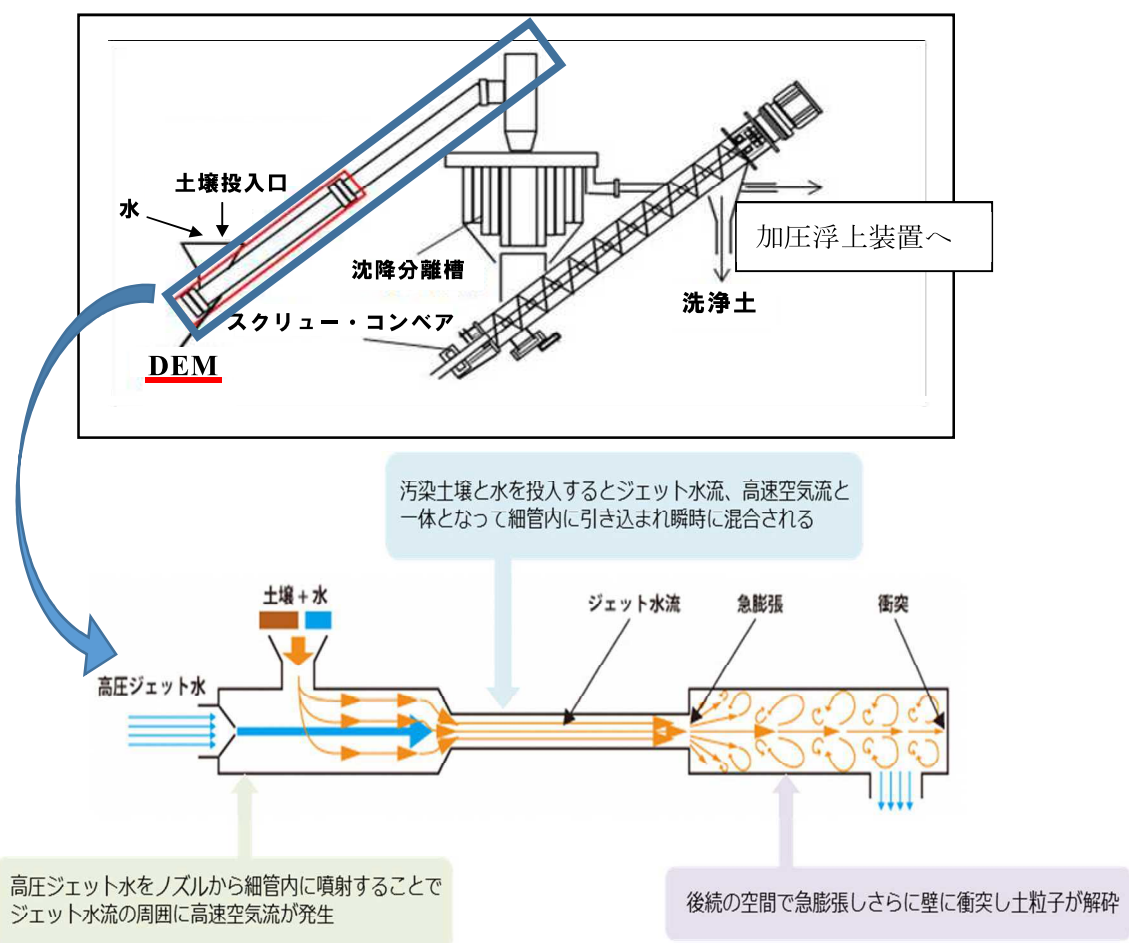


図3 土壌洗浄イメージ図 (株式会社アムロンHPより引用)

表1 洗浄土の検査結果

	ダイオキシン類	PCB	TPH (油分)
洗浄前	12000pg-TEQ/g	<0.0005mg/L	8.2mg/g
洗浄後	160pg-TEQ/g	<0.0005mg/L	0.52mg/g



写真 洗浄前後の土壌

洗浄前（拡大）

洗浄後（拡大）

【案 2】 廃棄物処理業者に委託して焼却処理する案

掘削した土壌は図 2 のイメージ図のように水切り用に傾斜をつけ、集水ピットを備えたコンクリート製のヤードに仮置きし、水分が抜けた後に、排ガスの状況が直島中間処理施設と同程度の施設を有する廃棄物処理業者に委託し、県の指示のもとに処理を実施することとする。なお、コンクリートヤードのピットに溜まった水については、加圧浮上装置を通して、高度排水処理施設で処理を行う。

4. 取扱いの検討結果

各案を比較した結果は表 2 のとおりで、コスト面や洗浄土を有効利用できる観点から案 1 を主体に検討を進めることとする。なお、D 測線西側は現時点の地盤面から 50cm 程度の深さまでは礫が多く含まれており、洗浄機に投入できないために破碎等が必要になるが、ダイオキシン類の飛散のおそれがあることから周辺環境に影響が出ないように礫が多い層については、案 2 を採用することとする。それ以深については砂状のものが主であることから問題なく洗浄機に投入できると考えられる。

表 2 各案比較表

	【案 1】	【案 2】
コスト	4 万円/ t 程度 + α	7 万円/ t 程度
短所	・10～20mm 以下のサイズでないと洗浄機に投入できないため、篩い分け、破碎処理が必要。 ・掘削後の土壌は高濃度のダイオキシン類の汚染があり、破碎処理の際は、粉じんの飛散防止措置が必要。(α) ・洗浄水の処理及びそれに伴い発生する汚泥の処理が必要。	・島外への搬出が必要。 ・一度に処理できる量が少なく、処理に時間がかかる。
長所	・油汚染土壌の処理についての実績がある。 ・処分地内で処理が完了する。 ・時間 10 t 程度の処理が可能であり、比較的短時間で処理が完了する。 ・装置の径を大きくすることでより大きなサイズの土壌でも洗浄できる可能性がある。	・破碎処理が不要。
その他	・洗浄水は土壌 1 kg に対して 1 ～1.2 L 程度。 ・加圧浮上装置から発生する汚泥は水 100 m³ に対して 2 m³ 程度。	

処分地内のつぼ掘り部の整地とトレンチドレーンの撤去等への対応

1. つぼ掘り部の整地

現在、処分地に多数できているつぼ掘りについては、地下水対策を実施するための作業用の通路やスペースが取れず、また、風雨による浸食を受けて周辺地盤が脆くなり崩落も生じて大変危険な状態となっている。また、雨水管理の妨げにもなっていることから、第 27 回豊島処分地排水・地下水等対策検討会（H29.6.18）において、つぼ掘りの取扱いについて検討を行った。（詳細は同検討会の資料参照（資料 46・Ⅱ／2-1））

2. トレンチドレーンの撤去等

北海岸遮水壁沿いのトレンチドレーンの掘削除去の方法については、第 37 回（H27.3.21）及び第 38 回（H27.7.19）の豊島廃棄物等管理委員会にて審議され、既に上部は廃棄物等の掘削に合わせて撤去済みである。下部の碎石層は遮水壁の保全と排水管理の観点から残置している。

第 27 回豊島処分地排水・地下水等対策検討会では、つぼ掘り部の整地と併せてトレンチドレーンの撤去を行う案を審議いただいた。（工法等の概要は同検討会の資料参照（資料 46・Ⅱ／2-1））

一方、地元からは専用栈橋の早期撤去の要請があり、この専用栈橋を撤去すると、トレンチドレーンの碎石の撤去・搬出が困難となることから、早期に対応を決定したいと考えている。

3. 上記 2 件に関する今後の対応

上記 2 件は、早急に「豊島事業関連施設の撤去等検討会」を開催し、検討願いたいと考えている。

中間処理施設の最近のトラブルと対応

平成 29 年 4 月 16 日に開催された第 45 回豊島廃棄物等管理委員会での報告以降、計画外で処理停止に至った事案を表 1 に示す。

表 1 処理停止に至った事案

No.	炉停止 発生日	内容	原因	対応	1号 炉停止 時間 [h]	2号 炉停止 時間 [h]	キルン 炉停止 時間 [h]	備考
1	H29.4.24	スラグヤード分配コンベヤ故障により、スラグ処理が停止し、スラグピットの貯留容量を超過する見込みとなったため、一時処理停止	プーリーが損傷し、ベルトが大きく蛇行した	損傷したプーリーを交換し、復旧した	8	8	-	詳細は後述
2	H29.5.10	2号バグフィルタスクレーコンベヤ故障のため、一時処理停止	サーマルリレー取付部の焼損により、欠相が発生した	サーマルリレーを交換し、復旧した	-	11	-	詳細は後述
3	H29.5.14	1号第1溶融炉投入コンベヤ故障のため、一時処理停止	エプロンパンが変形し、変形エプロンが干渉して過負荷停止した	変形エプロンパンを交換し、復旧した	63	-	-	詳細は後述

スラグヤード分配コンベヤの故障について

1. 故障の経緯と原因

平成 29 年 4 月 23 日 9:00 頃、巡回点検において、スラグヤード分配コンベヤ（全長約 60m のベルトコンベヤ）の蛇行を発見し、各所の点検を実施したところ、プーリーが損傷していることが判明した。運転の継続は困難であったため、スラグ破砕選別装置を停止したが、この時点ではスラグピット（溶融炉から発生する破砕選別前のスラグを貯留しているピット）の貯留容量に余裕があったため、溶融処理運転は継続した。

4月24日6:40頃、スラグピットの貯留量が最大貯留量に近付いたため、1、2号溶融炉をキープ運転（主燃焼室温度を概ね1,000℃程度に保持した状態）に移行させて、8:00頃から一時的に処理を停止した。

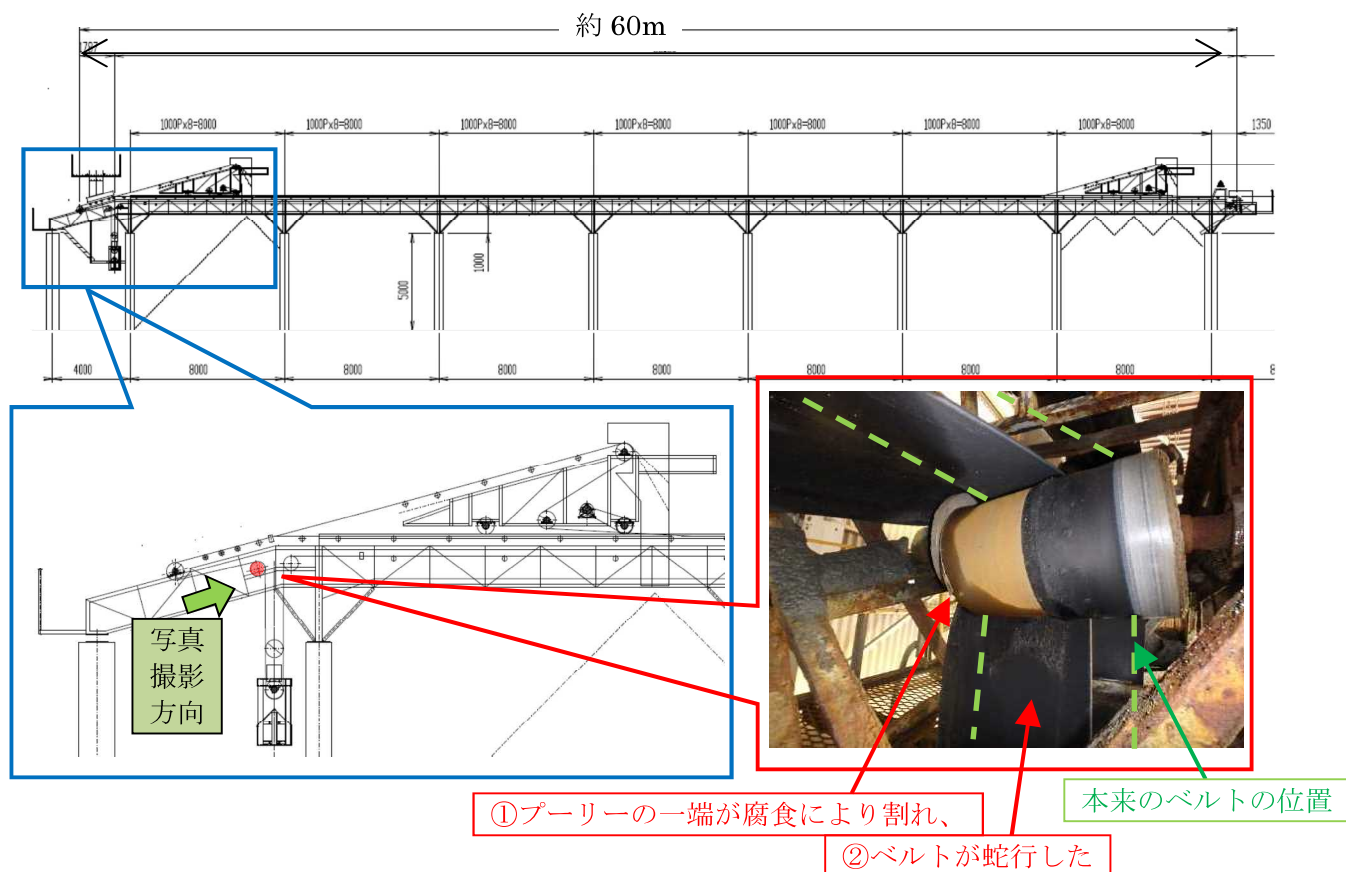


図1 スラグヤード分配コンベヤ故障の状況

2. 処置

4月24日12:00頃、損傷しているプーリーの交換工事を終え、試運転を実施し、12:30頃から、1、2号溶融炉の昇温を開始した。(1、2号溶融炉とも、16:00頃より処理を再開した。)

2号バグフィルタスクリーンコンベヤの故障について

1. 故障の経緯

平成29年5月9日21:35頃、2号溶融炉バグフィルタにおいて、溶融飛灰を搬出するスクリーンコンベヤの故障が発生した。運転を継続したままの復旧は困難であったことから、キープ運転（主燃焼室温度を概ね1,000℃程度に保持した状態）に移行させて、5月10日4:00頃から一時的に処理を停止した。

2. 原因と処置

調査の結果、サーマルリレー（負荷電流が異常増加した際に自動的に接点を開いて電動機等を保護するもの）取付部の焼損による欠相（本来、三相電圧で運転されるべき電動機等が単相で運転されている状態）が発生していたことが判明した。取付部が焼損したサーマルリレーと、サーマルリレーが取り付けられていた電磁接触器を交換して試運転を行い、5月10日11:30頃、昇温を開始した。（溶融処理再開は5月10日15:00頃）

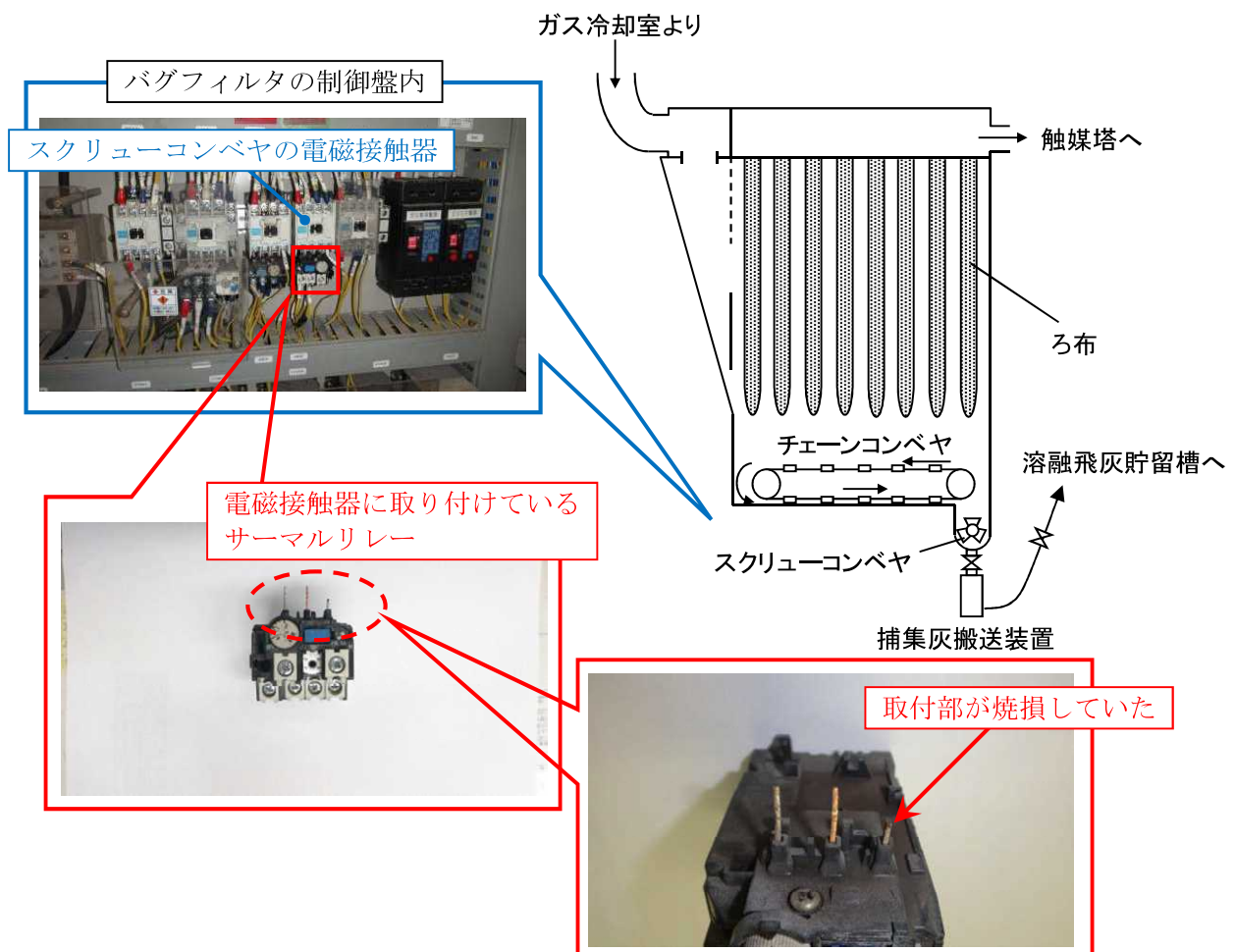


図2 2号バグフィルタスクリーンコンベヤ故障の状況

1号第1溶融炉投入コンベヤの故障について

1. 故障の経緯

平成29年5月14日8:55頃、1号第1溶融炉投入コンベヤの過負荷による停止が発生した。運転を継続したままの復旧は困難であったことから、キープ運転（主燃焼室温度を概ね1,000℃程度に保持した状態）に移行させて、5月14日11:00頃から一時的に処理を停止した。

2. 原因と処置

調査の結果、エプロンパンの変形が発生しており、エプロンパン同士が干渉して過負荷となっていた。エプロンパンの取付ボルトの伸びや脱落が確認されたことから、取付ボルトの伸びや脱落によりエプロンパンにガタつきが生じ、エプロンパンを変形させた可能性が考えられた。

変形したエプロンパンと取付ボルトの交換、及び弛み止めのために取付ボルトとナットの溶接を実施して、復旧した。

5月16日22:00頃、昇温を開始し、5月17日2:00頃、溶融処理を再開した。

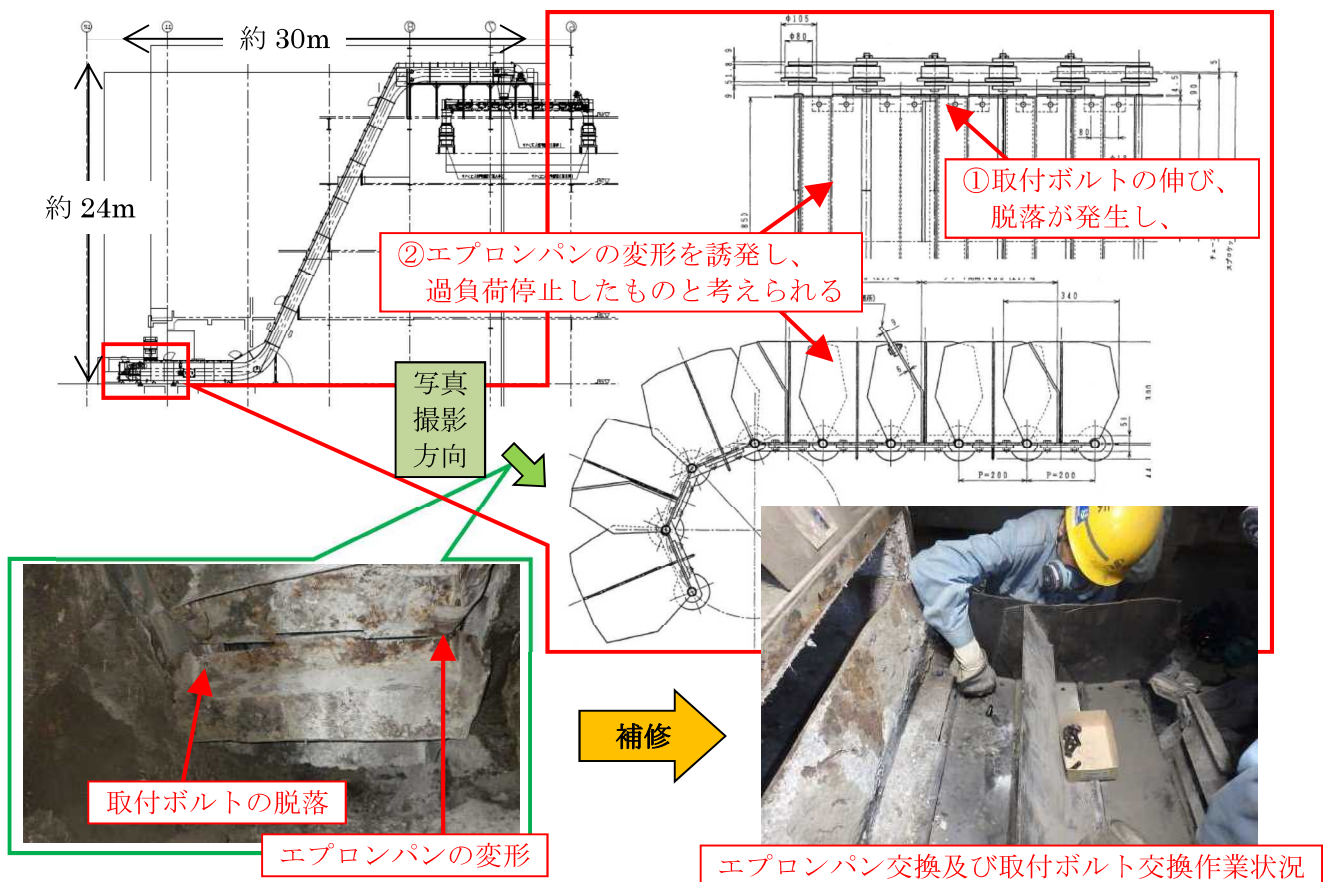


図3 1号第1溶融炉投入コンベヤ故障の状況

以上

溶融スラグの品質試験結果

1 概要

今回、第 41 回豊島廃棄物等管理委員会（H28.7.10 開催）にて審議・承認された「溶融スラグの品質試験結果を踏まえた今後の対応等」（資料 41・Ⅱ／6-1）により、アルカリシリカ骨材反応性は、日常的に化学法、迅速法及びクリストバライト強度で管理することとなったことから、その後の試験結果を報告する。

2 試験結果

アルカリシリカ反応性試験において、化学法は Sc/Rc が 1.0 未満であれば「利用上支障なし（無害）」と判定され、モルタルバー法及び迅速法は、膨張率が 0.1%未満であれば「利用上支障なし（無害）」と判定される。また、スラグ保管上等の理由によりやむを得ず、迅速法が実施できない場合は、ロット毎にクリストバライトの強度を測定して、迅速法（普通（2.5%）スラグ 30）膨張率 0.050%に相当するクリストバライト強度（RIGAKU 製 RAD-X で 120CPS、RIGAKU 製 MultiFlex で 200CPS）以下の安全側で管理する。

H29 3/27～6/5 に発生した溶融スラグについて試験を実施した。迅速法等の結果を表 1 に、石英及びクリストバライトについて、X 線回析強度の比較を行った結果を図 1、2、3 に示す。

迅速法による試験結果は、普通ポルトランドセメントを用いて全アルカリ量を調整し、骨材は溶融スラグ 100%の場合は、膨張率が 0.1%を超える結果となった。溶融スラグ 30%の場合及び高炉セメントを用いた場合は、膨張率を 0.1%未満に抑えられている。

石英については、同程度の値となっており、クリストバライト強度（RIGAKU 製 RAD-X）については 120CPS 以下に、クリストバライト強度（RIGAKU 製 MultiFlex）については 200CPS に抑えられている。

以上のことから、溶融スラグを用いたコンクリート構造物において、アルカリ骨材反応が問題になるようなことはないものと考えられる。

表 1 溶融スラグの試験の結果

試験方法	セメントの種類 (アルカリ調整) ※1	酸素富化あり(鉄助剤)			
		試料採取期間 ※2			
		① H29 3/27~4/11 土壌比率79%	② H29 4/12~4/19 土壌比率82%	③ H29 4/20~4/27 土壌比率82%	④ H29 4/28~5/4 土壌比率82%
迅速法	普通(2.5%) スラグ100	0.401%	0.323%	0.323%	0.337%
	普通(2.5%) スラグ30	0.048%	0.035%	0.046%	0.043%
	高炉(無調整) スラグ30	0.018%	0.018%	0.014%	0.017%
化学法	Sc/Rc	0.67	0.64	0.60	0.63
	Sc、Rc[単位 mmol/l]	60、90	56、88	62、103	64、101
試験方法	セメントの種類 (アルカリ調整) ※1	酸素富化あり(鉄助剤)			
		試料採取期間 ※2			
		⑤ H29 5/5~5/11 土壌比率82%	⑥ H29 5/12~5/20 土壌比率82%	⑦ H29 5/21~5/28 土壌比率81%	⑧ H29 5/29~6/5 土壌比率82%
迅速法	普通(2.5%) スラグ100	0.299%	0.225%	0.297%	0.262%
	普通(2.5%) スラグ30	0.029%	0.029%	0.033%	0.029%
	高炉(無調整) スラグ30	0.013%	0.015%	0.015%	0.020%
化学法	Sc/Rc	0.75	0.61	0.64	0.61
	Sc、Rc[単位 mmol/l]	64、85	60、98	61、96	61、100

※ 1 アルカリ調整

1.2%： セメント量に対して全アルカリの量が 1.2%になるように調整（モルタルバー法）

2.5%： セメント量に対して全アルカリの量が 2.5%に調整（迅速法）

無調整： アルカリ量の調整を行わない

（スラグ 100： 溶融スラグ 100%骨材、スラグ 30： 溶融スラグ 30%骨材）

※ 2 ①～⑧の試料では、均質化物の溶流度試験の前処理方法を変更したため、助剤添加割合が低減している。

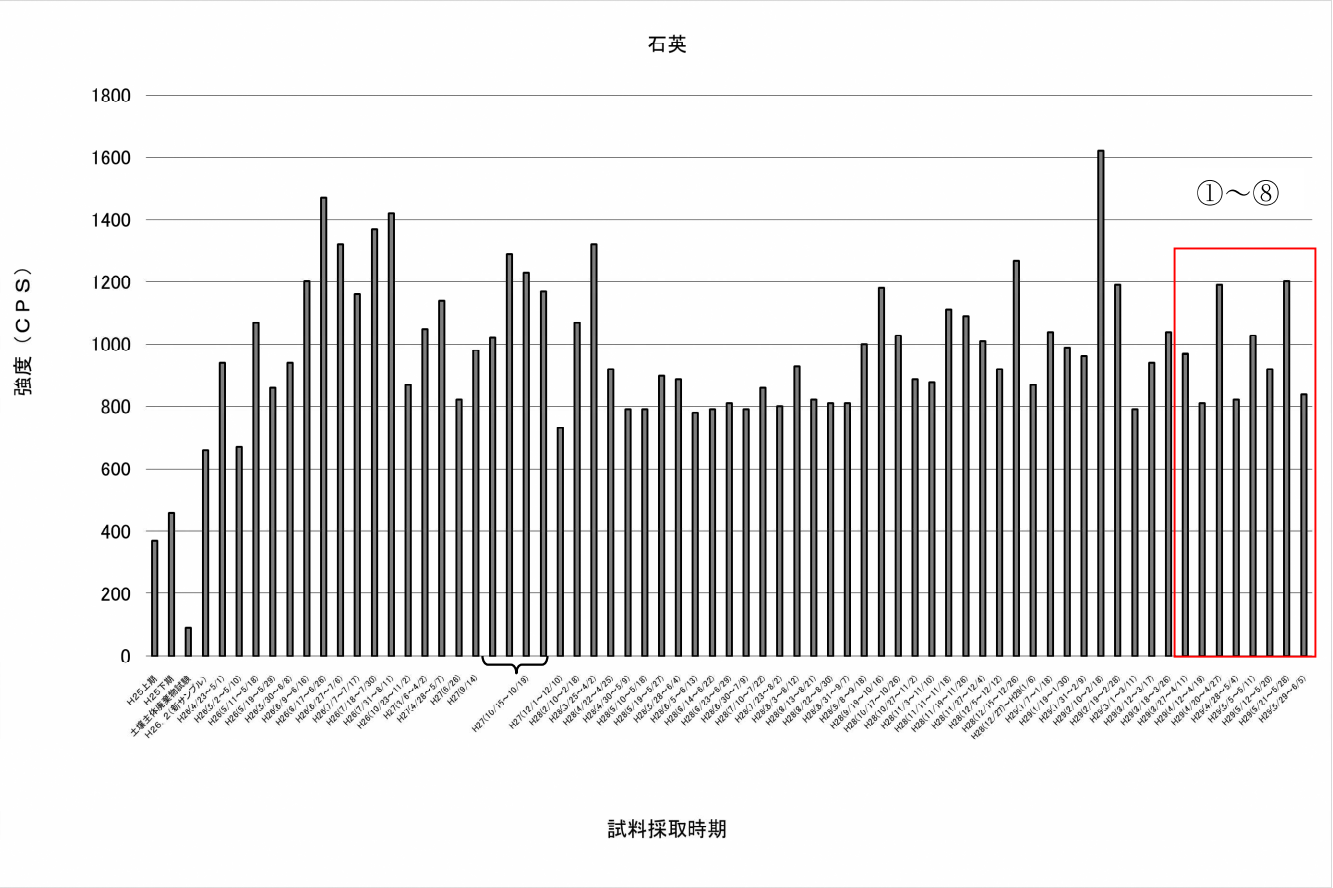


図 1 溶融スラグ中の石英のX線回折強度（RIGAKU 製 RAD-X）

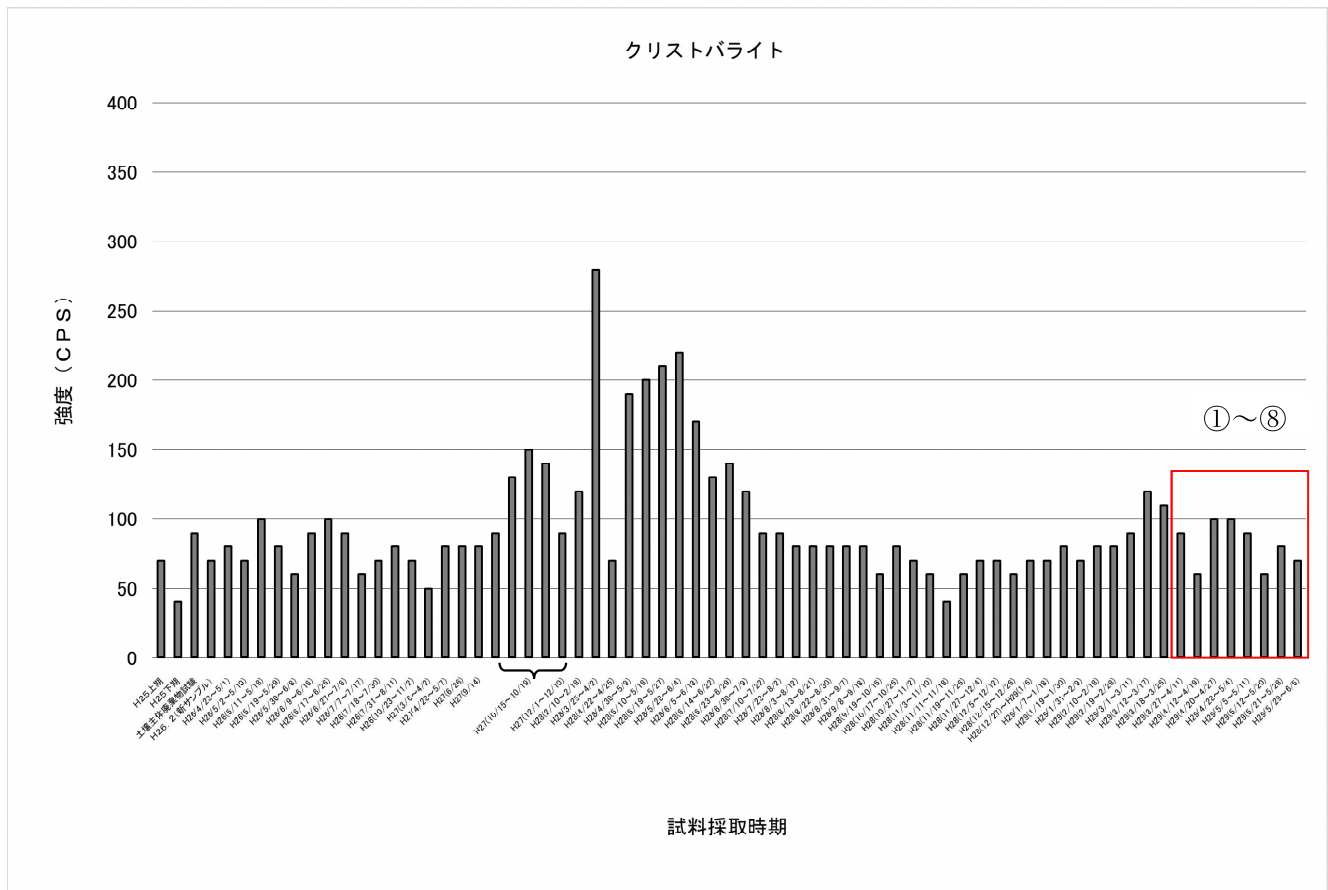


図 2 溶融スラグ中のクリストバライトの X 線回折強度 (RIGAKU 製 RAD-X)

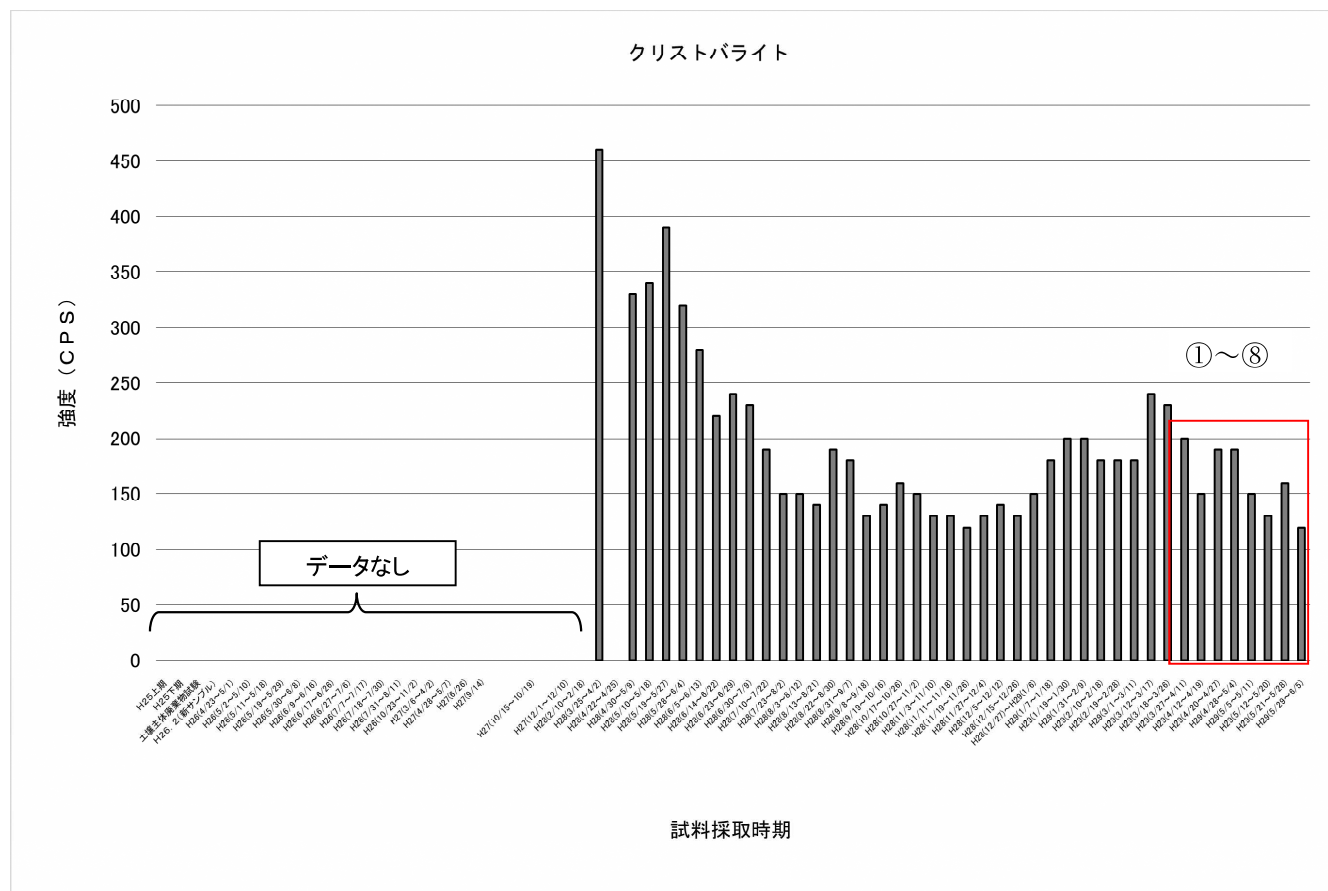


図 3 溶融スラグ中のクリストバライトの X 線回折強度 (RIGAKU 製 MultiFlex)

3 今後の対応

今後は、豊島・直島ピット内にある固着物の処理により生成される溶融スラグを、レディミクストコンクリート用骨材とする場合は、細骨材への置換率を 30%とし、さらに高炉セメントを使うといった抑制対策が講じられていることから、アルカリシリカ骨材反応性は、今後もスラグ 30%と高炉セメントを用いた迅速法試験結果で評価し、スラグ 30%で膨張率 0.10%未満であれば「利用上支障なし（無害）」として取り扱う。

また、スラグ保管上等の理由により迅速法試験が実施できない場合は、ロット毎にクリストバライトの強度を測定して、迅速法（普通（2.5%）スラグ 30）における膨張率 0.050%に相当するクリストバライト強度（RIGAKU 製 RAD-X で 120CPS、RIGAKU 製 MultiFlex で 200CPS）以下の安全側で管理することとし、迅速法試験での確認も適切に行う。

溶融スラグを使用したコンクリート構造物のモニタリング計画

1 概要

豊島溶融スラグを使用したコンクリート構造物の一部については、施工後 10 年程度経過した構造物について、現地調査および採取コアの分析を行い、第 35 回豊島廃棄物等管理委員会（H26.7.27 開催）及び第 40 回豊島廃棄物等管理委員会（H28.3.27 開催）にて報告した。これまでの調査の範囲においては、アルカリ骨材反応による劣化は認められていない。

しかし、溶融スラグを使用したコンクリート構造物については、長期的なモニタリングが必要と考えられることから、今後のモニタリング計画について検討した。

2 モニタリング計画

（1）調査箇所

調査箇所については、表 1 のとおり、これまで平成 25 年度に 3 件、平成 27 年度に 3 件の構造物について調査を行っているが、今後これらを含めて調査対象構造物を選定する。

表 1 これまでの調査対象構造物一覧

調査年度	工事名	構造物	調査箇所	工期
平成 2 5 年 度	①後山上川 通常砂防工事	砂防ダム流路工の側壁	仲多度郡まんのう町	H16.5～ H17.3
	②16災第1363号 県道塩江屋島西線道路災害復旧工事	道路のもたれ擁壁	高松市東植田町	H17.9～ H18.1
	③県道鹿庭奥山線 緊急地方道路整備工事（道路災害防除）（第4工区）	道路のもたれ擁壁	木田郡三木町	H16.2～ H17.1
平成 2 7 年 度	④16災第313号 県道塩江屋島西線道路災害復旧工事外（314）	道路のもたれ擁壁	高松市菅沢町	H17.2～ H18.1
	⑤梶羽川 通常砂防工事	砂防ダム	綾歌郡綾川町	H17.9～ H18.3
	⑥（地方道路整備臨時交付金）県道三木津田線 緊急地方道路整備工事	道路側壁	木田郡三木町	H16.10～ H17.3

モニタリング対象構造物の選定のために、現在、これまでに豊島溶融スラグを利用した全ての構造物に関するデータベースを作成しているところである。

データベースは、それぞれの工事ごとに、構造物の種類、コンクリート強度、スラグの化学組成、土壌比率等の情報について整理しているものであり、それらの情報を基に、構造物の種類やスラグの利用時期といった条件の違いを考慮して、堺委員と協議のうえ、決定する予定である。

（2）調査項目について

調査項目：構造物の外観目視観察及びコンクリートコアの採取

コンクリート構造物及びコアの外観観察

コンクリートコアの偏光顕微鏡観察

コンクリートコアの圧縮強度、静弾性係数の試験

コンクリートコアの促進膨張試験（デンマーク法）

（3）調査スケジュールについて

調査対象として選定する構造物の今後の調査時期については、堺委員と協議のうえ、決定する予定である。

【参考】 平成 25 年度、平成 27 年度の調査対象構造物（番号は、表 1 の番号）

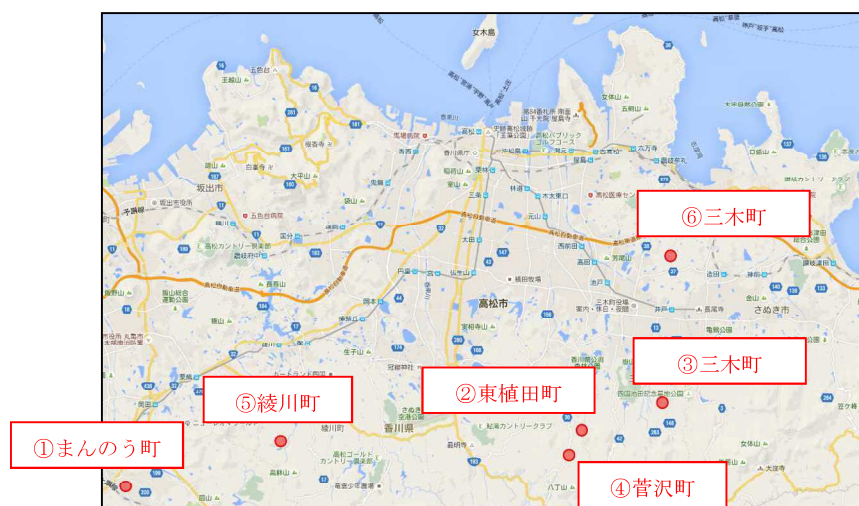


図 1 これまでの調査対象構造物の位置



堆積物の除去・除染の業務委託先の決定

1. 概要

撤去等の実施にあたっては、第 45 回豊島廃棄物等管理委員会（平成 29 年 4 月 16 日開催）において承認されたとおり、堆積物の除去・除染作業等業務について県が発注仕様書を作成し、別紙 1 に示す「見積設計図書の審査項目、要求要件及び審査基準」を満たす者の中から入札により、2. のとおり受託者を決定した。

2. 堆積物の除去・除染作業等業務の受託者

（1）豊島の間保管・梱包施設及び特殊前処理物処理施設

受託者：㈱村上組

業務実施期間：平成 29 年 6 月 30 日から平成 29 年 9 月 30 日まで

（2）直島の間処理施設

受託者：㈱ピーエス三菱

業務実施期間：平成 29 年 6 月 30 日から平成 30 年 3 月 20 日まで

見積設計図書の審査項目、要求要件及び審査基準

審査項目		要求要件	審査基準
1	業務の基本方針	仕様書を踏まえ、本業務を進める上での基本方針を記載すること。	業務の目的を的確に理解し、妥当な基本方針であること。
2	環境の保全に関する事項	仕様書を踏まえ、環境保全対策や環境計測等の内容を具体的に記載すること。	具体性があり、仕様書に記載の内容と矛盾がないこと。
3	安全の確保に関する事項	仕様書を踏まえ、作業従事者の安全管理の体制や実施方法及び必要な届出の内容等を具体的に記載すること。	具体性があり、作業上関係のある法令、条例、規則等が遵守されており、仕様書に記載の内容と矛盾がないこと。
4 業務の実施体制等			
4-1	実施体制、役割分担等	業務の実施体制について、業務責任者、作業従事者数、作業従事者の役割分担、内外部の協力体制等を図表にまとめること。	適切な役割分担等により実施体制が構築されていること。再委託者に業務の一部を行わせる場合は、業務の根幹部分を見積設計図書の提出者が実施すること。再委託者の役割分担が明確で、適切であること。
4-2	業務責任者の兼任業務	業務責任者の業務従事期間中における兼任業務を記載すること。	業務責任者の兼任業務から、本業務において業務責任者が現場で従事する十分な時間があると認められること。
4-3	主たる作業従事者の資格	業務の実施に必要な資格について、主たる作業従事者の有する資格を記載すること。	業務の実施に必要な資格について、主たる作業従事者が資格を有していること。
5 業務の実施方法			
5-1	仕様書第4章の1.の業務※ ¹	除去・除染作業に用いる機材等の台数や仕様等を含め、具体的な作業方法を記載すること。また、設備等ごとの具体的な作業方法及び作業順序を記載すること。	具体性があり、実施可能な内容であること。仕様書に記載の内容と矛盾がないこと。機材等の台数や仕様等が記載されていること。各設備等の作業順序が記載されていること。
5-2	仕様書第4章の2.の業務※ ²	除染作業に伴う排水管理の方法及び1日の洗浄水の使用量についての計画を記載すること。	具体性があり、実施可能な内容であること。汚泥の発生を抑制するための具体的な方法が記載されていること。
5-3	仕様書第4章の3.～4.の業務※ ³	具体的な作業内容及び作業方法を記載すること。	具体性があり、実施可能な内容であること。
5-4	仕様書第4章の5.の業務※ ⁴	除染等廃棄物の集積方法に関し、具体的な作業方法を記載すること。	具体的な作業方法が記載されており、実施可能な内容であること。
6	業務スケジュール	業務スケジュールを工程表及びフロー図を用いて記載すること。	業務スケジュールが実施可能で妥当なものであること。また、工程表及びフロー図で記載されていること。

※1 堆積物の除去・除染作業等 ※2 除染作業に伴う排水管理 ※3 設備等からの作動油等の回収、アスベスト・リフラクトリーセラミックファイバー・フロン類への対応 ※4 除染等廃棄物の集積

堆積物の除去・除染の実施状況

1. これまでの実施状況

堆積物の除去・除染の実施にあたっては、資料 II / 7 - 1 のとおり受託者を決定した。

現在、受託者が作成し県に提出する「堆積物の除去・除染実施計画」の内容について、県との間で協議を重ねているところである。

なお、豊島・直島ピットに固着した堆積物の除去及び設備等のスラグ流しについては、溶融助剤との均質化作業や設備等の運転を含むことから、これまで豊島廃棄物等の処理を実施してきたクボタ環境サービス(株)に委託して作業を実施済みである。

2. 堆積物の除去・除染実施計画

「堆積物の除去・除染実施計画」は、仕様書に基づき、業務の実施体制や具体的な作業方法及び作業工程等を記載したものである。

第 44 回豊島廃棄物等管理委員会（平成 29 年 1 月 29 日開催）において承認された「豊島中間保管・梱包施設等の撤去等に関する基本方針、同基本計画、ガイドライン及びマニュアル」に従い、県が仕様書を作成し発注していることから、「堆積物の除去・除染実施計画（案）」について県が審査し、豊島事業関連施設の撤去等検討会に諮り、各委員のご了承を得たうえで県が承認するものとする。

なお、今後、「堆積物の除去・除染実施計画（案）」について検討会委員にご確認いただく予定としており、7 月中旬以降に作業を開始することとしたい。

3. 今後の実施予定

撤去等の実施にあたってのスケジュールについて、別紙 1 のとおり示す。

今後、豊島及び直島の施設について除去・除染作業を実施するとともに、解体撤去工事の発注についても手続きを進める予定としている。

施設の撤去等に係る環境計測の実施計画

1. 実施計画

施設の撤去等に係る環境計測については、施設の撤去等に係る環境計測ガイドライン及び同マニュアルに基づき、表 1 及び表 2 のとおり県が実施することとしており、具体的な実施時期については 2. のとおり計画している。

表 1 施設の撤去等に係る環境計測（豊島）

区分	計測地点	計測項目	計測頻度			調査機関
			実施前	実施期間中	実施後	
排気	排気ファン出口	ダイオキシン類、PCB、鉛及びその化合物、粉じん	—	1 回以上	—	県
騒音	施設の境界	L50、L5、L95、Leq	1 回	1 回以上	1 回	
振動	施設の境界	L50、L10、L90	1 回	1 回以上	1 回	
悪臭	施設の境界	アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルペンチルアルデヒド、イソペンチルアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、スチレン、キシレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸	1 回	1 回以上	1 回	

※排水は、高度排水処理施設で処理を行うこととしており、第 45 回管理委員会資料 2－3「平成 29 年度における各種調査の実施方針」に従い、豊島の環境計測において確認する。

表 2 施設の撤去等に係る環境計測（直島）

区分	計測地点	計測項目	計測頻度			調査機関
			実施前	実施期間中	実施後	
排気	排気ファン出口	ダイオキシン類、PCB、鉛及びその化合物、粉じん	—	1 回以上	—	県
排水	排水口	水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(SS)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)、全窒素、全リン、大腸菌群数、ダイオキシン類、PCB、カドミウム及びその化合物、鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、六価クロム化合物、アルキル水銀化合物、水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物、セレン及びその化合物、フッ素、ホウ素	—	2 回以上	—	
騒音	施設の境界	L50、L5、L95、Leq	1 回	1 回以上	—	
振動	施設の境界	L50、L10、L90	1 回	1 回以上	—	
悪臭	施設の境界	アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルペンチルアルデヒド、イソペンチルアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、スチレン、キシレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸	1 回	1 回以上	—	

2. 実施時期

環境計測の実施時期は、豊島については表3、直島については表4のとおり計画している。

表3 実施時期（豊島、平成29年度）

区分	計測地点	実施前			実施期間中							実施後	
					除去・除染			解体撤去					
平成 2 9 年度		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
排気	排気ファン 出口	—			○				○※				—
騒音	施設の 境界			○	○				○				○
振動	施設の 境界			○	○				○				○
悪臭	施設の 境界			○	○				○				○

※解体・撤去の実施状況に応じて、計測地点を適宜変更して実施する。

表4 実施時期（直島、平成29～30年度）

区分	計測地点	実施前				実施期間中							
						除去・除染							
平成 2 9 年度		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
排気	排気ファン 出口	—				○				○			
排水	排水口	—				○				○			
騒音・ 振動・ 悪臭	施設の 境界				○	○							

区分	計測地点	実施期間中											実施後
		解体・撤去											
平成３０年度		４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２	１	２	３
排気	排気ファン出口		○※										—
排水	排水口		○										—
騒音・振動・悪臭	施設の境界		○										—

※解体・撤去の実施状況に応じて、計測地点を適宜変更して実施する。

豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会の設置要綱等

「豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会」並びにその内部組織として設置する「豊島処分地地下水・雨水等対策検討会」及び「豊島事業関連施設の撤去等検討会」について、設置要綱（案）を別紙 1 ～別紙 3 のとおり示す。

平成 29 年 7 月 9 日

「豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会」設置要綱(案)

(設置)

第 1 条 豊島廃棄物等処理 施設撤去等 事業(以下「事業」という。)の実施にあたり、廃棄物等の豊島からの搬出終了後の地下水及び雨水の管理及び対策、中間処理施設及び豊島内施設の管理並びに施設撤去に係る計画の策定及び実施、さらに各種の試験、計測、モニタリング等において、指導、助言、評価等を得るため、豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第 2 条 委員会は、地下水及び雨水の管理及び対策、中間処理施設及び豊島内施設の管理並びに施設撤去に係る計画の策定及び実施、さらに各種の試験、計測、モニタリング等に係わる下記の事項について指導、助言、評価等を行うとともに、必要に応じて豊島廃棄物等管理委員会での決定事項の見直しを行い、その結果を知事に報告する。

- (1) 事業の全体計画及び年度計画の策定及び改訂
- (2) 事業の進捗状況の確認
- (3) 豊島処分地の地下水及び雨水の管理と対策等
- (4) 中間処理施設及び豊島内施設の管理並びに施設撤去に係る計画の策定及び実施等(海上並びに陸上輸送の管理を含む)
- (5) 豊島処分地の管理
- (6) 溶融スラグの品質管理 及び溶融スラグを使用したコンクリート構造物の経年変化の確認
- (7) 事業に係る各種の試験、環境計測及び周辺環境モニタリングの実施と結果の評価
- (8) 事業の進捗に伴って実施する各種工事の施工計画の策定、管理及び完了確認
- (9) 各種ガイドライン及びマニュアル等の作成及び改訂
- (10) 異常時等の対応
- (11) その他必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 10 人以内で組織する。

2 委員は、学識経験を有する者のうちから、知事が委嘱する。

3 委員の任期は、委嘱の日から平成 32 年 3 月 31 日までとする。

第4条 委員会は、第2条各号に掲げる事項のうち必要と認めるものについて指導、助言及び評価等を行わせるために、委員会の内部に検討会を設置できる。

2 検討会は、委員又は技術アドバイザーで組織する。

3 検討会が、その分掌事務に属する事項について審議を要請したときは、委員会は、当該事項に関する審議を行い、検討会からの要請に応えなければならない。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3 委員長は、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会は、毎年2回以上開催するものとする。

4 委員長は、必要があると認めるときは、第8条に規定する委員以外の技術アドバイザーに対し、委員会へ出席し、審議、検討に参加するよう求めることができる。

(会議の傍聴)

第7条 調停条項7項の規定に基づき設置する豊島廃棄物処理協議会の会長及び会長代理、環境のまち・直島推進委員会の委員長及び副委員長並びに土庄町豊島及び直島町のそれぞれの代表者は、委員会の会議を傍聴するとともに、意見を述べることができる。

(会議の公開)

第8条 委員会の会議は、原則として公開する。

第9条 委員会の会議において審議のうえ了承された事項については、公開する。

(技術アドバイザー)

第10条 特定の専門分野や急を要する事態への対処等に当たって指導、助言等を得るため、必要と認められる場合に技術アドバイザーを置く。

2 技術アドバイザーは、委員以外で学識経験を有する者のうちから、知事が委員長と協議して委嘱する。

(通知)

第11条 技術アドバイザーへの報告、相談及び技術アドバイザーからの指導、助言等については、速やかにその内容を委員会、土庄町豊島の代表者及び直島町に通知する。

(守秘義務)

第12条 委員及び技術アドバイザーは、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

その職を退いた後も、同様とする。

(委員の報酬等)

第13条 委員及び技術アドバイザーの報酬及び費用弁償は、附属機関を構成する委員その他の構成員の報酬等に関する条例(昭和32年香川県条例第43号)別表第1号に規定する香川県産業廃棄物審議会委員の報酬及び費用弁償に準じて、支給する。ただし、特別の事情があるときは、別段の取扱いをすることができる。

(庶務)

第14条 委員会の庶務は、環境森林部廃棄物対策課において処理する。

(雑則)

第15条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成29年7月9日から施行する。

豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会委員及び技術アドバイザー 名簿（案）

（任期：平成３２年３月３１日まで）

氏 名	所 属 及 び 職 名	フォローアップ委員会	
		委 員	技 術 アドバイザー
永 田 勝 也	早稲田大学 名誉教授	○	○
武 田 信 生	京都大学 名誉教授	○	○
岡 市 友 利	香川大学 名誉教授	○	○
河 原 長 美	岡山大学 名誉教授	○	○
堺 孝 司	日本サステナビリティ研究所 代表	○	○
鈴 木 三 郎	神戸大学 名誉教授	○	○
高 月 紘	京エコロジーセンター 館長	○	○
中 杉 修 身	国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター 客員研究員	○	○
松島 学	香川大学 工学部安全システム建設工学科 教授	○	○
猪 熊 明	一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会 顧問		○
嘉 門 雅 史	京都大学 名誉教授		○
河 原 能 久	広島大学 大学院工学研究科 教授		○
田 中 勝	岡山大学 名誉教授		○
富 田 栄 二	岡山大学 大学院自然科学研究科 教授		○
長谷川 修一	香川大学 工学部安全システム建設工学科 教授		○
平 田 健 正	放送大学和歌山学習センター 所長		○
宮 本 慎 宏	香川大学 工学部安全システム建設工学科 准教授		○
門 谷 茂	北海道大学 大学院水産科学研究院 教授		○
山 中 稔	香川大学 工学部安全システム建設工学科 教授		○
横 瀬 廣 司	香川大学 名誉教授		○

「豊島処分地地下水・雨水等対策検討会」設置要綱（案）

（目的）

第 1 条 豊島処分地の地下水及び雨水の管理及び対策、水処理の実施等について検討するため、「豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会」（以下「フォローアップ委員会」という。）の内部組織として、「豊島処分地地下水・雨水等対策検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

（任務）

第 2 条 検討会は、フォローアップ委員会の所掌事務のうち、次の各号に掲げる事項について、指導、助言及び評価等を行うとともに、フォローアップ委員会の諮問に応じて審議を行い、その結果をフォローアップ委員会に答申する。

- (1) 豊島処分地の地下水及び雨水の管理と対策等
- (2) 上記(1)に係る各種の試験、環境計測及び周辺環境モニタリングの実施と結果の評価
- (3) 上記(1)に係る各種工事の施工計画の策定、管理及び完了確認
- (4) 上記(1)に係る各種ガイドライン及びマニュアル等の作成及び改訂
- (5) 上記(1)に係る異常時等の対応
- (6) その他必要な事項

（組織）

第 3 条 検討会は、別表に掲げる者をもって構成する。

- 2 座長は、別表に掲げる者の互選により定める。
- 3 座長は、現場関係者の出席を求めるほか、必要に応じ、別表に掲げる者以外の者を検討会に参加させることができる。

（会議）

第 4 条 検討会の会議は、必要に応じて随時開催するものとする。

- 2 検討会の会議は、座長が招集し、座長がその議長となる。
- 3 座長は、必要があると認めるときは、フォローアップ委員会の委員長に対し、フォローアップ委員会で第 2 条各号に掲げる事項を審議するよう要請することができる。

（傍聴）

第 5 条 豊島廃棄物処理協議会の会長及び会長代理、環境のまち・直島推進委員会の委員長及び副委員長並びに土庄町豊島及び直島町のそれぞれの代表者は、検討会の会議を傍聴するとともに、意見を述べることができる。

（会議の公開）

第 6 条 検討会の会議は、原則として公開する。

第 7 条 検討会の会議において審議のうえ了承された事項については、公開する。

（報酬等）

第 8 条 別表に掲げる者の報酬及び費用弁償は、附属機関を構成する委員その他の構成員の報酬等に関する条例（昭和 32 年香川県条例第 43 号）別表第 2 に規定する香川県産業廃棄物審議会委員の報酬及び費用弁償に準じて支給する。ただし、特別な事情があるときは、別段の取扱いをすることができる。

（庶務）

第 9 条 検討会の庶務は、環境森林部廃棄物対策課において処理する。

（その他）

第 10 条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、座長が検討会並びにフォローアップ委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成 29 年 7 月 9 日から施行する。

(別表)

豊島処分地地下水・雨水等対策検討会委員名簿

氏 名	所 属 及 び 職 名
岡 市 友 利	香川大学名誉教授
河 原 長 美	岡山大学名誉教授
鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授
中 杉 修 身	国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター 客員研究員
嘉 門 雅 史	京都大学名誉教授
河 原 能 久	広島大学大学院工学研究院教授
平 田 健 正	放送大学和歌山学習センター所長

「豊島事業関連施設の撤去等検討会」設置要綱（案）

（目的）

第1条 中間処理施設及び豊島内施設の管理並びに施設撤去に係る計画の策定及び実施に関する検討のため豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会（以下「フォローアップ委員会」という。）の内部組織として、「豊島事業関連施設の撤去等検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

（任務）

第2条 検討会は、フォローアップ委員会の所掌事務のうち、次の各号に掲げる事項について、指導、助言及び評価等を行うとともに、フォローアップ委員会の諮問に応じて審議を行い、その結果をフォローアップ委員会に答申する。

- (1) 中間処理施設及び豊島内施設並びに豊島処分地の管理
- (2) 同上施設の施設撤去に係る計画の策定及び実施等（海上並びに陸上輸送の管理を含む）
- (3) 上記(1)及び(2)に係る各種の試験、環境計測及び周辺環境モニタリングの実施と結果の評価
- (4) 上記(1)及び(2)に係る各種工事の施工計画の策定、管理及び完了確認
- (5) 上記(1)及び(2)に係る各種ガイドライン及びマニュアル等の作成及び改訂
- (6) 上記(1)及び(2)に係る異常時等の対応
- (7) その他必要な事項

（組織）

第3条 検討会は、別表に掲げる者をもって構成する。

2 座長は、別表に掲げる者の互選により定める。

3 座長は、現場関係者の出席を求めるほか、必要に応じ、別表に掲げる者以外の者を検討会に参加させることができる。

（会議）

第4条 検討会の会議は、必要に応じて随時開催するものとする。

2 検討会の会議は、座長が招集し、座長がその議長となる。

3 座長は、必要があると認めるときは、フォローアップ委員会の委員長に対し、フォローアップ委員会で第2条各号に掲げる事項を審議するよう要請することができる。

（傍聴）

第5条 豊島廃棄物処理協議会の会長及び会長代理、環境のまち・直島推進委員会の委員長及び副委員長並びに土庄町豊島及び直島町のそれぞれの代表者は、検討会の会議を傍聴するとともに、意見を述べることができる。

（会議の公開）

第6条 検討会の会議は、原則として公開する。

第7条 検討会の会議において審議のうえ了承された事項については、公開する。

（報酬等）

第8条 別表に掲げる者の報酬及び費用弁償は、附属機関を構成する委員その他の構成員の報酬等に関する条例（昭和32年香川県条例第43号）別表第2に規定する香川県産業廃棄物審議会委員の報酬及び費用弁償に準じて支給する。ただし、特別な事情があるときは、別段の取扱いをすることができる。

（庶務）

第9条 検討会の庶務は、環境森林部廃棄物対策課において処理する。

（その他）

第10条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、座長が検討会並びにフォローアップ委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成29年7月9日から施行する。

(別表)

豊島事業関連施設の撤去検討会委員名簿

氏 名	所 属 及 び 職 名
永田勝也	早稲田大学名誉教授
武田信生	京都大学名誉教授
高月 紘	京エコロジーセンター館長 京都大学名誉教授
松島 学	香川大学 工学部安全システム建設工学科 教授
氏家睦夫	労働衛生コンサルタント 医学博士

環境計測及び周辺環境モニタリングの結果

1. 環境計測

- (1) 豊島における環境計測(地下水調査)結果について……………平成 29 年 4 月、5 月及び 6 月調査
- ・観測井 3 地点 (A 3、B 5、F 1 西) についてはこれまでの調査結果と特段の差異は見られなかった。
 - ・D 測線西側の観測井については、揚水井の設置時に環境基準値を満足していなかった 5 項目 (トリクロロエチレン、塩化ビニルモノマー、1,2-ジクロロエチレン、ベンゼン及び 1,4-ジオキサン) についてのモニタリングを平成 26 年 4 月から実施している。浅井戸については、6 月調査において (B + 40, 2 + 10) でベンゼンが排水基準値を超過していた他は排水基準値を満足していた。深井戸についてはどの地点についても排水基準値を超過していた項目があった。

2. 周辺環境モニタリング

- (1) 豊島における周辺環境モニタリング(水質)結果について……………平成 29 年 5 月調査
- ・事前環境モニタリングをはじめとするこれまでの調査結果と比べて、特段の差異は見られなかった。

豊島における環境計測（地下水調査）結果について

地下水の環境計測は、工事の進捗に伴う水質の推移を把握することを目的としている。今回、平成 29 年 5 月に実施した水質調査結果をとりまとめた。

1 調査の概要

（1）調査日

平成 29 年 5 月 23 日（火）

（2）調査地点（調査地点図参照）

観測井 3 地点

（A 3、B 5、F 1 西）

（3）検体採取機関及び分析機関

採取機関：廃棄物対策課、環境保健研究センター、直島環境センター

分析機関：環境保健研究センター

2 調査結果の概要（表 1～3）

- ・ 観測井 3 地点全てにおいて、これまでの調査結果と比較して特段の差異は見られなかった。
- ・ それぞれの観測井において、次の項目が環境基準値を満足しなかった。

観測井 A 3 ：砒素及びその化合物、クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン

観測井 B 5 ：フッ素及びその化合物、ホウ素及びその化合物、1,4-ジオキサン

観測井 F 1 西：砒素及びその化合物

表1 地下水調査結果（A3地点の推移）

調査地点		A 3																				地下水の 環境基準	検出 下限			
調査年月日		H15.2.6	H16.2.5	H17.2.7	H18.2.28	H19.2.1	H20.2.13	H21.2.17	H22.2.16	H23.2.9	H23.6.14	H23.8.3	H23.11.22	H24.2.1	H24.5.16	H24.8.1	H24.11.19	H25.2.5	H25.5.22	H25.7.29	H25.11.13	H26.3.17	H26.5.13			
一般項目	pH	7.0	7.1	6.9	7.1	7.0	6.8	7.0	7.2	6.9	6.8	6.7	6.7	6.9	6.6	6.8	6.9	6.9	6.8	6.8	6.6	9.8	11.4	—	—	
	BOD	7.5	12	0.8	4.3	0.7	0.9	ND	1.4	1.0	ND	1.0	1.0	0.8	ND	ND	0.8	1.3	1.3	ND	ND	1.0	ND	—	0.5	
	COD	32	70	17	18	10	21	3.1	3.7	5.7	5.6	3.7	5.1	3.8	7.0	5.0	4.1	3.4	7.9	3.5	4.2	8.4	7.2	—	0.5	
	大腸菌群数	13	33	33	7.8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	7.8	ND	ND	11	13	ND	350	2	7.8	ND	ND	—	—	
	油分	0.6	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.7	1.1	0.6	—	0.5	
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003	
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	
	有機燐	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.1
	鉛	ND	0.1	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.008	ND	ND	0.008	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05
	砒素	0.56	0.73	0.40	1.1	0.42	0.59	0.31	1.6	1.2	0.26	0.55	0.50	0.70	1.0	0.54	0.27	0.13	0.090	0.21	0.56	0.49	0.26	0.01	0.005	
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0006	ND	0.002	0.0002	
	クロロエチレン ^(注8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0034	0.0063	0.0044	0.0090	0.0040	0.017	0.0023	0.0034	0.0035	0.0032	ND	ND	0.0022	0.002	0.0002	
	1,2-ジクロロエタン	0.21	0.018	0.029	0.018	0.0091	0.0082	0.0053	0.0019	0.0007	0.0066	0.010	0.0060	0.0032	0.0057	0.0079	0.0045	0.0036	0.0033	0.0037	0.0050	0.0020	0.0031	0.004	0.0004	
	1,1-ジクロロエチレン	0.054	0.009	0.011	0.004	0.003	ND	ND	ND	0.005	0.007	0.011	0.004	0.002	0.003	0.002	0.004	ND	ND	0.002	0.002	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002	
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	1.7	0.32	0.33	0.11	0.071	0.047	0.033	0.022	0.047	0.046	0.032	0.030	0.037	0.021	0.024	0.022	0.019	0.010	0.022	0.015	ND	0.022	0.04	0.004	
	1,1,1-トリクロロエタン	0.21	0.023	0.025	0.011	0.007	0.0036	0.0018	0.0011	0.0072	0.011	0.023	0.0096	0.0029	0.0039	0.0083	0.0025	0.0019	0.0011	0.0055	0.0049	ND	0.0021	1	0.0005	
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	0.0007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	0.15	0.010	0.017	0.022	0.019	0.011	0.006	0.007	0.042	0.043	0.066	0.027	0.016	0.021	0.033	0.0026	0.010	0.007	0.020	0.015	0.002	0.016	0.01 ^(注7)	0.001	
	テトラクロロエチレン	0.022	0.011	0.034	0.0027	0.0012	0.0014	ND	0.0006	0.0007	0.0057	0.081	0.014	0.0007	0.0014	0.0013	0.0014	0.0007	ND	0.0006	0.0007	ND	ND	0.01	0.0005	
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003
	チオペンタカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	ベンゼン	0.053	0.012	0.012	0.005	0.002	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	ND	ND	ND	0.059	ND	ND	ND	ND	0.01	0.001
	セレン	ND	ND	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.0	ND	0.8	0.8
	ホウ素	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	ND	0.1	0.3	0.2	1	0.1
	1,4-ジオキサン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.005
その他の項目	全窒素	4	3	1.6	3	1	1	1	5	3	1	1	1	2	4	1	1	1	1	1	1	ND	ND	2	—	1
	全燐	0.5	ND	0.2	1.0	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	ND	0.2	ND	ND	0.1	0.2	ND	ND	ND	—	0.1	
	塩化物イオン	68	39	28	23	37	29	24	28	21	25	31	30	32	20	33	31	33	41	38	40	48	57	—	1	
	電気伝導率	51.3	40	32	29.5	14.6	16.1	16.2	15	16	32.7	30	28	30.8	30.8	32	30	30	32	30	31	32	87	—	0.1	
	ニッケル	ND	0.08	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.05	
	モリブデン	ND	ND	0.016	ND	ND	0.008	0.026	0.022	ND	ND	0.028	0.030	0.038	0.022	ND	0.008	0.044	0.016	0.013	0.019	0.12	0.098	—	0.007	
アンチモン	ND	0.002	0.005	0.002	0.002	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	ND	ND	0.001	ND	ND	0.001	ND	0.004	ND	—	0.001		
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	0.015	ND	ND	0.046	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.006	

(注1)単位は、pH(—)、大腸菌群数(MPN/100ml)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。

(注2)ND：検出せず

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。）

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。（平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。）

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成24年1月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。）

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成26年7月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。（平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。）

表1 地下水調査結果（A3地点の推移）

調査地点		A3												地下水の 環境基準	検出 下限
調査年月日		H26.7.29	H26.11.25	H27.2.16	H27.5.19	H27.9.17	H27.11.24	H28.2.9	H28.5.24	H28.7.26	H28.11.8	H29.1.30	H29.5.23		
一般項目	pH	7.0	7.0	7.0	6.8	7.5	7.0	6.8	6.7	7.8	7.1	7.5	7.1	—	—
	BOD	ND	1.3	22	0.8	0.6	ND	1.4	0.6	1.8	1.8	0.5	1.4	—	0.5
	COD	5.2	6.3	49	11	6.5	5.6	5.7	5.0	6.7	5.1	9.0	7.5	—	0.5
	大腸菌群数	280	11	ND	ND	23	ND	7.8	ND	ND	ND	ND	ND	—	—
	油分	ND	0.8	ND	ND	ND	0.8	ND	ND	ND	0.6	0.9	ND	—	0.5
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1
	有機磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.1
	鉛	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	0.014	ND	ND	ND	0.01	0.005
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05
	砒素	0.16	0.22	0.68	29	0.64	0.38	0.45	1.1	7.6	0.20	0.47	3.9	0.01	0.005
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005
	メチル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0018	0.002
	クロロエチレン ^(注8)	0.0018	0.012	0.018	0.0059	0.017	0.0061	0.0076	0.0052	0.0054	0.0056	0.0014	0.012	0.002	0.0002
	1,2-ジクロロエタン	0.0010	0.016	0.0072	0.016	0.0062	0.0083	0.0097	0.0094	0.015	0.0070	0.0035	0.0083	0.004	0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	0.005	ND	0.008	0.010	0.002	0.002	0.006	0.008	0.013	0.004	0.002	0.002	0.1 ^(注4)	0.002
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	0.054	0.12	0.056	0.082	0.046	0.034	0.027	0.029	0.037	0.020	0.011	0.021	0.04	0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	0.016	0.041	0.011	0.029	0.010	0.010	0.017	0.030	0.049	0.014	0.0087	0.011	1	0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	0.033	0.098	0.058	0.091	0.062	0.049	0.078	0.10	0.15	0.065	0.039	0.059	0.01 ^(注7)	0.001
	テトラクロロエチレン	0.0020	0.0053	0.0059	0.0092	0.0015	0.0028	0.0026	0.0034	0.0044	0.0017	0.0007	0.0013	0.01	0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	ベンゼン	ND	ND	0.002	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.001
	セレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.8	0.8
	ホウ素	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	1	0.1
	1,4-ジオキサン	ND	0.005	ND	0.008	0.017	0.005	ND	0.005	0.005	ND	ND	ND	0.05	0.005
その他の項目	全窒素	1	ND	2	2	2	1	1	1	2	2	5	2	—	1
	全磷	ND	ND	0.4	0.4	ND	ND	ND	ND	0.9	ND	ND	0.4	—	0.1
	塩化物イオン	53	54	50	46	61	49	48	47	50	33	37	70	—	1
	電気伝導率	40.9	50.3	43.7	30.8	52.5	41.3	39.2	38.4	38.0	34.0	39.6	48.0	—	0.1
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.05
	モリブデン	0.023	0.007	0.049	ND	0.009	ND	0.010	ND	ND	ND	ND	0.032	—	0.007
	アンチモン	ND	ND	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	0.001	ND	—	0.001
	ブタジエン ^(注8)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.006

(注1)単位は、pH(—)、大腸菌群数(MPN/100ml)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。

(注2)ND：検出せず

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。）

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。（平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。）

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成24年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成26年7月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。（平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。）

表2 地下水調査結果（B 5地点の推移）

調査地点		B 5																						地下水の 環境基準	検出 下限	
調査年月日		H12.12.4	H13.3.6	H17.2.7	H18.2.28	H19.2.1	H20.2.13	H21.2.17	H22.2.16	H23.2.9	H23.6.14	H23.8.3	H23.11.22	H24.2.1	H24.5.16	H24.8.1	H24.11.19	H25.2.5	H25.5.22	H25.7.29	H25.11.13	H26.3.4	H26.5.13			
一般項目	pH	6.3	6.4	6.6	7.1	6.8	6.9	6.7	7.0	6.5	6.8	6.5	6.5	6.6	6.7	6.6	6.7	6.7	6.7	6.6	6.7	6.8	6.6	—	—	
	BOD	120	55	50	44	43	41	36	29	21	33	43	24	27	15	34	13	4.2	12	10	8	16	13	—	0.5	
	COD	530	300	370	300	310	220	240	420	300	223	240	210	260	160	204	186	179	194	228	215	120	200	—	0.5	
	大腸菌群数	3.5×10 ²	2.4×10 ²	ND	ND	17	ND	2.0	ND	2.0	ND	23	ND	ND	ND	ND	49	ND	2.0	790	2.0	350	1700	—	—	
健康項目	油分	2.9	4.1	8.9	5.6	4.5	5.5	5.2	4.3	6.1	8.2	5.8	5.4	4.6	4.6	5.2	4.2	3.4	7.0	10	8.6	11	7.6	—	0.5	
	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0003	ND	0.0003	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003	
	全シアン	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	
	有機燐	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.1	
	鉛	0.018	0.048	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005	
	六価クロム	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05	
	砒素	0.047	0.022	ND	0.008	0.013	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.017	ND	0.011	0.007	ND	ND	0.006	ND	0.006	0.01	0.005	
	総水銀	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005	
	メチル水銀	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.0005	
	PCB	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.0005	
	ジクロロメタン	0.085	0.039	0.018	0.006	0.003	0.002	0.003	ND	0.004	0.004	ND	0.004	0.005	0.004	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002	ND	ND	0.007	0.02	0.002	
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	クロロエチレン ^(注8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	1,2-ジクロロエタン	0.0017	0.0014	ND	ND	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	ND	ND	0.0004	0.0005	ND	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002	
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01 ^(注7)	0.001
	テトラクロロエチレン	0.0016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.0005
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001
	ジマシオン	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003
	チオペンタカルブ	ND	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	その他の項目	ベンゼン	0.22	0.19	0.042	0.014	0.003	0.002	0.006	0.002	0.025	0.020	0.025	0.020	0.022	0.016	0.015	0.013	0.009	0.010	0.013	0.004	0.010	0.030	0.01	0.001
		セレン	ND	—	0.011	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.26	1.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
		フッ素	ND	ND	4.2	5.0	3.6	3.0	2.0	1.3	ND	2.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.2	1.3	1.2	1.4	1.1	0.9	1.4	1.8	0.8	0.8
		赤錆素	2.1	2.6	3.0	3.1	3.1	2.6	3.0	2.5	2.5	2.6	2.6	4.9	2.8	2.6	2.7	2.6	2.5	2.2	2.6	2.7	2.5	2.0	1	0.1
1,4-ジオキサン		—	—	—	—	—	—	—	—	5.3	5.1	5.6	5.1	5.2	3.5	4.5	4.1	3.5	3.5	4.1	3.1	3.3	3.6	0.05	0.005	
全窒素		14	14	12	10	37	30	31	45	8	9	38	34	28	34	24	17	17	15	18	4	ND	12	—	1	
全燐		0.1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.1	
塩化物イオン		2,300	1,840	2,000	1,520	1,550	1,330	1,470	1,400	1,400	1,400	1,480	1,390	1,330	1,180	1,120	1,080	944	943	1,020	690	704	901	—	1	
電気伝導率		635	462	694	542	478	314	274	280	560	502	517	523	502	432	467	399	413	400	354	339	320	403	—	0.1	
ニッケル		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.05	
モリブデン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	0.009	ND	—	0.007	
アンチモン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.001		
	フタル酸ジエチルヘキシル	ND	0.020	ND	ND	ND	ND	0.010	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.006	

(注1)単位は、pH(—)、大腸菌群数(MPN/100ml)、電気伝導率(mS/m)を除いて、mg/Lである。

(注2)ND：検出せず

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。）

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。（平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。）

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成24年1月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。）

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成26年7月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。（平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。）

表2 地下水調査結果（B 5地点の推移）

調査地点		B 5											地下水の 環境基準	検出 下限
調査年月日		H26. 7. 29	H26. 11. 25	H27. 2. 16	H27. 5. 19	H27. 7. 27	H28. 2. 9	H28. 5. 24	H28. 7. 26	H28. 11. 8	H29. 1. 31	H29. 5. 23		
一般項目	p H	6. 7	6. 6	6. 9	6. 4	6. 6	6. 8	6. 8	6. 9	6. 8	7. 0	6. 6	－	－
	B O D	3. 2	6. 2	17	12	23	24	20	14	8. 9	22	16	－	0. 5
	C O D	100	130	100	110	58	65	67	69	74	92	77	－	0. 5
	大腸菌群数	33	49	59	170	ND	ND	ND	4. 0	11	ND	ND	－	－
	油分	6. 2	8. 9	4. 7	5. 9	3. 1	4. 0	5. 7	4. 4	4. 9	5. 8	3. 8	－	0. 5
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 003 ^(注6)	0. 0003
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 1
	有機磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	－	0. 1
	鉛	ND	0. 006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01	0. 005
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 05	0. 05
	砒素	ND	ND	ND	0. 009	ND	ND	0. 007	0. 006	0. 006	ND	0. 008	0. 01	0. 005
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0005	0. 0005
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0005
	ジ ⁺ クロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 02	0. 002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 0002
	クロロエチレン ^(注8)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 0002
	1, 2-ジ ⁺ クロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 004	0. 0004
	1, 1-ジ ⁺ クロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 1 ^(注4)	0. 002
	1, 2-ジ ⁺ クロロエチレン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 04	0. 004
	1, 1, 1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0. 0005
	1, 1, 2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 006	0. 0006
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01 ^(注7)	0. 001
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01	0. 0005
	1, 3-ジ ⁺ クロロブ ⁺ ロヘ ⁺ ン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 006	0. 001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 003	0. 0003
	チオヘ ⁺ ンカルブ ⁺	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 02	0. 002
	ベンゼ ⁺ ン	0. 014	0. 018	0. 007	0. 014	0. 006	0. 007	0. 008	0. 008	0. 008	0. 005	0. 006	0. 01	0. 001
	セレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01	0. 005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
	フッ素	0. 8	0. 8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 9	0. 8
	ボウ素	2. 3	2. 0	2. 0	1. 9	1. 2	1. 5	1. 7	1. 6	1. 7	1. 8	1. 7	1	0. 1
	1, 4-ジ ⁺ オキサン	2. 3	2. 3	1. 6	2. 4	0. 85	1. 0	1. 2	1. 5	1. 4	1. 1	1. 3	0. 05	0. 005
その他の項目	全窒素	3	8	3	3	5	4	3	4	4	3	4	－	1
	全磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	－	0. 1
	塩化物イオン	603	967	585	773	330	390	447	430	425	457	460	－	1
	電気伝導率	272	336	249	264	195	197	194	183	210	203	190	－	0. 1
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	－	0. 05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	－	0. 007
	アンチモン	ND	ND	ND	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	－	0. 001
	フタル酸ジ ⁺ エチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	－	0. 006

(注1)単位は、pH(－)、大腸菌群数(MPN/100ml)、電気伝導率(mS/m)を除いて、mg/Lである。

(注2)ND：検出せず

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。）

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。（平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。）

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成24年1月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。）

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成26年7月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。（平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。）

表3 地下水調査結果（F1西地点の推移）

調査地点		F 1 西																					地下水の 環境基準	検出 下限		
調査年月日		H15. 2. 6	H16. 2. 5	H17. 2. 7	H18. 2. 28	H19. 2. 1	H20. 2. 13	H21. 2. 17	H22. 2. 16	H23. 2. 9	H23. 6. 14	H23. 8. 3	H23. 11. 22	H24. 2. 1	H24. 5. 16	H24. 8. 1	H24. 11. 19	H25. 2. 5	H25. 5. 22	H25. 7. 22	H25. 11. 13	H26. 2. 17	H26. 5. 13			
一般項目	p H	7. 0	7. 0	7. 0	6. 9	7. 3	6. 9	7. 2	7. 7	6. 8	6. 9	6. 9	7. 2	6. 9	6. 8	6. 8	7. 1	7. 1	6. 7	6. 7	7. 1	6. 9	7. 1	—	—	
	B O D	3. 9	6. 6	1. 0	2. 7	0. 5	1. 6	1. 7	1. 1	0. 9	ND	ND	0. 7	0. 6	ND	ND	ND	2. 1	1. 7	0. 5	0. 6	ND	ND	—	0. 5	
	C O D	5. 4	7. 9	1. 7	2. 4	2. 4	2. 7	2. 3	0. 9	1. 8	2. 8	1. 9	1. 9	1. 9	2. 0	3. 0	2. 2	0. 9	7. 8	6. 1	1. 7	5. 0	2. 6	—	0. 5	
	大腸菌群数	22	4. 5	2. 0	22	33	3. 7	7. 8	2. 0	ND	13	22	540	7. 8	11	11	70	ND	69	33	ND	7. 8	ND	—	—	
	油分	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 5	ND	—	0. 5	
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0004	0. 003 ^(注6)	0. 0003	
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 1	
	有機燐	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0. 1
	鉛	0. 024	ND	0. 007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01	0. 005
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 05	0. 05
	砒素	0. 016	0. 016	ND	0. 013	ND	0. 010	ND	0. 008	ND	ND	ND	ND	ND	0. 007	0. 012	0. 008	ND	ND	0. 008	ND	0. 016	0. 009	0. 01	0. 005	
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0005	0. 0005
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0005
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 02	0. 002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 0002
	クロロエチレン ^(注8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0013	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 0006	0. 002	0. 0002
	1, 2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 004	0. 0004
	1, 1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 1 ^(注4)	0. 002
	1, 2-ジクロロエチレン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 04	0. 004
	1, 1, 1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0. 0005
	1, 1, 2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 006	0. 0006
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 011	0. 01 ^(注7)	0. 001
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01	0. 0005
	1, 3-ジクロロプロパン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 006	0. 001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 003	0. 0003
	チオペンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 02	0. 002
	ベンゼン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 010	ND	ND	ND	0. 001	ND	0. 010	0. 012	0. 01	0. 001	
	セレン	ND	ND	0. 010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 01	0. 005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	0. 9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 8	0. 8
	赤毒素	0. 6	0. 6	0. 5	0. 5	0. 5	0. 4	0. 4	0. 4	0. 4	0. 4	0. 5	0. 5	0. 9	0. 5	0. 5	0. 5	0. 5	0. 4	0. 4	0. 4	0. 5	0. 3	0. 4	1	0. 1
	1, 4-ジオキサン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ND	0. 008	ND	ND	0. 006	ND	0. 010	0. 010	0. 010	0. 020	0. 023	ND	0. 017	0. 027	0. 05	0. 005
その他の項目	全窒素	1	4	ND	ND	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1. 6	1. 2	1. 2	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	1	
	全燐	ND	ND	ND	0. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0. 1	
	塩化物イオン	230	230	220	216	223	274	241	250	270	360	248	252	285	331	342	328	338	436	426	280	314	309	—	1	
	電気伝導率	98. 6	94	94. 6	90	83. 7	53. 4	47. 3	49	110	136	102	109	115	130	133	118	133	168	176	100	127	117	—	0. 1	
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0. 05	
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0. 007	
	アンチモン	ND	0. 001	0. 001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0. 001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0. 001	
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	0. 033	0. 030	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0. 006		

(注1)単位は、pH(—)、大腸菌群数(MPN/100ml)、電気伝導率(mS/m)を除いて、mg/Lである。

(注2)ND：検出せず

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。）

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。（平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。）

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成24年1月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。）

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成26年7月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。（平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。）

表3 地下水調査結果（F1西地点の推移）

調査地点		F1西												地下水の 環境基準	検出 下限
調査年月日		H26.7.22	H26.11.25	H27.2.16	H27.5.19	H27.7.27	H27.11.24	H28.2.9	H28.5.24	H28.7.26	H28.11.8	H29.1.31	H29.5.23		
一般項目	pH	6.7	6.7	6.7	6.4	6.7	6.8	6.8	6.7	6.6	6.7	6.9	6.7	—	—
	BOD	ND	0.6	1.3	ND	0.7	ND	1.3	0.8	0.8	1.4	1.8	4.9	—	0.5
	COD	8.0	10	5.8	6.9	6.4	7.2	6.5	7.4	6.3	7.4	7.7	8.8	—	0.5
	大腸菌群数	ND	7.8	ND	ND	2.0	7.8	2.0	13	79	ND	ND	ND	—	1
	油分	ND	0.5	ND	ND	ND	1.2	ND	0.7	ND	0.9	ND	1.5	—	0.5
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1
	有機燐	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.1
	鉛	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.012	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05
	砒素	0.019	0.011	0.011	0.020	0.024	0.030	0.039	0.038	0.030	0.033	0.045	0.048	0.01	0.005
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	クロロエチレン ^(注8)	0.0003	ND	ND	0.0005	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	0.0002	0.0002	0.002	0.0002
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	0.006	ND	0.011	0.019	ND	ND	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	0.033	0.006	0.031	0.021	0.002	ND	0.009	ND	0.003	ND	0.003	0.001	0.01 ^(注7)	0.001
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.0005
	1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	ベンゼン	0.007	0.006	0.012	0.015	0.001	0.001	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.001
	セレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.8	0.8
	砒素	0.5	0.3	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	1	0.1
	1,4-ジオキサン	0.045	0.025	0.026	0.039	0.027	0.025	0.019	0.029	0.026	0.033	0.028	0.034	0.05	0.005
その他の項目	全窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	1
	全磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.1
	塩化物イオン	539	456	522	545	554	539	496	555	498	588	584	660	—	1
	電気伝導率	207	174	193	197	204	202	191	205	181	220	208	200	—	0.1
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.007
	アンチモン	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.001
	フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	0.006

(注1)単位は、pH(—)、大腸菌群数(MPN/100ml)、電気伝導率(mS/m)を除いて、mg/Lである。

(注2)ND：検出せず

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。）

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。（平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。）

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成24年1月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。）

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。（平成26年7月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。）

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。（平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。）

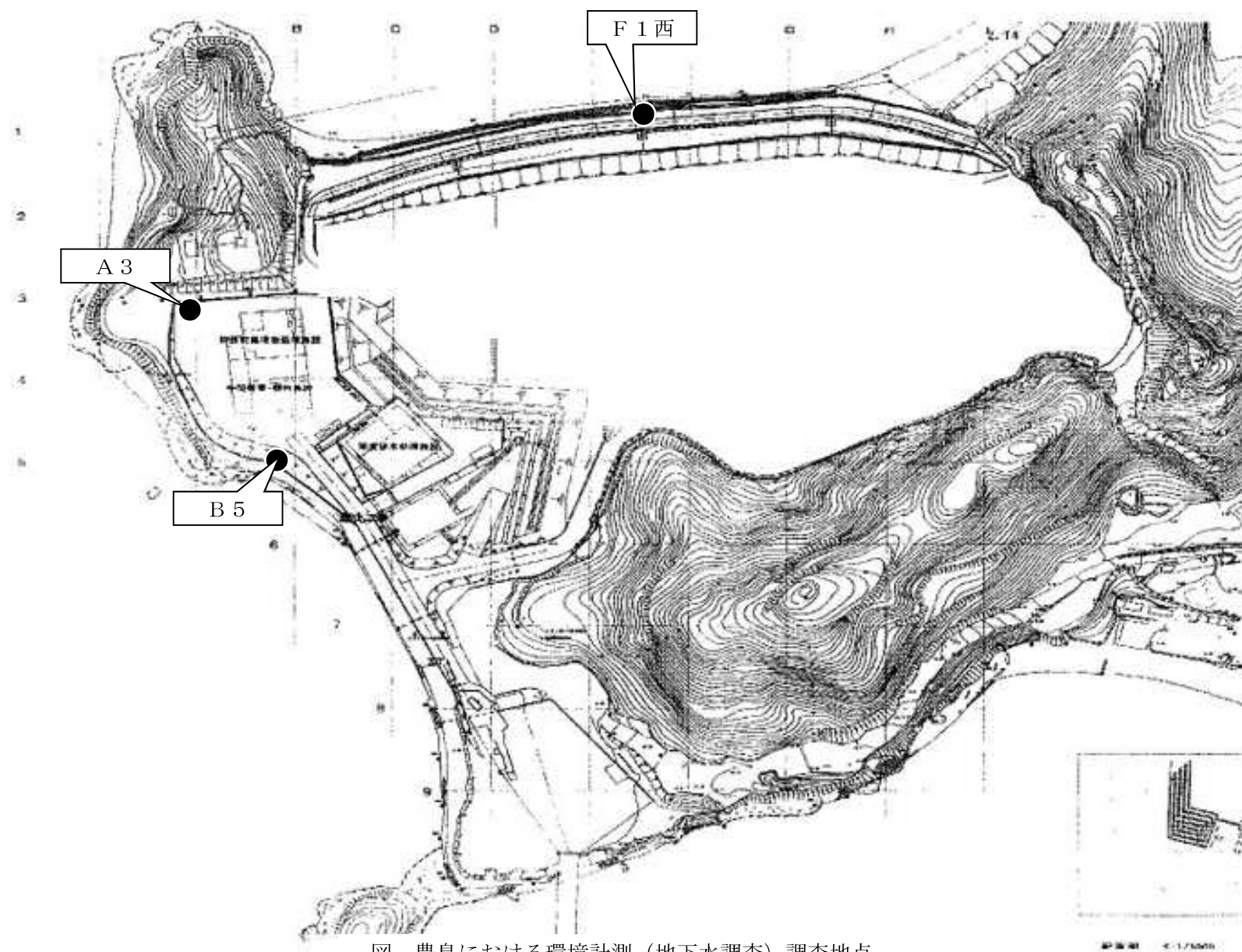


図 豊島における環境計測（地下水調査）調査地点

豊島における環境計測（地下水調査）結果について

地下水の環境計測は、工事の進捗に伴う水質の推移を把握することを目的としている。今回、平成29年4月及び6月に実施した水質調査結果をとりまとめた。

1 調査の概要

（1）調査日

平成29年4月10日（月）、11日（火）

平成29年6月12日（月）、13日（火）

（2）調査地点（調査地点図参照）

観測井 6 地点

- ・ (B+40, 2+10) 付近 2 地点（浅井戸、深井戸）
- ・ (C, 2+40) 付近 3 地点（浅井戸、中間井戸、深井戸）
- ・ (C, 3+10) 付近

揚水井 4 地点

- ・ (B+40, 2+10) 付近 2 地点（浅井戸、深井戸）
- ・ (C, 2+40) 付近 2 地点（浅井戸 深井戸）
- ・ (C, 3+10) 付近

（3）検体採取機関及び分析機関

採取機関：廃棄物対策課、直島環境センター

分析機関：環境保健研究センター

2 調査結果の概要（表1～11）

（1）各観測井において、次の項目が環境基準値を満足しなかった期間がある。

(B+40, 2+10) 浅井戸：

クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(B+40, 2+10) 深井戸：

クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(C, 2+40) 浅井戸：

ベンゼン、1,4-ジオキサン

(C, 2+40) 中間井戸：

クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(C, 2+40) 深井戸：

クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(C, 3+10)：

1,4-ジオキサン

(2) (C, 3+10)を除く、各揚水井において、次の項目が環境基準を満足しなかった。(C, 3+10)揚水井は環境基準を満足した。

(B+40, 2+10) 浅井戸：

クロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(B+40, 2+10) 深井戸：

クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(C, 2+40 浅井戸)

クロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

(C, 2+40) 深井戸：

クロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼン、1,4-ジオキサン

表1 地下水調査結果 (B+40, 2+10)付近浅井戸 (観測井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)	水位
H26.4.10	<u>0.0077</u>	<u>0.056</u>	<u>0.080</u>	<u>0.73</u>	<u>1.6</u>	-	-
H26.6.17	<u>0.022</u>	<u>0.28</u>	<u>1.1</u>	<u>0.79</u>	<u>2.9</u>	17	0.83
H26.8.25	<u>0.0046</u>	0.012	0.018	<u>0.75</u>	<u>1.4</u>	17	1.54
H26.10.22	<u>0.0028</u>	0.017	0.030	<u>0.32</u>	<u>0.34</u>	5.7	1.24
H26.12.10	<u>0.0024</u>	0.008	<u>0.021</u>	<u>0.22</u>	<u>0.54</u>	5.6	0.87
H27.2.18	0.0014	0.006	<u>0.029</u>	<u>0.28</u>	<u>0.58</u>	4.0	0.61
H27.4.22	0.0015	0.008	<u>0.011</u>	<u>0.28</u>	<u>0.78</u>	3.9	0.96
H27.6.17	<u>0.15</u>	<u>0.34</u>	<u>0.025</u>	<u>0.33</u>	<u>0.38</u>	5.9	0.67
H27.8.27	<u>0.027</u>	<u>0.10</u>	<u>0.097</u>	<u>0.27</u>	<u>0.35</u>	12	1.04
H27.10.7	<u>0.020</u>	<u>0.042</u>	<u>0.021</u>	<u>0.17</u>	<u>0.20</u>	8.5	0.85
H27.12.11	<u>0.030</u>	<u>0.043</u>	0.002	<u>0.16</u>	<u>0.18</u>	9.8	0.81
H28.2.3	<u>0.014</u>	<u>0.13</u>	<u>0.048</u>	<u>0.15</u>	<u>0.19</u>	6.4	0.79
H28.4.7	<u>0.0022</u>	ND	ND	<u>0.15</u>	<u>0.22</u>	11	0.67
H28.6.10	0.0010	0.004	<u>0.013</u>	<u>0.084</u>	<u>0.31</u>	5.0	0.70
H28.8.4	<u>0.017</u>	0.038	ND	<u>0.077</u>	<u>0.15</u>	3.1	1.12
H28.10.11	0.0012	0.018	<u>0.015</u>	<u>0.077</u>	<u>0.15</u>	3.5	1.03
H28.12.15	0.0016	ND	0.008	<u>0.081</u>	<u>0.16</u>	3.6	0.82
H29.2.6	<u>0.0073</u>	0.027	<u>0.024</u>	<u>0.10</u>	<u>0.16</u>	5.0	0.56
H29.4.10	<u>0.0025</u>	0.006	ND	<u>0.077</u>	<u>0.13</u>	4.3	0.71
H29.6.12	<u>0.044</u>	<u>0.25</u>	<u>0.014</u>	<u>0.13</u>	<u>0.20</u>	6.6	0.49
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5	-

(注1)単位は、水位はm、その他についてはmg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表2 地下水調査結果 (B+40, 2+10) 付近深井戸 (観測井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1, 2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1, 4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質 (油分等)	水位
H26. 4. 10	<u>0.016</u>	<u>3.0</u>	<u>3.4</u>	<u>1.3</u>	<u>4.1</u>	-	-
H26. 6. 17	<u>5.8</u>	<u>2.6</u>	<u>4.1</u>	<u>1.3</u>	<u>7.2</u>	5.3	0.86
H26. 8. 25	<u>0.70</u>	<u>2.7</u>	<u>2.6</u>	<u>1.3</u>	<u>4.3</u>	5.4	1.51
H26. 10. 22	<u>0.63</u>	<u>3.3</u>	<u>3.9</u>	<u>1.7</u>	<u>3.4</u>	6.4	1.02
H26. 12. 10	<u>0.81</u>	<u>3.1</u>	<u>3.6</u>	<u>1.7</u>	<u>3.8</u>	7.4	0.87
H27. 2. 18	<u>0.47</u>	<u>2.1</u>	<u>1.8</u>	<u>1.0</u>	<u>3.4</u>	5.5	0.61
H27. 4. 22	<u>0.29</u>	<u>1.6</u>	<u>1.8</u>	<u>1.9</u>	<u>4.0</u>	4.4	0.87
H27. 6. 17	<u>0.064</u>	<u>0.25</u>	<u>0.20</u>	<u>1.7</u>	<u>2.4</u>	4.5	-0.30
H27. 8. 27	<u>0.20</u>	<u>1.1</u>	<u>1.4</u>	<u>1.9</u>	<u>2.3</u>	5.9	1.06
H27. 10. 7	<u>0.13</u>	<u>0.45</u>	<u>0.67</u>	<u>1.9</u>	<u>2.3</u>	5.9	1.02
H27. 12. 11	<u>0.15</u>	<u>0.64</u>	0.89	<u>2.3</u>	<u>1.7</u>	5.2	-0.10
H28. 2. 4	<u>0.095</u>	<u>0.52</u>	<u>0.50</u>	<u>1.9</u>	<u>1.7</u>	4.5	0.78
H28. 4. 7	<u>0.29</u>	<u>0.82</u>	<u>1.0</u>	<u>2.5</u>	<u>1.9</u>	5.4	0.68
H28. 6. 14	<u>0.23</u>	<u>1.6</u>	<u>2.1</u>	<u>2.1</u>	<u>2.3</u>	4.9	0.74
H28. 8. 4	<u>0.31</u>	<u>1.9</u>	<u>1.8</u>	<u>2.5</u>	<u>2.1</u>	4.8	1.13
H28. 10. 11	<u>0.091</u>	<u>0.066</u>	<u>0.067</u>	<u>3.2</u>	<u>1.5</u>	4.8	1.02
H28. 12. 15	<u>0.42</u>	<u>1.2</u>	<u>1.4</u>	<u>1.6</u>	<u>2.3</u>	6.0	0.68
H29. 2. 6	<u>0.40</u>	<u>1.4</u>	<u>1.7</u>	<u>1.7</u>	<u>1.7</u>	5.1	0.53
H29. 4. 10	<u>0.080</u>	<u>0.30</u>	<u>0.48</u>	<u>1.9</u>	<u>1.3</u>	3.1	0.65
H29. 6. 12	<u>0.41</u>	<u>1.9</u>	<u>2.7</u>	<u>2.1</u>	<u>1.8</u>	3.7	0.65
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5	-

(注1)単位は、水位はm、その他についてはmg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表3 地下水調査結果 (C,2+40)付近浅井戸 (観測井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)	水位
H26.4.10	<u>0.26</u>	<u>0.042</u>	0.028	<u>0.61</u>	<u>5.2</u>	-	-
H26.6.17	<u>0.023</u>	0.037	<u>0.040</u>	<u>0.82</u>	<u>0.94</u>	22	0.83
H26.8.25	<u>0.025</u>	<u>0.063</u>	<u>0.16</u>	<u>0.49</u>	<u>0.42</u>	6.7	1.54
H26.10.22	<u>0.0033</u>	0.019	0.023	<u>0.47</u>	<u>0.27</u>	5.0	1.24
H26.12.10	<u>0.0037</u>	0.016	<u>0.042</u>	<u>0.15</u>	<u>0.12</u>	4.9	0.87
H27.2.18	<u>0.0034</u>	0.012	<u>0.041</u>	<u>0.23</u>	<u>0.26</u>	4.0	0.61
H27.4.21	<u>0.0033</u>	0.005	<u>0.015</u>	<u>0.14</u>	<u>0.21</u>	3.1	0.99
H27.6.18	0.0012	0.007	0.008	<u>0.15</u>	<u>0.18</u>	4.6	0.83
H27.8.26	0.0003	ND	0.005	<u>0.071</u>	<u>0.17</u>	4.8	1.15
H27.10.6	0.0003	ND	0.006	<u>0.063</u>	<u>0.14</u>	4.6	1.07
H27.12.10	0.0006	ND	0.008	<u>0.029</u>	<u>0.12</u>	4.9	0.93
H28.2.3	0.0004	0.004	<u>0.012</u>	<u>0.031</u>	<u>0.12</u>	4.8	0.85
H28.4.6	0.0002	ND	0.004	<u>0.033</u>	<u>0.16</u>	4.4	0.74
H28.6.10	ND	ND	ND	<u>0.038</u>	<u>0.10</u>	3.7	0.93
H28.8.3	0.0013	ND	ND	<u>0.038</u>	<u>0.15</u>	4.0	1.18
H28.10.11	0.0004	ND	ND	<u>0.014</u>	<u>0.097</u>	1.8	0.97
H28.12.14	<u>0.011</u>	0.033	0.006	<u>0.038</u>	<u>0.15</u>	2.6	0.76
H29.2.6	<u>0.0025</u>	ND	0.001	<u>0.048</u>	<u>0.10</u>	2.7	0.64
H29.4.10	0.0010	ND	0.002	<u>0.043</u>	<u>0.10</u>	2.6	0.70
H29.6.12	0.0016	ND	ND	<u>0.081</u>	<u>0.14</u>	3.2	0.70
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5	-

(注1)単位は、水位はm、その他についてはmg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表4 地下水調査結果 (C,2+40)付近中間井戸(観測井)の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)	水位
H26.4.10	<u>0.45</u>	<u>0.13</u>	0.030	<u>3.8</u>	<u>4.8</u>	-	-
H26.6.17	<u>0.011</u>	<u>0.090</u>	<u>0.46</u>	<u>8.5</u>	<u>11</u>	19	0.91
H26.8.25	<u>0.31</u>	<u>0.49</u>	<u>0.14</u>	<u>4.7</u>	<u>4.0</u>	17	1.58
H26.10.22	<u>0.020</u>	<u>0.045</u>	<u>0.034</u>	<u>4.9</u>	<u>3.8</u>	16	1.35
H26.12.10	<u>0.0051</u>	0.026	<u>0.051</u>	<u>4.2</u>	<u>3.7</u>	19	0.95
H27.2.18	<u>0.0033</u>	0.018	<u>0.047</u>	<u>2.1</u>	<u>2.2</u>	5.3	0.74
H27.4.21	<u>0.0021</u>	0.009	<u>0.017</u>	<u>0.41</u>	<u>1.8</u>	1.9	0.97
H27.6.18	0.0012	0.004	0.006	<u>0.77</u>	<u>1.7</u>	4.3	0.82
H27.8.26	<u>0.0052</u>	0.009	0.003	<u>0.095</u>	<u>1.5</u>	5.3	1.13
H27.10.6	0.0007	ND	0.005	<u>0.051</u>	<u>0.68</u>	5.0	1.07
H27.12.10	0.0019	ND	0.004	<u>0.062</u>	<u>0.62</u>	5.5	0.92
H28.2.3	<u>0.0062</u>	0.005	0.009	<u>0.047</u>	<u>0.47</u>	5.1	0.83
H28.4.6	<u>0.014</u>	ND	ND	<u>0.084</u>	<u>0.56</u>	5.2	0.72
H28.6.10	0.0015	ND	ND	<u>0.083</u>	<u>1.1</u>	2.9	0.96
H28.8.3	<u>0.033</u>	<u>0.082</u>	<u>0.015</u>	<u>0.066</u>	<u>0.41</u>	3.8	1.15
H28.10.11	<u>0.050</u>	<u>0.073</u>	0.007	<u>0.26</u>	<u>0.68</u>	3.9	0.97
H28.12.14	<u>1.7</u>	<u>6.5</u>	<u>3.1</u>	<u>0.58</u>	<u>1.6</u>	5.3	0.72
H29.2.6	<u>0.41</u>	<u>2.3</u>	<u>0.043</u>	<u>0.32</u>	<u>0.99</u>	4.7	0.63
H29.4.10	<u>0.067</u>	<u>0.17</u>	0.006	<u>0.18</u>	<u>0.42</u>	1.6	0.67
H29.6.12	<u>0.030</u>	<u>0.042</u>	ND	<u>0.26</u>	<u>0.96</u>	4.7	0.68
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5	-

(注1)単位は、水位はm、その他についてはmg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表5 地下水調査結果 (C, 2+40) 付近深井戸 (観測井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1, 2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1, 4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質 (油分等)	水位
H26. 4. 10	<u>0.0037</u>	<u>2.0</u>	<u>3.1</u>	<u>3.3</u>	<u>5.4</u>	-	-
H26. 6. 17	<u>2.0</u>	<u>20</u>	<u>30</u>	<u>4.6</u>	<u>7.0</u>	19	0.91
H26. 8. 25	<u>0.52</u>	<u>5.8</u>	<u>4.9</u>	<u>4.2</u>	<u>4.1</u>	17	1.58
H26. 10. 22	<u>0.31</u>	<u>3.0</u>	<u>3.0</u>	<u>4.1</u>	<u>3.5</u>	16	1.38
H26. 12. 10	<u>1.9</u>	<u>15</u>	<u>16</u>	<u>3.6</u>	<u>4.7</u>	17	0.96
H27. 2. 18	<u>3.6</u>	<u>21</u>	<u>11</u>	<u>4.0</u>	<u>3.0</u>	6.7	0.66
H27. 4. 22	<u>1.2</u>	<u>10</u>	<u>2.5</u>	<u>1.6</u>	<u>2.5</u>	4.1	0.81
H27. 6. 18	<u>1.4</u>	<u>11</u>	<u>2.8</u>	<u>1.9</u>	<u>2.0</u>	8.2	0.71
H27. 8. 26	<u>1.2</u>	<u>12</u>	<u>7.2</u>	<u>1.2</u>	<u>1.6</u>	7.3	1.11
H27. 10. 6	<u>1.0</u>	<u>7.3</u>	<u>2.0</u>	<u>0.88</u>	<u>1.1</u>	5.6	0.82
H27. 12. 11	<u>1.2</u>	<u>7.1</u>	<u>1.9</u>	<u>0.95</u>	<u>0.96</u>	6.3	0.80
H28. 2. 3	<u>1.2</u>	<u>8.9</u>	<u>1.3</u>	<u>0.84</u>	<u>0.84</u>	5.3	0.83
H28. 4. 7	<u>2.9</u>	<u>16</u>	<u>5.1</u>	<u>1.4</u>	<u>1.1</u>	6.5	0.78
H28. 6. 14	<u>2.9</u>	<u>27</u>	<u>15</u>	<u>2.0</u>	<u>2.0</u>	6.3	1.04
H28. 8. 3	<u>1.6</u>	<u>13</u>	<u>13</u>	<u>1.0</u>	<u>1.4</u>	3.8	1.14
H28. 10. 11	<u>2.7</u>	<u>22</u>	<u>8.9</u>	<u>2.0</u>	<u>1.4</u>	5.7	0.92
H28. 12. 15	<u>5.0</u>	<u>25</u>	<u>21</u>	<u>1.8</u>	<u>1.9</u>	5.9	0.70
H29. 2. 6	<u>3.1</u>	<u>17</u>	<u>4.0</u>	<u>1.6</u>	<u>1.4</u>	5.8	0.63
H29. 4. 11	<u>2.4</u>	<u>17</u>	<u>7.9</u>	<u>1.4</u>	<u>0.94</u>	1.7	0.69
H29. 6. 12	<u>4.4</u>	<u>26</u>	<u>8.3</u>	<u>2.1</u>	<u>1.9</u>	5.3	0.69
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5	-

(注1) 単位は、水位はm、その他についてはmg/Lである。

(注2) ND：定量下限値未満

(注3) 下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4) 環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5) 環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表6 地下水調査結果 (C, 3+10) (観測井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1, 2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1, 4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)	水位
H26. 6. 17	0. 0006	0. 007	0. 007	<u>0. 11</u>	<u>1. 8</u>	3. 8	0. 91
H26. 8. 25	0. 0004	ND	ND	<u>0. 024</u>	<u>0. 41</u>	3. 5	1. 57
H26. 10. 22	ND	ND	ND	0. 010	<u>0. 67</u>	3. 3	1. 36
H26. 12. 10	0. 0004	ND	ND	0. 008	<u>0. 56</u>	3. 9	0. 97
H27. 2. 18	0. 0007	ND	ND	<u>0. 014</u>	<u>0. 93</u>	5. 1	0. 70
H27. 4. 22	ND	ND	ND	0. 005	<u>0. 39</u>	1. 2	0. 82
H27. 6. 17	0. 0009	ND	ND	0. 002	<u>0. 17</u>	1. 2	0. 75
H27. 8. 26	ND	ND	ND	0. 003	<u>0. 19</u>	1. 5	1. 11
H27. 10. 7	ND	ND	ND	0. 001	0. 033	1. 3	1. 02
H27. 12. 10	0. 0003	ND	0. 002	0. 002	<u>0. 13</u>	1. 5	0. 91
H28. 2. 3	0. 0010	0. 006	0. 005	0. 002	<u>0. 19</u>	1. 9	0. 84
H28. 4. 7	0. 0008	ND	ND	0. 002	<u>0. 47</u>	2. 5	0. 75
H28. 6. 9	0. 0005	ND	0. 001	0. 002	<u>0. 38</u>	1. 2	0. 95
H28. 8. 4	ND	ND	ND	0. 001	<u>0. 18</u>	1. 5	1. 13
H28. 10. 12	ND	ND	ND	0. 001	0. 037	2. 2	0. 85
H28. 12. 15	0. 0005	ND	ND	0. 001	<u>0. 25</u>	2. 1	0. 68
H29. 2. 6	0. 0005	ND	ND	0. 003	<u>0. 50</u>	2. 6	0. 62
H29. 4. 10	0. 0007	ND	0. 001	0. 003	<u>0. 39</u>	2. 8	0. 66
H29. 6. 13	0. 0010	ND	0. 001	0. 003	<u>0. 21</u>	3. 2	0. 70
地下水の 環境基準	0. 002	0. 04	0. 01 (注4)	0. 01	0. 05	-	-
定量下限	0. 0002	0. 004	0. 001	0. 001	0. 005	0. 5	-

(注1)単位は、水位はm、その他についてはmg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表7 地下水調査結果 (B+40, 2+10)付近浅井戸 (揚水井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質 (油分等)
H26.6.17	<u>0.025</u>	0.040	0.003	<u>0.32</u>	<u>0.77</u>	25
H26.8.25	<u>0.0044</u>	0.013	ND	<u>1.0</u>	<u>1.2</u>	20
H26.10.22	<u>0.0025</u>	0.009	0.007	<u>0.65</u>	<u>0.56</u>	8.0
H26.12.10	<u>0.0021</u>	ND	ND	<u>0.33</u>	<u>0.73</u>	14
H27.2.18	<u>0.022</u>	<u>0.066</u>	<u>0.13</u>	<u>0.53</u>	<u>0.54</u>	8.0
H27.4.22	<u>0.0066</u>	0.010	ND	<u>0.27</u>	<u>0.48</u>	3.9
H27.6.17	<u>0.026</u>	<u>0.054</u>	ND	<u>0.46</u>	<u>0.43</u>	5.7
H27.10.20	<u>0.0024</u>	0.005	ND	<u>0.81</u>	<u>1.5</u>	7.3
H27.12.11	<u>0.0044</u>	0.009	0.010	<u>0.19</u>	<u>0.34</u>	9.4
H28.2.4	0.0014	ND	ND	<u>0.27</u>	<u>0.47</u>	8.0
H28.4.7	0.017	<u>0.079</u>	<u>0.020</u>	<u>0.075</u>	<u>0.40</u>	12
H28.6.9	<u>0.0055</u>	ND	ND	<u>0.17</u>	<u>0.49</u>	8.4
H28.8.4	<u>0.0021</u>	ND	ND	<u>0.10</u>	<u>0.21</u>	3.7
H28.10.12	<u>0.0025</u>	0.005	0.003	<u>0.076</u>	<u>0.17</u>	5.6
H28.12.14	<u>0.018</u>	0.004	0.003	<u>0.071</u>	<u>0.21</u>	4.6
H29.2.7	<u>0.0022</u>	0.005	ND	<u>0.16</u>	<u>0.40</u>	4.8
H29.4.11	0.0007	ND	0.001	<u>0.066</u>	<u>0.15</u>	1.4
H29.6.13	<u>0.0047</u>	0.008	0.003	<u>0.58</u>	<u>2.6</u>	3.4
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5

(注1)単位は、mg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表8 地下水調査結果 (B+40, 2+10)付近深井戸 (揚水井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質 (油分等)
H27.4.21	<u>0.45</u>	<u>3.8</u>	<u>3.2</u>	<u>2.2</u>	<u>2.7</u>	4.4
H27.6.17	<u>0.60</u>	<u>3.7</u>	<u>3.9</u>	<u>2.4</u>	<u>2.8</u>	5.3
H27.10.20	<u>0.23</u>	<u>2.9</u>	<u>1.9</u>	<u>1.6</u>	<u>3.3</u>	7.5
H27.12.11	<u>0.54</u>	<u>3.8</u>	<u>2.0</u>	<u>1.9</u>	<u>2.1</u>	6.9
H28.2.4	<u>0.58</u>	<u>4.1</u>	<u>2.0</u>	<u>2.4</u>	<u>2.5</u>	6.9
H28.4.7	<u>0.91</u>	<u>2.5</u>	<u>0.75</u>	<u>1.4</u>	<u>2.4</u>	6.7
H28.6.9	<u>0.46</u>	<u>3.5</u>	<u>1.0</u>	<u>2.0</u>	<u>2.4</u>	6.0
H28.8.4	<u>2.5</u>	<u>0.35</u>	<u>0.065</u>	<u>3.3</u>	<u>1.9</u>	4.5
H28.10.12	<u>1.6</u>	<u>2.4</u>	<u>0.72</u>	<u>5.5</u>	<u>4.2</u>	4.6
H28.12.15	<u>2.6</u>	0.024	<u>0.011</u>	<u>3.2</u>	<u>2.4</u>	4.8
H29.2.7	<u>1.1</u>	<u>0.95</u>	<u>0.30</u>	<u>1.5</u>	<u>1.7</u>	4.7
H29.4.11	<u>0.47</u>	<u>2.0</u>	<u>0.67</u>	<u>1.3</u>	<u>1.1</u>	1.4
H29.6.13	<u>0.69</u>	<u>2.2</u>	<u>0.54</u>	<u>3.0</u>	<u>2.4</u>	3.2
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5

(注1)単位は、mg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表9 地下水調査結果 (C, 2+40)付近浅井戸 (揚水井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)
H26.6.17	<u>0.025</u>	0.040	0.003	<u>0.32</u>	<u>0.77</u>	17
H26.8.25	0.0020	ND	ND	<u>0.037</u>	<u>0.29</u>	6.4
H26.10.22	0.0003	ND	ND	<u>0.057</u>	<u>0.055</u>	5.3
H26.12.10	0.0012	0.005	0.005	<u>0.022</u>	0.031	4.9
H27.2.18	<u>0.0022</u>	0.015	<u>0.053</u>	<u>0.046</u>	0.044	2.0
H27.4.21	ND	0.004	ND	<u>0.021</u>	<u>0.086</u>	3.9
H27.6.18	<u>0.028</u>	<u>0.31</u>	<u>0.16</u>	<u>0.045</u>	<u>0.19</u>	3.3
H27.10.20	ND	ND	0.002	0.007	0.013	5.9
H28.4.6	<u>0.0037</u>	0.019	<u>0.027</u>	<u>0.022</u>	<u>0.064</u>	3.9
H28.6.9	0.0005	0.012	<u>0.038</u>	0.004	0.012	4.4
H28.8.3	0.0013	0.010	<u>0.013</u>	<u>0.016</u>	0.034	2.6
H28.10.12	0.0016	0.009	0.008	0.002	0.009	2.5
H28.12.15	0.0010	ND	0.002	<u>0.014</u>	<u>0.14</u>	2.1
H29.2.6	0.0009	0.004	0.008	<u>0.014</u>	<u>0.054</u>	2.3
H29.4.11	<u>0.0025</u>	0.017	<u>0.026</u>	<u>0.021</u>	<u>0.084</u>	2.2
H29.6.13	0.0016	ND	0.008	<u>0.026</u>	<u>0.020</u>	3.3
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5

(注1)単位は、mg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表10 地下水調査結果 (C, 2+40)付近深井戸 (揚水井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)
H27.4.21	<u>1.1</u>	<u>12</u>	<u>24</u>	<u>2.6</u>	<u>3.0</u>	4.8
H27.6.18	<u>1.4</u>	<u>13</u>	<u>26</u>	<u>2.4</u>	<u>2.0</u>	6.8
H27.10.20	<u>0.32</u>	<u>4.7</u>	<u>8.7</u>	<u>0.80</u>	<u>1.3</u>	7.3
H27.12.11	<u>0.75</u>	<u>6.1</u>	<u>11</u>	<u>0.96</u>	<u>1.1</u>	6.7
H28.2.4	<u>0.47</u>	<u>6.7</u>	<u>12</u>	<u>0.96</u>	<u>1.3</u>	6.2
H28.4.6	<u>1.1</u>	<u>6.7</u>	<u>12</u>	<u>1.0</u>	<u>1.1</u>	7.0
H28.6.9	<u>1.5</u>	<u>18</u>	<u>7.9</u>	<u>0.97</u>	<u>1.8</u>	5.4
H28.8.3	<u>1.4</u>	<u>12</u>	<u>10</u>	<u>1.0</u>	<u>1.9</u>	4.6
H28.10.12	<u>0.76</u>	<u>7.4</u>	<u>11</u>	<u>0.97</u>	<u>1.4</u>	5.5
H28.12.14	<u>2.9</u>	<u>17</u>	<u>2.4</u>	<u>0.74</u>	<u>1.7</u>	4.8
H29.2.6	<u>0.80</u>	<u>6.3</u>	<u>8.9</u>	<u>0.73</u>	<u>1.2</u>	5.3
H29.4.11	<u>0.81</u>	<u>4.5</u>	<u>9.1</u>	<u>0.60</u>	<u>1.1</u>	1.0
H29.6.13	<u>0.77</u>	<u>7.3</u>	<u>16</u>	<u>0.89</u>	<u>1.2</u>	4.2
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5

(注1)単位は、mg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)

表11 地下水調査結果 (C, 3+10)付近浅井戸 (揚水井) の推移

調査年月日	クロロエチレン (注5)	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)
H27.4.22	0.0005	ND	ND	<u>0.056</u>	<u>0.26</u>	3.8
H27.6.17	0.0012	ND	ND	<u>0.018</u>	<u>0.20</u>	2.8
H27.12.11	0.0005	ND	0.004	<u>0.049</u>	0.034	5.2
H28.2.4	ND	ND	<u>0.018</u>	<u>0.031</u>	0.005	8.2
H28.4.7	0.0006	ND	0.008	0.003	0.009	8.8
H28.6.9	ND	ND	0.001	0.005	ND	7.5
H28.8.4	0.0014	0.009	<u>0.015</u>	0.003	0.018	3.4
H28.10.12	ND	ND	0.002	0.005	ND	6.5
H28.12.15	0.0012	0.006	<u>0.032</u>	0.002	ND	7.9
H29.2.7	0.0008	0.006	0.002	0.002	<u>0.057</u>	14
H29.4.11	ND	ND	0.003	0.004	0.008	8.0
H29.6.13	ND	ND	ND	0.001	ND	8.8
地下水の 環境基準	0.002	0.04	0.01 ^(注4)	0.01	0.05	-
定量下限	0.0002	0.004	0.001	0.001	0.005	0.5

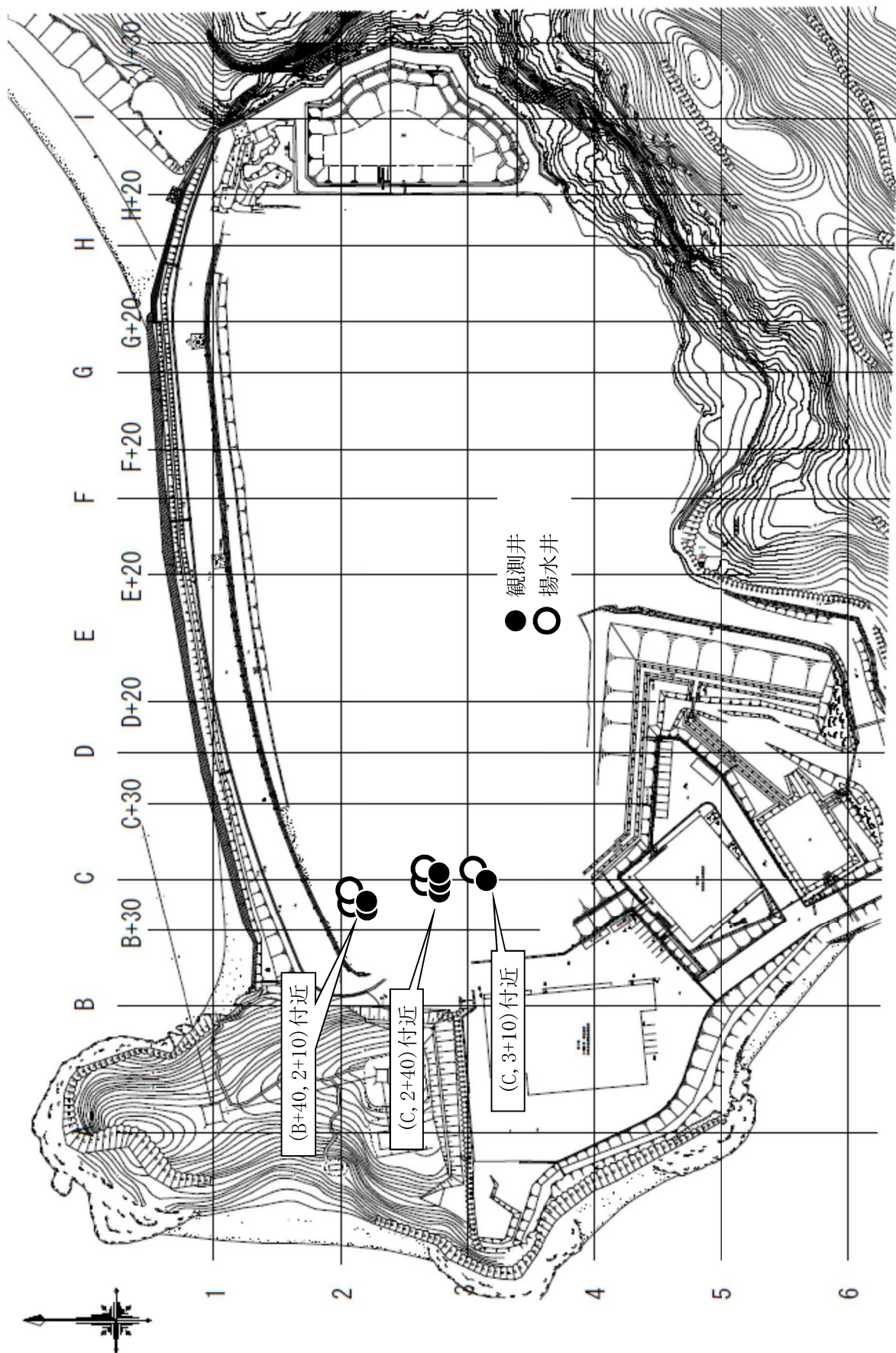
(注1)単位は、mg/Lである。

(注2)ND：定量下限値未満

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、基準を変更した。(平成26年11月調査までの基準は0.03mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、項目名を変更した。(平成29年3月調査までの項目名は塩化ビニルモノマーである。)



調査地点図

豊島における周辺環境モニタリング（水質）結果について

豊島における周辺環境モニタリングは、暫定的な環境保全措置の実施、高度排水処理施設等の建設・運転時、廃棄物等の掘削・運搬の開始後のそれぞれの段階において、周辺環境への影響を把握することを目的としており、これまで、バックグラウンドを確認する事前環境モニタリング、工事前及び工事中、掘削・運搬の開始後の周辺地先海域及び海岸感潮域における調査を順次実施してきた。

今回、平成 29 年 5 月に実施した水質調査結果をとりまとめた。

1 調査の経緯

	調 査 区 分	調 査 期 間	工事、運転等との関連
報 告 済	事前環境モニタリング	平成 10 年 12 月～平成 11 年 12 月 （4 回実施）	暫定工事の開始前に、バックグラウンドを確認するため実施した。
	暫定的な環境保全措置 工事前	平成 12 年 7 月 27 日（木）	事前環境モニタリング終了後、暫定工事開始前に実施した。
	暫定的な環境保全措置 工事中	平成 13 年 7 月 18 日（水）	北海岸では本矢板の打設が終了しており、東側のドレーン工を実施していた。また、東側雨水排水路、透気遮水シートの施工中であり、西海岸においては掘削作業を実施していた。
		平成 14 年 2 月 1 日（金）	西海岸では埋め戻し施工中、西海岸北東部では透気遮水シート、水路の施工中であった。
	中間保管梱包施設、高度 排水処理施設建設工事中	平成 14 年 7 月 23 日（火）	中間保管梱包施設のピット部の基礎工事、高度排水処理施設の水槽部の基礎工事を実施していた。
		平成 15 年 2 月 6 日（木）	中間保管梱包施設の内部仕上げ及び外構工事、高度排水処理施設の無負荷運転を実施していた。
	廃棄物等の掘削・運搬 中、高度排水処理施設等 の運転中	平成 15 年 5 月 15 日（木） （水質調査）	中間処理施設試運転のため、廃棄物等の掘削・運搬作業及び高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 15 年 7 月 14 日（月） （水質調査、底質調査）	
		平成 15 年 10 月 24 日（金） （水質調査、底質調査）	中間処理施設本格稼働後、廃棄物等の掘削・運搬作業及び高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 16 年 2 月 10 日（火） （水質調査）	掘削現場の場内整備、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 16 年 6 月 1 日（火） （水質調査）	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 16 年 7 月 29 日（木） （水質調査、底質調査）	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 16 年 11 月 2 日（火） （水質調査、底質調査）	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 17 年 1 月 14 日（金） （水質調査）	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 17 年 5 月 23 日（月） （水質調査）	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 17 年 7 月 21 日（木） （水質調査、底質調査）	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
平成 17 年 11 月 7 日（月） （水質調査）		廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。	
平成 18 年 1 月 18 日（水） （水質調査）		廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。	
告 報		廃棄物等の掘削・運搬 中、高度排水処理施設等	平成 18 年 5 月 26 日（金） （水質調査）

	調 査 区 分	調 査 期 間	工事、運転等との関連
	の運転中	平成 18 年 8 月 8 日 (金) (水質調査、底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 18 年 11 月 27 日 (月) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 19 年 1 月 24 日 (水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 19 年 6 月 14 日 (木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 19 年 8 月 27 日 (月) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 19 年 11 月 15 日 (木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 20 年 1 月 25 日 (金) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 20 年 5 月 21 日 (水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 20 年 8 月 27 日 (水) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 20 年 11 月 17 日 (月) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 21 年 1 月 28 日 (水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 21 年 5 月 21 日 (木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 21 年 8 月 19 日 (水) 平成 21 年 8 月 20 日 (木) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 21 年 11 月 6 日 (金) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 22 年 1 月 20 日 (水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 22 年 5 月 27 日 (木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 22 年 8 月 30 日 (月) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 22 年 11 月 11 日 (木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 23 年 1 月 24 日 (月) 平成 23 年 1 月 25 日 (火) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 23 年 6 月 29 日 (水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
済 報 告	廃棄物等の掘削・運搬中、高度排水処理施設等	平成 23 年 8 月 26 日 (金) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。

	調 査 区 分	調 査 期 間	工事、運転等との関連
	の運転中	平成 23 年 11 月 17 日(木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 24 年 1 月 27 日(金) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 24 年 5 月 16 日(水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 24 年 8 月 2 日(木) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 24 年 11 月 19 日(月) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 25 年 1 月 17 日(木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 25 年 5 月 22 日(水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 25 年 8 月 19 日(月) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 25 年 11 月 8 日(金) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 26 年 1 月 22 日(水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 26 年 5 月 26 日(水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 26 年 8 月 7 日(木) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 26 年 11 月 12 日(水) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 27 年 1 月 26 日(月) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 27 年 5 月 25 日(金) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 27 年 7 月 30 日(木) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 27 年 11 月 17 日(火) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 28 年 1 月 28 日(木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 28 年 5 月 19 日(木) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 28 年 8 月 2 日(火) (水質調査・底質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
報告済	廃棄物等の掘削・運搬中、高度排水処理施設等の運転中	平成 28 年 11 月 18 日(金) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。
		平成 29 年 1 月 16 日(月) (水質調査)	廃棄物等の掘削・運搬作業、高度排水処理施設等の運転を実施していた。

	調 査 区 分	調 査 期 間	工事、運転等との関連
報 告 今 回	処分地内の構造物撤去中、高度排水処理施設等の運転中	平成 29 年 5 月 25 日(木) (水質調査)	処分地内の構造物撤去工事、高度排水処理施設等の運転を実施していた。

2 調査の概要

1) 調査地点（調査地点図参照）

①周辺地先海域

○水質調査

St-3（西海岸沖）、St-4（北海岸沖）及び St-8（北海岸沖）

②海岸感潮域

○水質調査

St-A（西海岸）、St-B（北海岸）及び St-E（北海岸）

2) 検体採取機関及び分析機関

①検体採取機関：廃棄物対策課、直島環境センター、環境保健研究センター

②分 析 機 関：直島環境センター、環境保健研究センター、四国計測工業(株)

3 調査結果の概要

(1) 周辺地先海域

水質（表 1）

事前環境モニタリングをはじめとするこれまでの調査結果と比べて、特段の差異はみられなかった。

○一般項目（生活環境保全上の基準：8 項目）

- ・全ての項目については、全ての地点において、環境基準を満足していた。

○健康項目（人の健康を保護する上での基準：26 項目）

- ・全ての項目については、全ての地点で検出されず、環境基準値を満足していた。

(2) 海岸感潮域

水質（表 2）

事前環境モニタリングをはじめとするこれまでの調査結果と比べて、特段の差異はみられなかった。

○一般項目（7 項目）

- ・全ての項目及び地点で、管理基準値を満足していた。

○健康項目（26 項目）

- ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が St-A 及び St-E において検出されたが、管理基準値を満足していた。
- ・その他の項目は全ての地点で検出されず、管理基準値を満足していた。

表 1 豊島における周辺環境モニタリング（周辺地先海域水質）

（大腸菌群数の単位：MPN/100ml、ダイオキシン類：pg-TEQ/L、pHを除く単位：mg/L）

測定項目 測定場所	調査日	pH	COD	DO	油分等	大腸菌群数	全窒素	全リン	全亜鉛	アルキル水銀	総水銀	カドミウム	鉛	六価クロム	ヒ素	全シアン	PCB	トリクロエチレン	テトラクロエチレン	ジクロロメタン
南海岸沖 St-1	H13. 7. 18	7. 7	1. 3	6. 9	ND	2. 0	0. 12	0. 021	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	H12. 7. 27	8. 0	1. 5	6. 2	ND	ND	0. 57	0. 027	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
西海岸沖 St-3	平成29年度	H29. 5. 25	8. 0	1. 7	8. 2	ND	ND	0. 25	0. 022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成28年度	最小	8. 0	1. 5	7. 0	ND	ND	0. 15	0. 018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	2. 0	9. 5	ND	ND	0. 32	0. 040	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 7	8. 3	ND	ND	0. 21	0. 029	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成27年度	最小	7. 9	1. 0	7. 1	ND	ND	0. 16	0. 018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	1. 8	9. 9	ND	490	0. 43	0. 036	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 0	1. 4	8. 5	ND	120	0. 26	0. 026	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成26年度	最小	7. 8	1. 4	6. 1	ND	2. 0	0. 27	0. 018	0. 007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	1. 9	9. 5	ND	23	0. 41	0. 043	0. 007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 0	1. 6	7. 7	ND	13	0. 52	0. 030	0. 007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成25年度	最小	8. 1	1. 1	6. 6	ND	ND	0. 15	0. 018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	1. 6	9. 6	ND	13	0. 36	0. 038	0. 003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 4	8. 3	ND	3. 8	0. 23	0. 027	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成24年度	最小	8. 0	0. 7	6. 8	ND	ND	0. 13	0. 016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	2. 3	9. 6	ND	7. 8	0. 35	0. 031	0. 003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 6	8. 4	ND	3. 4	0. 26	0. 023	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成23年度	最小	7. 9	1. 7	5. 8	ND	ND	0. 21	0. 020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	2. 9	9. 8	ND	ND	0. 58	0. 045	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 0	2. 4	7. 8	ND	ND	0. 32	0. 030	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成22年度	最小	8. 1	1. 2	8. 2	ND	ND	0. 19	0. 006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	1. 5	9. 0	ND	ND	0. 25	0. 040	0. 003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 4	8. 7	ND	ND	0. 22	0. 021	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成21年度	最小	8. 1	1. 1	7. 2	ND	ND	0. 14	0. 019	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 2	1. 8	9. 7	ND	33	0. 28	0. 038	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 5	8. 2	ND	15	0. 21	0. 027	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成20年度	最小	8. 0	0. 9	6. 5	ND	ND	0. 11	0. 018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 2	2. 3	9. 3	ND	2. 0	0. 26	0. 028	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 7	7. 8	ND	1. 9	0. 18	0. 021	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成19年度	最小	8. 0	1. 0	6. 7	ND	ND	0. 10	0. 023	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 2	2. 6	8. 5	ND	13	0. 19	0. 042	0. 006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 7	7. 5	ND	5. 3	0. 15	0. 030	0. 004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成18年度	最小	8. 2	1. 0	7. 6	ND	ND	0. 16	0. 024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 3	1. 8	8. 7	ND	4. 5	0. 27	0. 033	0. 004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 3	1. 4	8. 1	ND	ND	0. 22	0. 027	0. 002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成17年度	最小	8. 1	1. 5	7. 1	ND	1. 8	0. 10	0. 019	0. 004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 3	2. 9	9. 4	ND	220	0. 27	0. 049	0. 004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 2	2. 1	8. 0	ND	57	0. 18	0. 030	0. 004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成16年度	最小	8. 0	1. 7	6. 5	ND	ND	0. 12	0. 018	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 1	2. 2	9. 7	ND	23	0. 30	0. 046	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 0	1. 9	7. 9	ND	7. 1	0. 19	0. 031	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成15年度	最小	7. 7	1. 1	6. 7	ND	ND	0. 11	0. 014	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8. 4	1. 8	8. 6	ND	40	0. 40	0. 045	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8. 1	1. 5	7. 6	ND	11	0. 22	0. 029	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成14年度		7. 9～8. 1	1. 6～2. 1	6. 6～9. 2	ND	ND	0. 10～0. 63	0. 022～0. 030	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成13年度		7. 9～8. 0	1. 4～1. 6	7. 0～9. 1	ND	ND	0. 12～0. 13	0. 020～0. 021	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成12年度		8. 0	1. 6	6. 2	ND	ND	0. 42	0. 025	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)		8. 0～ 8. 1 (8. 0)	1. 4～ 2. 0 (1. 7)	6. 3～ 8. 9 (7. 5)	ND	—	0. 13～ 0. 28 (0. 22)	0. 027～ 0. 044 (0. 036)	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
環境基準 (海域A・II類型)		7. 8～ 8. 3	≤2	≥7. 5	ND	≤1000	≤0. 3	≤0. 03	≤0. 01 ⁴⁾	ND	≤0. 0005	≤0. 003 ⁸⁾	≤0. 01	≤0. 05	≤0. 01	ND	ND	≤0. 03	≤0. 01	≤0. 02
検出下限値 (ND)		—	<0. 5	<0. 5	<0. 5	<1. 8	<0. 05	<0. 003	<0. 002	<0. 0005	<0. 0005	<0. 0003 ⁷⁾	<0. 005	<0. 02	<0. 005	<0. 1	<0. 0005	<0. 002	<0. 0005	<0. 002

測定項目		調査日		p H	C O D	D O	油分等	大腸菌群数	全窒素	全リン	全亜鉛	アルキル水銀	総水銀	カドミウム	鉛	六価クロム	ヒ素	全珪素	P C B	トリクロエチレン	テトラクロエチレン	ジクロロメタン
測定場所																						
北海岸沖 St-4	平成29年度	H29.5.25	8.0	1.5	8.2	ND	ND	0.16	0.022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成28年度	最小	8.1	1.5	7.0	ND	ND	0.16	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.6	9.5	ND	4.0	0.29	0.038	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.9	8.3	ND	2	0.20	0.028	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成27年度	最小	8.0	1.2	7.2	ND	ND	0.16	0.016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	1.7	10	ND	490	0.50	0.016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	1.5	8.6	ND	120	0.33	0.016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成26年度	最小	7.9	1.0	5.7	ND	2.0	0.15	0.016	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	1.8	9.7	ND	23	0.57	0.043	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	1.5	7.7	ND	13	0.37	0.030	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成25年度	最小	8.1	1.1	6.8	ND	ND	0.18	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	1.8	11	ND	13	0.34	0.034	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.5	8.6	ND	3.8	0.24	0.025	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成24年度	最小	7.9	2.1	6.3	ND	ND	0.17	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.4	9.9	ND	2.0	0.35	0.050	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	2.3	8.1	ND	1.9	0.27	0.032	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成23年度	最小	7.9	2.1	6.3	ND	ND	0.17	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.4	9.9	ND	2.0	0.35	0.050	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	2.3	8.1	ND	1.9	0.27	0.032	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成22年度	最小	8.1	1.0	7.7	ND	ND	0.15	0.006	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.2	9.2	ND	4.5	0.40	0.043	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.7	8.4	ND	2.6	0.25	0.022	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成21年度	最小	8.0	1.3	7.4	ND	ND	0.13	0.017	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	1.8	9.8	ND	7.8	0.25	0.042	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.6	8.2	ND	4.8	0.22	0.031	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成20年度	最小	8.0	0.9	6.6	ND	ND	0.15	0.014	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.2	2.1	9.7	ND	4.5	0.25	0.028	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.5	8.1	ND	2.6	0.19	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成19年度	最小	8.0	1.0	6.9	ND	ND	0.12	0.024	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	2.5	8.8	ND	23	0.29	0.044	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	1.8	7.7	ND	8.6	0.22	0.031	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成18年度	最小	8.1	1.2	8.0	ND	ND	0.19	0.026	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	2.5	8.6	ND	1.8	0.26	0.038	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	1.6	8.4	ND	ND	0.21	0.030	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成17年度	最小	8.0	1.9	7.4	ND	ND	0.14	0.021	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	3.1	9.4	ND	2.0	0.30	0.044	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	2.3	8.2	ND	1.9	0.19	0.028	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成16年度	最小	8.0	1.7	6.5	ND	2.0	0.14	0.016	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.2	2.4	8.5	ND	540	0.27	0.049	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	2.0	7.5	ND	140	0.21	0.030	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成15年度	最小	7.9	1.1	6.8	ND	ND	0.11	0.015	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.4	2.0	8.9	ND	17	0.28	0.048	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.7	7.9	ND	6.2	0.21	0.031	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成14年度		8.0~8.3	1.4~2.0	7.0~9.4	ND	ND	0.11~0.19	0.019~0.027	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成13年度		7.9~8.1	1.4~1.7	7.0~9.1	ND	ND	0.13~0.14	0.020~0.022	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成12年度		8.0	1.9	6.7	ND	ND	0.17	0.025	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	事前環境モニタリング 最小値~最大値 (平均値)		8.0~ 8.1 (8.1)	1.5~ 2.2 (1.9)	6.5~ 8.9 (7.6)	ND	—	0.12~ 0.38 (0.23)	0.026~ 0.044 (0.034)	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
環境基準 (海域A・II類型)			7.8~ 8.3	≤2	≥7.5	ND	≤1000	≤0.3	≤0.03	≤0.01 ⁴⁾	ND	≤0.0005	≤0.003 ⁸⁾	≤0.01	≤0.05	≤0.01	ND	ND	≤0.03	≤0.01	≤0.02	
検出下限値 (ND)			—	<0.5	<0.5	<0.5	<1.8	<0.05	<0.003	<0.002	<0.0005	<0.0005	<0.0003 ⁷⁾	<0.005	<0.02	<0.005	<0.1	<0.0005	<0.002	<0.0005	<0.002	

測定項目		調査日		p H	C O D	D O	油分等	大腸菌群数	全窒素	全リン	全亜鉛	7メチル水銀	総水銀	カドミウム	鉛	六価クロム	ヒ素	全シアン	P C B	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
測定場所																						
北海岸沖 St-8	平成29年度	H29.5.25	8.1	1.5	8.2	ND	ND	0.16	0.022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成28年度	最小	8.1	1.4	7.0	ND	ND	0.15	0.022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.1	9.4	ND	ND	0.37	0.038	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.7	8.3	ND	ND	0.23	0.029	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成27年度	最小	8.0	1.6	7.4	ND	ND	0.17	0.016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.3	11	ND	240	0.71	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	2.0	8.7	ND	61	0.35	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成26年度	最小	7.9	1.3	5.6	ND	23	0.25	0.018	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.1	10	ND	23	0.69	0.041	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	1.7	7.7	ND	23	0.44	0.030	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成25年度	最小	8.1	1.1	6.9	ND	ND	0.19	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	1.9	10	ND	7.8	0.35	0.034	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.5	8.6	ND	2.0	0.24	0.026	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成24年度	最小	7.9	2.3	6.3	ND	ND	0.20	0.023	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.6	9.9	ND	2.0	0.51	0.050	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	2.5	8.1	ND	1.9	0.30	0.034	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成23年度	最小	7.9	2.3	6.3	ND	ND	0.20	0.023	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.6	9.9	ND	2.0	0.51	0.050	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	2.5	8.1	ND	1.9	0.30	0.034	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成22年度	最小	8.1	1.4	8.1	ND	ND	0.19	0.006	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.1	2.0	9.1	ND	2.0	0.24	0.036	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.7	8.6	ND	ND	0.22	0.014	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成21年度	最小	8.1	1.4	7.3	ND	ND	0.11	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.2	1.6	9.8	ND	23	0.24	0.046	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	1.6	8.3	ND	8.2	0.20	0.030	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成20年度	最小	8.0	1.0	6.6	ND	ND	0.17	0.013	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.2	1.8	9.4	ND	2.0	0.27	0.028	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.6	8.1	ND	1.9	0.20	0.021	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成19年度	最小	8.0	1.1	7.0	ND	ND	0.09	0.023	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	2.6	8.7	ND	11	0.37	0.043	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	2.1	7.7	ND	4.2	0.20	0.031	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成18年度	最小	8.1	0.5	8.1	ND	ND	0.17	0.023	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	2.8	8.5	ND	4.5	0.27	0.037	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	1.7	8.3	ND	2.0	0.22	0.029	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成17年度	最小	8.1	1.9	7.2	ND	ND	0.11	0.019	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	3.0	9.3	ND	2.0	0.27	0.044	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.2	2.2	8.0	ND	1.9	0.18	0.030	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成16年度	最小	8.0	1.6	6.4	ND	ND	0.14	0.018	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.2	2.3	8.5	ND	130	0.28	0.046	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.9	7.5	ND	34	0.20	0.030	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成15年度	最小	8.0	1.4	6.9	ND	ND	0.14	0.014	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.4	1.8	9.6	ND	25	0.31	0.047	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.1	1.6	8.0	ND	7.7	0.23	0.030	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成14年度		8.0~8.2	1.3~2.0	6.8~9.5	ND	ND	0.10~0.20	0.019~0.026	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成13年度		8.1	1.7	9.0	ND	ND	0.14	0.020	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	事前環境モニタリング 最小値~最大値 (平均値)		8.0~ (8.0)	1.5~ (1.8)	6.5~ (7.6)	ND	ND~ (ND)	0.12~ (0.21)	0.027~ (0.035)	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
家浦港沖 St-5	H13.7.18		8.0	2.1	7.3	ND	2.0	0.15	0.023	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	H12.7.27		8.0	1.7	6.7	ND	1.8	0.19	0.029	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
環境基準 (海域A・II 類型)			7.8~ 8.3	≤2	≥7.5	ND	≤1000	≤0.3	≤0.03	≤0.01 ⁴⁾	ND	≤0.0005	≤0.003 ⁸⁾	≤0.01	≤0.05	≤0.01	ND	ND	≤0.03	≤0.01	≤0.02	
検出下限値 (ND)			—	<0.5	<0.5	<0.5	<1.8	<0.05	<0.003	<0.002	<0.0005	<0.0005	<0.0003 ⁷⁾	<0.005	<0.02	<0.005	<0.1	<0.0005	<0.002	<0.0005	<0.002	

測定項目 測定場所	調査日	四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	1,1,2-トリクロロエタン	1,3-ジクロロプロペン	ベンゼン	チウラム	シメジン	チオベンカルブ	セレン	有機リン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1,4-ジオキサン	ニッケル	モリブデン	アンチモン	塩化物イオン	ダイオキシン類 ²⁾		
南海岸沖 St-1	H13. 7. 18	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	18,300	0.078		
	H12. 7. 27	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	0.007	0.001	18,500	0.086		
西海岸沖 St-3	平成29年度	H29. 5. 25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	18,100	—		
	平成28年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND	17,200	0.065	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	ND	ND	0.010	ND	18,300	0.072
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	ND	ND	0.010	ND	17,600	0.069
	平成27年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND	17,000	0.065	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.14	ND	ND	0.010	ND	17,900	0.078
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.010	ND	17,400	0.072
	平成26年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	0.010	ND	16,700	0.081
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.17	ND	ND	0.011	ND	17,900	0.090
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	ND	ND	0.011	ND	17,400	0.086
	平成25年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	16,700	0.068	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	18,100	0.29	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	17,600	0.18	
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	17,200	0.070	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	0.016	ND	18,000	0.21
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	ND	ND	0.014	ND	17,500	0.14
	平成23年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.009	ND	17,300	0.084
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.010	ND	17,900	0.10
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	ND	ND	0.010	ND	17,700	0.092
	平成22年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	18,000	0.054	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	18,800	0.10	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	18,500	0.077	
	平成21年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	18,200	0.063	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	19,000	0.094
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	18,500	0.079
	平成20年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	18,500	0.071	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	—	ND	ND	ND	18,700	0.074
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	—	ND	ND	ND	18,600	0.073
	平成19年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	18,000	0.068
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	—	ND	ND	ND	19,100	0.17
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	—	ND	ND	ND	18,500	0.12
	平成18年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	17,700	0.072
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.13	—	ND	ND	ND	18,900	0.095
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	—	ND	ND	ND	18,300	0.084
	平成17年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	18,000	0.076
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	—	ND	ND	ND	19,000	0.077
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	—	ND	ND	ND	18,700	0.077
	平成16年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	18,200	0.079
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.20	—	ND	0.010	ND	19,200	0.32
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	0.009	ND	18,500	0.20
	平成15年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	17,400	0.091
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	—	ND	ND	0.001	18,800	0.12
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	ND	0.001	17,800	0.11
	平成14年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	17,900~19,200	0.077~0.087	
	平成13年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	18,300~18,800	0.079~0.25	
	平成12年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	18,500	0.075	
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	ND	<0.007~ 0.013 (0.009)	ND	17,400~ 18,600 (18,000)	0.065	
環境基準 (海域A・II類型)		≤0.002	≤0.004	≤0.1 ⁶⁾	≤0.04	≤1	≤0.006	≤0.002	≤0.01	≤0.006	≤0.003	≤0.02	≤0.01	—	≤10	≤0.05	—	0.07 ³⁾	0.02 ³⁾	—	≤1		
検出下限値 (ND)		<0.0002	<0.0004	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.0006	<0.0002	<0.001	<0.0006 ⁵⁾	<0.0003	<0.002	<0.005	<0.1	<0.01	<0.005	<0.05	<0.007	<0.001	—	—		

測定項目 測定場所	調査日		四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	1,1,2-トリクロロエタン	1,3-ジクロロプロペン	ベンゼン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ	セレン	有機リン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1,4-ジオキサン	ニッケル	モリブデン	アンチモン	塩化物イオン	ダイオキシン類 ²⁾	
北海岸沖 St-4	平成29年度	H29.5.25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	18,200	—	
	平成28年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND	17,100	0.063	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	ND	ND	0.010	ND	18,000	0.077
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	ND	ND	0.010	ND	17,400	0.07
	平成27年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	16,600	0.070
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	ND	ND	0.011	ND	17,900	0.079
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.010	ND	17,300	0.075
	平成26年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.009	ND	16,700	0.080
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.17	ND	ND	0.009	ND	17,900	0.130
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	ND	ND	0.009	ND	17,400	0.105
	平成25年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	16,700	0.051
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	18,100	0.062
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	17,600	0.057
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	17,100	0.070
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	0.013	ND	17,900	0.083
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.012	ND	17,500	0.077
	平成23年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	ND	ND	17,300	0.081
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.23	ND	ND	ND	ND	17,800	0.086
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	ND	ND	ND	ND	17,600	0.084
	平成22年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	18,500	0.056
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	ND	ND	ND	ND	18,900	0.089
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	ND	ND	18,600	0.073
	平成21年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	18,100	0.064
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	18,900	0.090
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	18,600	0.077
	平成20年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	18,500	0.073
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	—	ND	ND	ND	18,900	0.074
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	—	ND	ND	ND	18,700	0.074
	平成19年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	17,800	0.067
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	—	ND	ND	ND	19,300	0.086
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	ND	ND	18,500	0.077
	平成18年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	17,500	0.095
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.14	—	ND	ND	ND	18,500	0.097
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	ND	ND	18,200	0.096
	平成17年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	17,500	0.075
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	—	ND	ND	ND	18,700	0.089
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	—	ND	ND	ND	18,000	0.082
	平成16年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	17,800	0.078
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.18	—	ND	0.007	ND	18,800	0.083
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	—	ND	0.007	ND	18,300	0.081
	平成15年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	17,000	0.086
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	—	ND	ND	ND	19,000	0.17
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	ND	ND	17,700	0.12
	平成14年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	17,900~19,300	0.077~0.08
	平成13年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	18,200~18,800	0.081~0.14
	平成12年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	0.007	0.001	18,300	0.086
	事前環境モニタリング 最小値~最大値 (平均値)			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	ND	0.008~0.012 (0.009)	ND	ND	17,200~18,600 (17,900)
環境基準 (海域A・II類型)			≤0.002	≤0.004	≤0.1 ⁶⁾	≤0.04	≤1	≤0.006	≤0.002	≤0.01	≤0.006	≤0.003	≤0.02	≤0.01	—	≤10	≤0.05	—	0.07 ³⁾	0.02 ³⁾	—	≤1	
検出下限値 (ND)			<0.0002	<0.0004	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.0006	<0.0002	<0.001	<0.0006 ⁵⁾	<0.0003	<0.002	<0.005	<0.1	<0.01	<0.005	<0.05	<0.007	<0.001	—	—	

測定項目		調査日		四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	1,1,2-トリクロロエタン	1,3-ジクロロプロペン	ベンゼン	チウラム	シタジン	チオベンカルブ	セレン	有機リン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1,4-ジオキサン	ニッケル	モリブデン	アンチモン	塩化物イオン	ダイオキシン類 ²⁾	
測定場所																								
北海岸沖 St-8	平成29年度	H29.5.25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	18,100	—	
	平成28年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND	17,200	0.064	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	ND	ND	0.010	ND	18,000	0.064	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	ND	ND	0.010	ND	17,500	0.064	
	平成27年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	0.009	ND	16,700	0.061	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	ND	ND	0.011	ND	17,800	0.094	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.010	ND	17,300	0.078	
	平成26年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	0.009	ND	16,600	0.065	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.17	ND	ND	0.010	ND	17,700	0.078	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	ND	ND	0.010	ND	17,300	0.072	
	平成25年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.010	ND	17,000	0.054	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	0.013	ND	18,000	0.32	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	ND	ND	0.012	ND	17,700	0.19	
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	17,100	0.070	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	0.015	ND	17,900	0.071	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.012	ND	17,500	0.071	
	平成23年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	0.008	ND	17,300	0.068	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.23	ND	ND	0.010	ND	17,800	0.073	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	ND	ND	0.009	ND	17,600	0.071	
	平成22年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	ND	ND	18,000	0.055	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	ND	ND	18,800	0.080	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	ND	ND	18,500	0.068	
	平成21年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	18,200	0.058	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	18,800	0.10	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	18,500	0.079	
	平成20年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	18,500	0.074	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	—	ND	ND	ND	18,900	0.087	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	—	ND	ND	ND	18,700	0.081	
	平成19年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	17,700	0.061	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	—	ND	ND	ND	19,000	0.11	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	—	ND	ND	ND	18,500	0.086	
	平成18年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	18,000	0.082	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.14	—	ND	ND	ND	18,800	0.094	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	—	ND	ND	ND	18,300	0.088	
	平成17年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	17,300	0.088	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	ND	ND	18,700	0.095	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	18,000	0.092	
	平成16年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	0.008	ND	17,400	0.077	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.21	—	ND	0.008	ND	19,600	0.55	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	0.008	ND	18,400	0.31	
	平成15年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	16,600	0.080	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	—	ND	0.007	0.004	19,000	0.18	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	0.007	0.002	17,600	0.14	
	平成14年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	17,900～19,300	0.077～0.079
	平成13年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	18,700	0.079
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	ND	0.008～ 0.010 (0.009)	ND	17,300～ 18,500 (17,900)	0.065
家浦港沖 St-5	H13.7.18		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	17,900	0.41	
	H12.7.27		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	0.007	0.001	18,200	0.084	
環境基準 (海域A・II類型)			≤0.002	≤0.004	≤0.1 ⁶⁾	≤0.04	≤1	≤0.006	≤0.002	≤0.01	≤0.006	≤0.003	≤0.02	≤0.01	—	≤10	≤0.05	—	0.07 ³⁾	0.02 ³⁾	—	≤1		
検出下限値 (ND)			<0.0002	<0.0004	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.0006	<0.0002	<0.001	<0.0006 ⁵⁾	<0.0003	<0.002	<0.005	<0.1	<0.01	<0.005	<0.05	<0.007	<0.001	—	—		

1) 事前環境モニタリング：H11.1.21、H11.6.16、H11.9.9、H11.11.29実施 平成12年度：H12.7.27実施 (St-3、St-4) 平成13年度：H13.7.18 (St-3、St-4)、H14.2.1実施 平成14年度：H14.7.23、H15.2.6実施

平成15年度：H15.5.15、H15.7.14、H15.10.24、H16.2.10実施 平成16年度：H16.6.1、H16.7.29、H16.11.2、H17.1.14実施 平成17年度：H17.5.23、H17.7.21、H17.11.7、H18.1.18実施 平成18年度：H18.5.26、H18.8.8、H18.11.27、H19.1.24実施

平成19年度：H19.6.14、H19.8.27、H19.11.15、H20.1.25実施 平成20年度：H20.5.21、H20.8.27、H20.11.17、H21.1.28実施 平成21年度：H21.5.21、H21.8.19、H21.11.6、H22.1.20実施 平成22年度：H22.5.27、H22.8.30、H22.11.11、H23.1.25実施

平成23年度：H23.6.29、H23.8.26、H23.11.17、H24.1.27実施 平成24年度：H24.5.16、H24.8.2、H24.11.19、H25.1.17実施 平成25年度：H25.5.22、H25.8.19、H25.11.8、H26.1.22実施 平成26年度：H26.5.26、H26.8.7、H26.11.12、H27.1.22実施

平成27年度：H27.5.15、H27.7.30、H27.11.17、H28.1.28実施 平成28年度：H28.5.19、H28.8.2、H28.11.18、H29.1.16実施

2) ダイオキシン類 (コブナ-PCBを含む) は、事前環境モニタリングについては1回分 (H11.11.29) の測定データである。

3) 要監視項目指針値

4) 生物特A類型 (生物A類型)の水域のうち、水生生物の産卵場 (繁殖場) 又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域)の基準値

5) 環境庁通知に基づき、検出下限を変更した。(平成17年7月調査までの検出下限値は0.001mg/Lである。)

6) 環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成22年1月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

7) 環境庁通知に基づき、検出下限を変更した。(平成24年1月調査までの検出下限値は0.001mg/Lである。)

8) 環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成24年1月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

9) 赤字は海域の環境基準を超過したものを示す。

表2 豊島における周辺環境モニタリング（海岸感潮域間隙水水質）

（大腸菌群数の単位：MPN/100mL、ダイオキシン類：pg-TEQ/L、pHを除く単位：mg/L）

測定項目 測定場所	調査日	pH	COD	油分等	大腸菌 群数	全窒素	全リン	全亜鉛	70μL 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	六価 クロム	ひ素	全シアン	PCB	トリクロ エレン	テトラクロ エレン	ジクロロ メタン	四塩化 炭素
西海岸St-A	平成29年度	H29.5.25	7.9	1.4	ND	ND	0.33	0.044	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成28年度	最小	7.7	1.1	ND	ND	0.19	0.025	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	2.5	0.6	ND	0.58	0.052	0.029	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.8	1.8	0.5	ND	0.37	0.038	0.021	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成27年度	最小	7.8	1.0	ND	ND	0.19	0.034	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.9	2.6	ND	ND	0.35	0.049	0.079	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.9	1.8	ND	ND	0.27	0.038	0.032	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成26年度	最小	7.7	0.8	ND	2.0	0.24	0.027	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	2.6	ND	2.0	0.47	0.033	0.085	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.9	1.4	ND	2.0	0.33	0.030	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成25年度	最小	7.6	1.2	ND	ND	0.24	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.9	2.1	ND	4.5	0.48	0.88	0.016	ND	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.8	1.7	ND	ND	0.35	0.45	0.008	ND	ND	0.0003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成24年度	最小	7.8	1.0	ND	ND	0.15	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	1.7	ND	ND	0.39	0.073	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.9	1.5	ND	ND	0.25	0.036	0.013	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成23年度	最小	7.6	1.1	ND	ND	0.17	0.024	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	11	ND	2.0	0.48	0.032	0.040	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.7	3.7	ND	1.9	0.34	0.028	0.022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成22年度	最小	7.5	0.5	ND	ND	0.25	0.025	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.8	1.8	ND	ND	0.31	0.036	0.036	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.7	0.9	ND	ND	0.27	0.032	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成21年度	最小	7.5	0.7	ND	ND	0.15	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.7	1.7	ND	2.0	1.5	0.042	0.029	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.6	1.1	ND	1.9	0.59	0.031	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成20年度	最小	7.6	ND	ND	ND	0.17	0.024	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	ND	ND	4.5	0.32	0.047	0.026	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.8	ND	ND	2.5	0.25	0.035	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成19年度	最小	7.6	ND	ND	ND	0.17	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.8	0.6	ND	2.0	0.81	0.052	0.014	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.7	0.5	ND	1.9	0.41	0.040	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成18年度	最小	7.6	ND	ND	ND	0.27	0.037	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	1.3	ND	ND	0.47	0.096	0.028	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.8	0.8	ND	ND	0.37	0.068	0.021	ND	ND	ND	ND	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成17年度	最小	7.8	1.2	ND	ND	0.13	0.028	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	1.7	ND	2.0	0.43	0.057	0.021	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.9	1.5	ND	1.9	0.31	0.039	0.016	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成16年度	最小	7.6	0.6	ND	ND	0.21	0.035	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.9	1.9	ND	2.0	0.44	0.043	—	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.8	1.4	ND	1.9	0.29	0.039	—	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成15年度	最小	7.8	0.7	ND	ND	0.08	0.032	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.3	1.4	ND	ND	0.43	0.042	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	8.0	1.1	ND	ND	0.26	0.036	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成14年度		7.7～8.4	1.3～1.4	ND	ND	0.11～0.40	0.045～0.060	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成13年度		7.4～8.0	1.2～1.7	ND	ND	0.12～0.25	0.040～0.052	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成12年度		7.7	1.0	ND	ND	0.27	0.041	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 （平均値）		7.6～ 8.0 (7.8)	1.0～ 1.7 (1.3)	ND	—	0.16～ 0.40 (0.27)	0.026～ 0.065 (0.047)	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
管理基準値		5.0～ 9.0	≤30	鉱油類等 ≤35	1,000	≤120	≤16	≤2 ⁶⁾	ND	≤0.005	≤0.03 ⁵⁾	≤0.1	≤0.5	≤0.1	≤1	≤0.003	≤0.3	≤0.1	≤0.2	≤0.02
検出下限値（ND）		—	<0.5	<0.5	<1.8	<0.05	<0.003	<0.002	<0.0005	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.02	<0.005	<0.1	<0.0005	<0.002	<0.0005	<0.002	<0.0002

測定項目		調査日		p H	C O D	油分等	大腸菌 群数	全窒素	全リン	全亜鉛	アルキル 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	六価 クロム	ヒ素	全シアン	P C B	トリクロロ エチレン	テトラクロロ エチレン	ジクロロ メタン	四塩化 炭素	
測定場所																							
北海岸 St-B	平成29年度	H29.5.25	7.4	5.2	ND	ND	0.70	0.061	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成28年度	最小	7.5	3.4	ND	ND	0.44	0.078	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.9	6.4	0.5	460	1.6	0.15	0.034	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.65	4.9	0.5	118.7	0.8025	0.11325	0.021	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.00575	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成27年度	最小	7.5	3.2	ND	ND	0.68	0.072	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.6	5.0	ND	13	0.96	0.19	0.062	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.6	4.1	ND	6.2	0.83	0.12	0.030	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成26年度	最小	7.4	3.4	ND	4.5	0.48	0.056	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.7	5.9	ND	11	1.00	0.18	0.050	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.6	5.2	ND	7.8	0.73	0.11	0.016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成25年度	最小	7.3	4.1	ND	ND	0.88	0.049	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.6	4.8	ND	ND	1.5	0.88	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.5	4.5	ND	ND	1.1	0.49	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成24年度	最小	7.1	6.7	ND	ND	1.4	0.066	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.4	16	ND	ND	5.4	0.17	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.3	10	ND	ND	3.1	0.094	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成23年度	最小	7.3	2.8	ND	ND	0.58	0.075	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.7	50	0.9	7.8	4.1	0.17	0.047	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.4	17	0.5	3.4	2.5	0.11	0.023	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成22年度	最小	7.4	4.3	ND	ND	1.2	0.075	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.5	50	0.9	7.8	7.7	0.15	0.017	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.3	22	0.7	3.3	3.6	0.11	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成21年度	最小	7.1	8.1	ND	ND	1.4	0.12	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.4	41	ND	7.8	6.1	0.19	0.021	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.3	24	ND	8.4	4.5	0.15	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成20年度	最小	7.1	4.8	ND	ND	1.5	0.061	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.5	21	0.5	49	7.0	0.41	0.028	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.2	16	0.5	15	4.9	0.18	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成19年度	最小	6.9	7.4	ND	ND	3.0	0.059	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.6	31	0.6	2.0	11	0.20	0.040	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.2	20	0.5	2.0	6.7	0.13	0.013	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成18年度	最小	6.8	8.9	ND	ND	3.2	0.13	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.4	52	1.4	4.5	23	0.50	0.022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.0	39	0.7	2.8	11.8	0.23	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成17年度	最小	6.8	19	1.3	ND	12	0.15	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.0	110	2.9	2.8	20	0.24	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	6.9	70	2.1	19	15	0.19	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成16年度	最小	6.8	61	ND	ND	15	0.095	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.2	89	4.1	16000	26	0.16	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	7.0	75	1.9	4000	19	0.13	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成15年度	最小	6.8	75	ND	ND	13	0.11	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		最大	7.0	92	1.8	45	19	0.23	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		平均	6.9	80	1.3	15	16	0.16	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成14年度			6.8～6.9	100～140	2.4～6.0	ND～7.8	15～36	0.21～0.29	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成13年度			6.9～7.1	130～170	2.2～6.3	4.0～4.0	23～41	0.24～0.26	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND～0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成12年度			6.8	170	1.3	2.0	22	0.31	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)			6.4～ 6.8 (6.7)	190～ 240 (210)	1.4～ 3.7 (2.4)	—	23～ 32 (29)	0.24～ 0.36 (0.31)	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND～ 0.007 (0.006)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
管理基準値			5.0～ 9.0	≤30	鉱油類等 ≤35	1,000	≤120	≤16	≤2 ⁶⁾	ND	≤0.005	≤0.03 ⁵⁾	≤0.1	≤0.5	≤0.1	≤1	≤0.003	≤0.3	≤0.1	≤0.2	≤0.02		
検出下限値 (ND)			—	<0.5	<0.5	<1.8	<0.05	<0.003	<0.002	<0.0005	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.02	<0.005	<0.1	<0.0005	<0.002	<0.0005	<0.002	<0.0002		

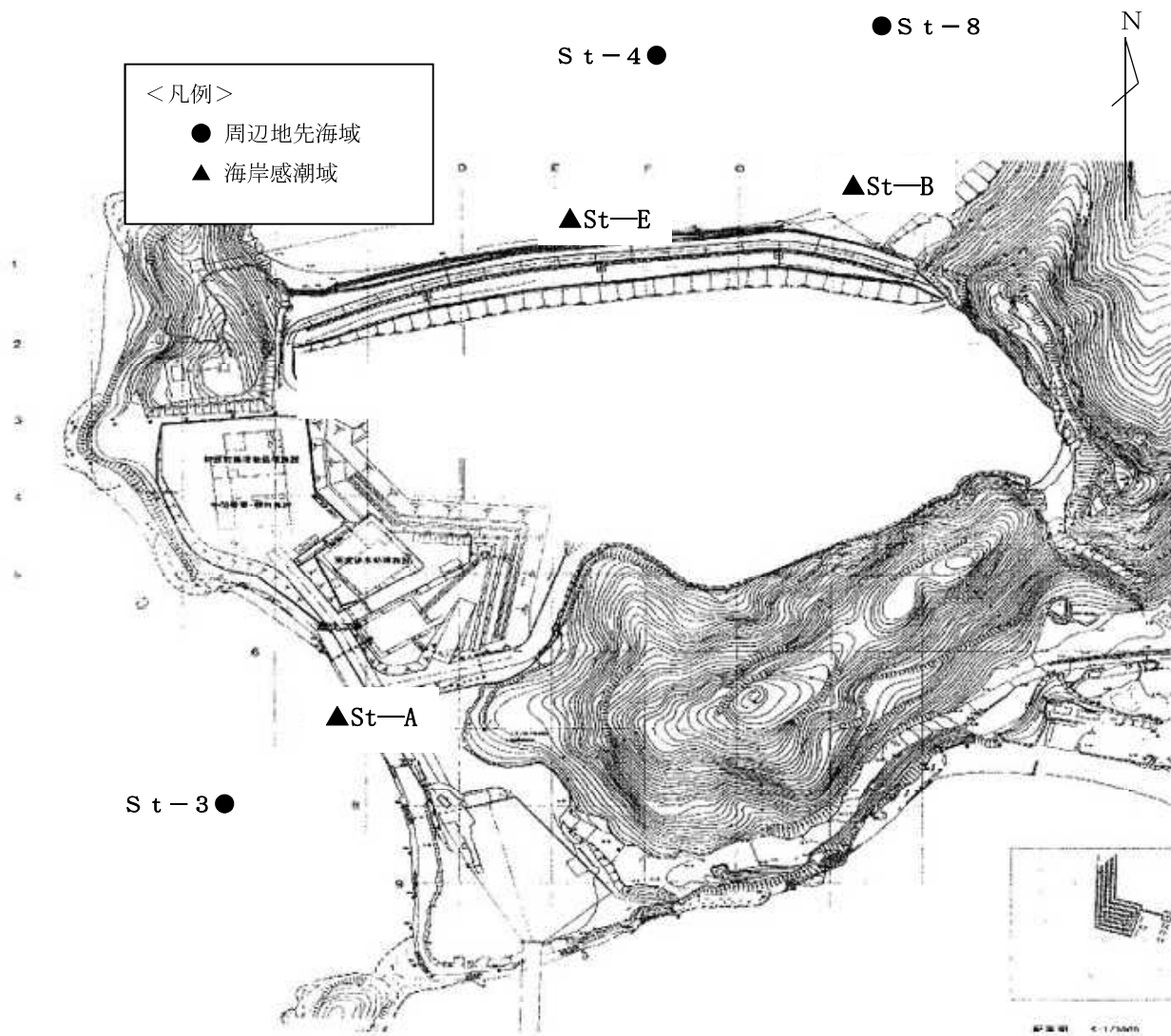
測定項目		測定場所																			
調査日		p H	C O D	油分等	大腸菌 群数	全窒素	全リン	全亜鉛	アルキル 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	六価 クロム	ヒ素	全シアン	P C B	トリクロロ エチレン	テトラクロロ エチレン	ジクロロ メタン	四塩化 炭素	
北海 岸 St-E	平成29年度	H29.5.25	7.5	2.6	ND	ND	1.4	0.033	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平成28年度	最小	7.3	2.1	ND	ND	0.8	0.030	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.8	3.6	0.6	17	1.5	0.061	0.033	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.6	3.0	0.5	5.65	1.1	0.047	0.01375	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成27年度	最小	7.4	2.3	ND	ND	0.9	0.021	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.8	3.1	ND	9.3	2.1	0.048	0.060	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.6	2.7	ND	3.7	1.4	0.037	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成26年度	最小	7.4	2.1	ND	2.0	1.1	0.023	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.6	5.1	ND	22	3.0	0.046	0.12	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.5	3.6	ND	8.7	2.0	0.034	0.034	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成25年度	最小	7.3	1.1	ND	ND	1.2	0.029	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.6	3.7	0.5	7.8	1.7	0.62	0.040	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.5	2.7	ND	3.5	1.6	0.33	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成24年度	最小	7.8	1.0	ND	ND	0.15	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	8.0	1.7	ND	ND	0.39	0.073	0.020	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.9	1.5	ND	ND	0.25	0.036	0.013	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成23年度	最小	7.4	2.9	ND	ND	1.8	0.040	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.7	3.7	ND	2.0	3.3	0.060	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.6	3.2	ND	1.9	2.7	0.047	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成22年度	最小	7.1	2.2	ND	ND	2.2	0.020	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.5	12.0	ND	2.0	7.0	0.051	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.3	5.0	ND	ND	4.5	0.030	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成21年度	最小	7.3	3.9	ND	ND	4.1	0.014	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.3	7.5	ND	4.5	9.5	0.056	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.3	4.9	ND	2.5	6.1	0.036	0.016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成20年度	最小	7.2	4.1	ND	ND	8.6	0.020	0.011	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.3	5.4	ND	ND	13	0.044	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.2	4.9	ND	ND	10	0.031	0.014	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成19年度	最小	7.1	4.9	ND	ND	7.7	0.006	0.004	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.3	6.2	ND	2.0	10	0.057	0.017	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		平均	7.3	5.5	ND	1.9	9.0	0.033	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	平成18年度	最小	7.0	5.2	ND	ND	4.2	0.019	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		最大	7.2	6.8	ND	2.0	10	0.10	0.033	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND
平均		7.1	6.2	ND	ND	6.3	0.060	0.013	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
平成17年度	最小	7.0	8.8	ND	ND	13	0.056	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	最大	7.2	16.0	0.5	2.0	24	0.10	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	0.017	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平均	7.1	14.0	0.5	1.9	19	0.075	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
平成16年度	最小	7.0	16.0	ND	ND	21	0.064	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	最大	7.1	25.0	0.5	28	44	0.15	—	ND	ND	ND	0.005	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平均	7.0	22.0	0.5	8.4	36	0.11	—	ND	ND	ND	0.005	ND	0.006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
平成15年度	最小	7.1	14.0	ND	ND	25	0.071	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	最大	7.2	21.0	ND	4.5	32	0.17	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
	平均	7.1	18.0	ND	2.5	29	0.099	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
平成14年度		7.0~7.0	15~29	ND	ND	19~46	0.10~0.28	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND~0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
平成13年度		7.2~7.2	1.3~21	ND~0.5	ND~1.8	14~40	0.13~0.20	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
平成12年度		6.9	230	3.5	ND	170	0.84	—	ND	ND	ND	ND	ND	0.049	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
事前環境モニタリング 最小値~最大値 (平均値)		6.6~ 7.1 (6.9)	140~ 420 (250)	1.6~ 9.2 (4.4)	—	98~ 280 (190)	0.33~ 0.90 (0.70)	—	ND	ND	ND	ND	ND	0.019~ 0.06 (0.043)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
管理基準値			5.0~ 9.0	≤30	鉱油類等 ≤35	1,000	≤120	≤16	≤2 ⁶⁾	ND	≤0.005	≤0.03 ⁵⁾	≤0.1	≤0.5	≤0.1	≤1	≤0.003	≤0.3	≤0.1	≤0.2	≤0.02
検出下限値 (ND)			—	<0.5	<0.5	<1.8	<0.05	<0.003	<0.002	<0.0005	<0.0005	<0.001	<0.005	<0.02	<0.005	<0.1	<0.0005	<0.002	<0.0005	<0.002	<0.0002

測定項目		調査日		1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	1,1,2-トリクロロエタン	1,3-ジクロロプロペン	ベンゼン	チラム	シマジン	チオベンカルブ	セレン	有機リン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1,4-ジオキサン	ニッケル	モリブデン	アンチモン	塩化物イオン	ダイオキシン類 ²⁾	
測定場所	平成29年度			H29.5.25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	ND	—	—	—	17,200	—
西海岸St-A	平成28年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	ND	ND	ND	ND	17,500	1.6	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	0.49	ND	ND	0.008	ND	18,300	2.2	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.28	ND	ND	0.008	ND	18,000	1.9	
	平成27年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	ND	ND	ND	ND	17,500	0.86	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	0.22	ND	ND	0.011	0.004	18,400	9.8	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.14	ND	ND	0.009	0.003	17,800	5.3	
	平成26年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	ND	ND	0.013	ND	17,500	3.1
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.31	ND	ND	0.025	0.002	18,600	4.1
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.19	ND	ND	0.019	0.002	18,100	3.6
	平成25年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	ND	ND	0.016	ND	17,100	1.5
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.32	ND	ND	0.049	ND	18,700	2.3
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.23	ND	ND	0.033	ND	18,100	1.9
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	0.007	ND	17,500	1.0
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	0.27	ND	ND	0.011	ND	18,000	1.4
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	ND	ND	0.009	ND	17,700	1.2
	平成23年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.010	ND	16,100	0.43
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.31	ND	ND	0.015	0.003	18,100	0.52
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.21	ND	ND	0.013	0.001	17,300	0.48
	平成22年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.008	ND	15,400	1.7
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.20	ND	ND	0.010	0.002	18,900	1.8
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.13	ND	ND	0.009	0.002	17,500	1.8
	平成21年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	—	ND	ND	0.002	16,500	0.49
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.38	—	ND	ND	0.002	19,400	0.50
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.17	—	ND	ND	0.002	18,500	0.50
	平成20年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	—	ND	ND	ND	18,800	0.12
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.19	—	ND	0.009	ND	19,600	1.2
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	—	ND	0.008	ND	19,200	0.66
	平成19年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.08	—	ND	ND	0.001	18,500	2.7
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.34	—	ND	ND	0.003	18,900	3.8
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.19	—	ND	ND	0.002	18,700	3.3
	平成18年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	—	ND	ND	0.001	16,700	1.1
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.39	—	ND	0.009	0.001	18,700	2.4
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.18	—	ND	0.005	0.001	18,000	1.8
	平成17年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	—	ND	0.007	ND	17,300	1.6
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.36	—	ND	0.014	0.005	18,700	7.6
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.24	—	ND	0.011	0.003	18,300	4.6
	平成16年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	—	ND	ND	0.001	16,000	1.9
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.39	—	ND	0.008	0.015	17,700	5.8
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.22	—	ND	0.008	0.008	16,700	3.9
	平成15年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	14,100	2.6
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.36	—	ND	0.008	0.004	18,800	6.6
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.19	—	ND	0.007	0.001	16,700	4.8
	平成14年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	18,000～19,200	5.3～9.6
	平成13年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	0.001～0.001	17,500～18,700	3.6～15
	平成12年度			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	0.008	0.001	17,900	9.4
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	ND	ND～ 0.011 (0.009)	ND～ 0.001 (0.001)	17,100～ 18,600 (17,900)	37
	管理基準値			≤0.04	≤ ¹⁾	≤0.4	≤3	≤0.06	≤0.02	≤0.1	≤0.06	≤0.03	≤0.2	≤0.1	≤1	≤100	≤0.5	—	—	—	—	—	≤10
検出下限値 (ND)			<0.0004	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.0006	<0.0002	<0.001	<0.0006 ³⁾	<0.0003	<0.002	<0.005	<0.1	<0.01	<0.005	<0.05	<0.007	<0.001	—	—		

測定項目 測定場所		調査日		1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	1,1,2-トリクロロエタン	1,3-ジクロロプロペン	ベンゼン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ	セレン	有機リン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1,4-ジオキサン	ニッケル	モリブデン	アンチモン	塩化物イオン	ダイオキシン類 ²⁾	
北海岸 St-B	平成29年度	H29.5.25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	—	16,300	—	
	平成28年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15,500	0.48	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.01	ND	ND	ND	17,300	1.2	
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	0.01	ND	ND	ND	16,400	0.84	
	平成27年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15,700	0.43	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.027	ND	17,500	0.58
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.022	ND	16,600	0.51
	平成26年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15,700	0.43	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	ND	ND	0.027	ND	17,500	0.58
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	ND	ND	0.022	ND	16,600	0.51
	平成25年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	14,200	0.34	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	ND	ND	ND	17,800	0.53
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	16,700	0.44	
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	12,800	0.19	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.015	ND	0.008	ND	17,200	0.34
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.010	ND	0.007	ND	15,500	0.27
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	12,800	0.19	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.015	ND	0.008	ND	17,200	0.34
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.010	ND	0.007	ND	15,500	0.27
	平成23年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5,070	0.16	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.020	ND	0.012	0.002	17,500	0.54
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.011	ND	0.010	0.001	13,000	0.35
	平成22年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005	ND	ND	ND	2,800	0.66
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.035	ND	ND	ND	17,500	1.4
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.019	ND	ND	ND	12,900	1.0
	平成21年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	8,000	0.32
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	16,800	0.47
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	12,200	0.40
	平成20年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	8,400	0.23
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	0.008	ND	17,100	0.24
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	0.008	ND	11,900	0.24
	平成19年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	8,000	0.47
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	ND	16,600	0.93
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	—	ND	ND	ND	11,900	0.70
	平成18年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	0	6,000	1.2
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	—	ND	ND	0.001	15,400	2.8
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	—	ND	ND	0.001	9,880	2.0
	平成17年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	4,600	0.57
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	0.005	11,500	1.3
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	0.003	8,680	0.94
	平成16年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	5,790	0.27
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	—	ND	0.010	0.011	9,520	1.8
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	0.009	0.006	7,500	1.0
	平成15年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	3,920	0.19
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	0.001	12,000	1.9
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	0.001	7,400	0.96
	平成14年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	6,300～9,300	0.21～1.0
	平成13年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND～0.002	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	6,800～11,100	0.56～0.97
	平成12年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	11,100	0.43
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND～0.001 (0.001)	ND	ND	ND	ND	—	—	—	ND	ND～0.041 (0.016)	ND	8,700～10,600 (9,800)	0.25
管理基準値			≤0.04	≤1 ⁴⁾	≤0.4	≤3	≤0.06	≤0.02	≤0.1	≤0.06	≤0.03	≤0.2	≤0.1	≤1	≤100	≤0.5	—	—	—	—	—	≤10	
検出下限値 (ND)			<0.0004	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.0006	<0.0002	<0.001	<0.0006 ³⁾	<0.0003	<0.002	<0.005	<0.1	<0.01	<0.005	<0.05	<0.007	<0.001	—	—		

測定項目 測定場所		調査日		1, 2- ジクロロ エタン	1, 1- ジクロロ エチレン	ジス-1, 2- ジクロロ エチレン	1, 1, 1- トリクロロ エタン	1, 1, 2- トリクロロ エタン	1, 3- ジクロロ プロペン	ベンゼン	チウラム	シマジン	チオベン カルブ	セレン	有機リン	硝酸性窒素 及び亜硝酸 性窒素	1, 4- ジオキサン	ニッケル	モリブデン	アンチモン	塩化物イ オン	ダイオキ シン類 ²⁾	
北 海 岸 St-E	平成29年度	H29. 5. 25	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.44	ND	—	—	—	17,100	—	
	平成28年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.25	ND	ND	ND	ND	16,200	0.14	
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	0.72	0.005	ND	ND	0.002	16,800	0.21
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.50	0.005	ND	ND	0.002	16,500	0.18
	平成27年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	ND	ND	ND	ND	15,500	0.14
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.62	0.006	ND	0.007	0.001	17,000	0.43
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.35	0.005	ND	0.007	0.001	16,300	0.29
	平成26年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.21	ND	ND	ND	ND	16,100	0.18
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.79	0.006	ND	0.021	ND	17,000	0.38
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.43	0.006	ND	0.018	ND	16,500	0.28
	平成25年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.13	ND	ND	0.011	ND	16,000	0.16
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.41	ND	ND	0.050	ND	17,400	0.39
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.27	ND	ND	0.031	ND	17,000	0.28
	平成24年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.29	ND	ND	ND	ND	16,200	0.14
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.64	ND	ND	0.008	ND	17,300	0.17
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.42	ND	ND	0.007	ND	16,600	0.16
	平成23年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	ND	ND	ND	ND	15,400	0.069
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.39	0.008	ND	0.016	0.001	16,300	0.19
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.20	0.007	ND	0.010	0.001	15,900	0.13
	平成22年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.12	0.006	ND	ND	ND	14,700	0.62
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.48	0.014	ND	0.007	ND	17,500	0.75
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.27	0.009	ND	0.007	ND	16,600	0.69
	平成21年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	—	ND	ND	ND	16,500	0.092
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.24	—	ND	ND	0.002	17,800	0.32
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.13	—	ND	ND	0.002	16,900	0.21
	平成20年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	—	ND	ND	ND	16,400	0.077
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	0.78	—	ND	ND	0.001	17,300	0.083
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.30	—	ND	ND	0.001	16,800	0.080
	平成19年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	—	ND	ND	ND	16,700	0.37
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.24	—	ND	ND	0.001	16,800	0.78
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.10	—	ND	ND	0.001	16,800	0.58
	平成18年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	14,700	1.9
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.44	—	ND	ND	ND	17,400	2.4
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.13	—	ND	ND	ND	16,125	2.2
	平成17年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	14,600	1.6
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.15	—	ND	0.007	ND	15,500	2.5
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.09	—	ND	0.007	ND	15,200	1.0
	平成16年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	13,600	0.24
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.25	—	ND	ND	0.008	15,100	1.2
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.13	—	ND	ND	0.005	14,500	0.72
	平成15年度	最小	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	ND	ND	ND	14,300	0.69
		最大	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.35	—	ND	ND	0.001	17,400	1.0
		平均	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.10	—	ND	ND	0.001	15,725	0.88
	平成14年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	15,800～18,300	0.39～0.88
	平成13年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	17,200～17,200	0.48～1.7
	平成12年度		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	—	—	ND	ND	ND	7,900	1.1
	事前環境モニタリング 最小値～最大値 (平均値)		ND～ 0.010 (0.0028)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004～ 0.13 (0.037)	ND	ND	ND	ND	—	—	—	ND	ND	ND	6,300～ 12,800 (8,700)	0.096
管理基準値			≤0.04	≤1 ⁴⁾	≤0.4	≤3	≤0.06	≤0.02	≤0.1	≤0.06	≤0.03	≤0.2	≤0.1	≤1	≤100	≤0.5	—	—	—	—	—	≤10	
検出下限値 (ND)			<0.0004	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.0006	<0.0002	<0.001	<0.0006 ³⁾	<0.0003	<0.002	<0.005	<0.1	<0.01	<0.005	<0.05	<0.007	<0.001	—	—		

1) 事前環境モニタリング：H11.1.21、H11.6.16、H11.9.9、H11.11.29実施 平成12年度：H12.7.27実施 平成13年度：H13.7.18、H14.2.1実施 平成14年度：H14.7.23、H15.2.6実施
平成15年度：H15.5.15、H15.7.14、H15.10.24、H16.2.10実施 平成16年度：H16.6.1、H16.7.29、H16.11.2、H17.1.14実施 平成17年度：H17.5.23、H17.7.21、H17.11.7、H18.1.18実施
平成18年度：H18.5.26、H18.8.8、H18.11.27、H19.1.24実施 平成19年度：H19.6.14、H19.8.27、H19.11.15、H20.1.25実施 平成20年度：H20.5.21、H20.8.27、H20.11.17、H21.1.28実施
平成21年度：H21.5.21、H21.8.19(H21.8.20)、H21.11.6、H22.1.20実施 平成22年度：H22.5.27、H22.8.30、H22.11.11、H23.1.25実施 平成23年度：H23.6.29、H23.8.26、H23.11.17、H24.1.27実施
平成24年度：H24.5.16、H24.8.2、H24.11.19、H25.1.17実施 平成25年度：H25.5.22、H25.8.19、H25.11.8、H26.1.22実施 平成26年度：H26.5.26、H26.8.7、H26.11.12、H27.1.26実施
平成27年度：H27.5.15、H27.7.30、H27.11.17、H28.1.28実施 平成28年度：H28.5.19、H28.8.2、H28.11.18、H29.1.16実施



調査地点図

緊急時等の報告（正式評価）

『緊急時等の評価（分類）基準と関係者へのレベル表示』（平成 1 8 年 3 月 2 9 日第 8 回管理委員会及び平成 2 2 年 3 月 2 7 日第 2 1 回管理委員会審議済）の運用方針に従い、第 4 5 回管理委員会（平成 2 9 年 4 月 1 6 日開催）からこれまでに関係者に通報した 8 件について、緊急時等への対応が終了しましたので正式評価（分類）を実施し、次のとおり報告します。

なお、今回の報告する 8 件については暫定評価と同じ評価結果でした。

①高度排水処理施設の一時停止について（停電）	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ 昨日（4月17日）、20時33分頃から20時36分頃までの間、豊島で停電があり、高度排水処理施設が一時停止しました。 復電後、施設を点検し、正常に稼動していることを確認しました。 また、この影響で、情報表示システムの自動測定情報が正常に更新されていません。現在復旧作業を行っています。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	1. 問題なし
＜修復作業の内容＞ 復電後、施設を点検し、正常に稼動していることを確認しました。	＜正式評価（分類）＞		
＜処理事業への影響＞ このことによる中間処理施設の停止はありません。	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	1. 問題なし

② 1号及び2号溶融炉のキープ運転について（スラグ分配コンベア故障）	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ 平成29年4月23日9時頃にスラグ分配コンベアが故障したことにより、スラグの破碎を止めた状態で処理を行っていましたが、破碎前のスラグを貯めておくピットに余裕がなくなったため、本日（4月24日）6時からキープ運転（廃棄物の投入を停止し、1000℃で温度維持）を行っています。 修復作業は本日（4月24日）8時30分頃から行っており、午前中に終わる見込みです。修復作業が終わり次第、昇温を行い、処理を再開します。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	2. 軽度
＜修復作業の内容＞ プーリーが損傷していたので交換して試運転後に復旧しました。	＜正式評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
＜処理事業への影響＞ このことによる処理の停止は平成29年4月24日8時頃から16時頃までのおよそ8時間でした。	1. 問題なし	1. 問題なし	2. 軽度

③ 2号溶融炉のキープ運転について	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ （第1報） 昨日（5月9日）午後11時30分頃、2号溶融炉のバグフィルターダスト排出装置が故障したことから、本日（5月10日）午前2時30分頃から、キープ運転（廃棄物の投入停止し、1000℃で温度維持）に移行し、排出装置の交換作業を行っています。 （第2報） 2号溶融炉については、バグフィルターダスト排出装置が故障したため、キープ運転（廃棄物の投入停止し、1000℃で温度維持）を行い、排出装置の交換作業を実施していましたが、作業が完了したので、施設の安全点検を行った後、本日（5月10日）11時30分頃から昇温を開始しました。なお、処理再開は16時頃の予定です。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	2. 軽度
＜修復作業の内容＞ サーマルリレー取付部の焼損による欠相が発生していたので、取付部が焼損したサーマルリレーと、サーマルリレーが取り付けられていた電磁接触器を交換して試運転を行った後、復旧しました。	＜正式評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	2. 軽度

<処理事業への影響> このことによる2号炉の処理の停止は平成29年5月10日4時頃から15時頃までのおよそ11時間でした。	
---	--

④ 1 号溶融炉のキープ運転について（投入コンベア故障）	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ （第 1 報） 平成 2 9 年 5 月 1 4 日午前 9 時頃、1 号溶融炉の投入コンベアが故障したことから、本日（5 月 1 4 日）午前 9 時 3 0 分頃から、キープ運転（廃棄物の投入停止し、1 0 0 0℃で温度維持）に移行し、修復作業を行っています。 （第 2 報） 5 月 1 4 日午前 9 時頃、1 号溶融炉の投入コンベアが故障したことから、午前 9 時 3 0 分頃から、キープ運転（廃棄物の投入停止し、1 0 0 0℃で温度維持）に移行していましたが、作業が完了したので、施設の安全点検を行った後、昨日（5 月 1 6 日）2 2 時頃から昇温を開始し、本日（5 月 1 7 日）2 時頃に処理再開しました。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1．問題なし	1．問題なし	2．軽度
＜修復作業の内容＞ エプロンパンが変形し、エプロンパン同士が干渉して過負荷となっていたので、変形したエプロンパンと取付ボルトの交換及び弛み止めのために取付ボルトとナットの溶接を実施して復旧しました。	＜正式評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1．問題なし	1．問題なし	2．軽度
＜処理事業への影響＞ このことによる 1 号炉の処理の停止は平成 2 9 年 5 月 1 4 日 1 1 時頃から 5 月 1 7 日 2 時頃までのおよそ 2 日と 1 5 時間でした。			

⑤ 1号溶融炉の塩化水素濃度の表示値が要監視レベルを超えた件について（計測器故障）	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ 平成29年5月25日午前9時頃、1号溶融炉の塩化水素濃度の表示値が要監視レベル（中間処理施設の運転状況の監視を強化しながら本来の性能を発揮させる改善対策を実施するレベル）を超えました。 この原因は、塩化水素濃度計の動作不良によるもので、点検の上復旧しました。異常値については後日修正致します。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	1. 問題なし
＜修復作業の内容＞ 試料流量計のフロート玉が流量計ガラス管内面に付着し、正確な流量が測れていなかったため、異常値となっていたことから、分解清掃を行い復旧しました。	＜正式評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	1. 問題なし	1. 問題なし
＜処理事業への影響＞ このことによる処理の停止はありません。			

⑥溶融炉の硫黄酸化物濃度が要監視レベルを超えた件について（1号炉、2号炉）	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ （第1報） 平成29年6月27日、ピット固着物の処理を行っているところですが、9時頃、1号溶融炉において、硫黄酸化物濃度が要監視レベル（中間処理施設の運転状況の監視を強化しながら本来の性能を発揮させる改善対策を実施するレベル）を超えました。 この原因については、投入された廃棄物等に、硫黄分が多く含まれていたことによるものと思われます。 （第2報） 1号溶融炉に続き、本日（6月27日）11時頃、2号溶融炉においても、硫黄酸化物濃度が要監視レベル（中間処理施設の運転状況の監視を強化しながら本来の性能を発揮させる改善対策を実施するレベル）を超えました。 この原因については、1号溶融炉と同様に投入された廃棄物等に、硫黄分が多く含まれていたことによるものと思われます。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1. 問題なし	2. 軽度	1. 問題なし

＜修復作業の内容＞ 燃焼空気、バーナー油量を調節し、処理量を落とすと共にガス冷却塔出口温度を下げて対応しました。消石灰圧送ラインを点検し、正常なことを確認して消石灰吹き込み及び苛性ソーダの噴霧を最大にしました。	＜正式評価（分類）＞ <table><tr><td>人身への影響</td><td>基準の逸脱等</td><td>事業進捗への影響</td></tr><tr><td>1．問題なし</td><td>2．軽度</td><td>1．問題なし</td></tr></table>			人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響	1．問題なし	2．軽度	1．問題なし
人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響							
1．問題なし	2．軽度	1．問題なし							
＜処理事業への影響＞ このことによる処理の停止はありません。									

⑦2 号溶融炉の硫黄酸化物濃度が要監視 レベルを超えた件について	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ 平成2 9 年6 月2 8 日1 4 時頃、2 号溶融炉において、硫黄酸化物濃度が要監視レベル（中間処理施設の運転状況の監視を強化しながら本来の性能を発揮させる改善対策を実施するレベル）を超えました。 この原因については、投入された廃棄物等に、硫黄分が多く含まれていたことによるものと思われます。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1．問題なし	2．軽度	1．問題なし
＜修復作業の内容＞ 燃焼空気、バーナー油量を調節し、処理量を落とすと共にガス冷却塔出口温度を下げて対応しました。消石灰圧送ラインを点検し、正常なことを確認して消石灰吹き込み及び苛性ソーダの噴霧を最大にしました。	＜正式評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1．問題なし	2．軽度	1．問題なし
＜処理事業への影響＞ このことによる処理の停止はありません。			

⑧1 号溶融炉の硫黄酸化物濃度が要監視レベルを超えた件について	評価レベル		
＜異常時緊急時等の通報内容＞ 平成29年6月29日15時頃、1号溶融炉において、硫黄酸化物濃度が要監視レベル（中間処理施設の運転状況の監視を強化しながら本来の性能を発揮させる改善対策を実施するレベル）を超えました。 この原因については、投入された廃棄物等に、硫黄分が多く含まれていたことによるものと思われます。	＜暫定評価（分類）＞		
	人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
	1．問題なし	2．軽度	1．問題なし

<修復作業の内容>

燃焼空気、バーナー油量を調節し、処理量を落とすと共にガス冷却塔出口温度を下げて対応しました。消石灰圧送ラインを点検し、正常なことを確認して消石灰吹き込み及び苛性ソーダの噴霧を最大にしました。

<処理事業への影響>

このことによる処理の停止はありません。

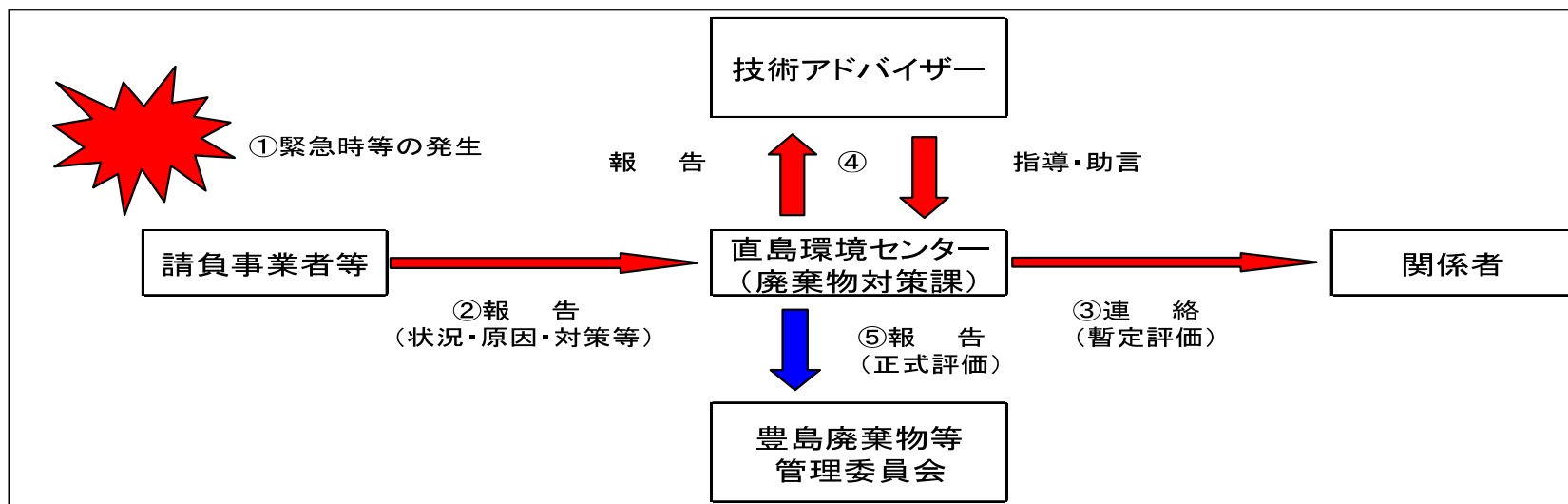
<正式評価（分類）>

人身への影響	基準の逸脱等	事業進捗への影響
1. 問題なし	2. 軽度	1. 問題なし

(参考)

運用方針（評価（分類）の流れ）

- ① 緊急時等の発生
- ② 請負事業者等は、直島環境センターに報告する。
- ③ 請負事業者等からの報告などに基づき、直島環境センターは、次の評価（分類）基準表により、速やかに緊急時等の暫定評価（分類）を行い、その結果を付して関係者に連絡する。
- ④ また、技術アドバイザーに状況を報告し、指導・助言を得る。
- ⑤ 直島環境センターは緊急時等への対応が終了した時点で、必要に応じ暫定評価（分類）を見直し、正式評価（分類）を行い、豊島廃棄物等管理委員会に報告する。



評価（分類）基準表

【豊島】

評価 レベル	人身への影響		基準の逸脱等	事業への影響
	暫定評価	正式評価		
3	緊急搬送したもの	入院加療を要したもの以上	管理基準値を超過したものが豊島処分地外への流出	中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理が3日（72時間）を超えて停止
2	緊急搬送等の対応を要しないもの	通院加療等を要したもの	- 設備の破損等 - 管理基準値の超過を確認（場外への流出なし）	中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理が3日（72時間）以内の範囲で停止
1	影響がないもの	影響がなかったもの	基準を満足	影響がないもの及び中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理に影響しないもの

【直島】

評価 レベル	人身への影響		基準の逸脱等	事業への影響
	暫定評価	正式評価		
3	緊急搬送したもの	入院加療を要したもの以上	- 即時停止レベル超過 - 雨水排水が管理基準を超過	溶融処理又は高温熱処理が3日（72時間）を超えて停止
2	緊急搬送等の対応を要しないもの	通院加療等を要したもの	要監視レベル	- 溶融処理又は高温熱処理が3日（72時間）以内の範囲で停止 - スラグ品質低下によるスラグ再溶融の実施
1	影響がないもの	影響がなかったもの	基準を満足	影響がないもの及び中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理に影響しないもの

【輸送（海上、陸上）】

評価 レベル	人身への影響		基準の逸脱等	事業への影響
	暫定評価	正式評価		
3	緊急搬送したもの	入院加療を要したもの以上	海域への廃棄物、油の流出	中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理が3日（72時間）を超えて停止
2	緊急搬送等の対応を要しないもの	通院加療等を要したもの	- 海域への廃棄物、油以外（洗剤、物品等）の流出 - 陸上での廃棄物等の飛散	中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理が3日（72時間）以内の範囲で停止
1	影響がないもの	影響がなかったもの	影響がないもの	影響がないもの及び中間処理施設での溶融処理又は高温熱処理に影響しないもの

健康管理委員会の審議概要

第 32 回豊島廃棄物等処理事業健康管理委員会(以下「健康管理委員会」という。)を平成 29 年 6 月 14 日に開催したので、その審議概要等を報告する。

1 作業環境測定結果

第 31 回健康管理委員会（平成 29 年 2 月 13 日開催）以後の作業環境測定の結果について報告した。

個人暴露調査並びに石綿の調査については、すべて管理基準又は許容濃度を満たしていた。

常時監視のうち、4 月のプラットホームにおける粉じん濃度が管理基準値を超過していた。

定期監視のうち、粉じんの測定結果及びダイオキシン類（以下「D X N」という。）の換算結果については、溶融炉室及びロータリーキルンは第 1 管理区域と評価されたが、プラットホームは第 3 管理区域であった。

混合地点における粉じん及びダイオキシン類の調査結果については、1 月実施分は管理基準を超過していたが、3 月実施分は管理基準を満たしていた。

この他の定期監視については、第 1 管理区分と評価され、又は管理基準を満たしていた。

2 離職時等健康診断結果

事業終了にあたり、作業員の健康状況を把握するため、離職もしくは異動前に、一般健康診断及び特殊健康診断を受診してもらい、その結果を報告した。

なお、委員から、事業開始からこれまで、高度の中毒症状や大きな労災事故がなかったことの報告と、健康診断を受診した後は知識よりも行動することが重要であるとのご指導をいただいた。

3 ひやり・ハット等の報告

人身事故 1 件について、概要や対策を報告した。

4 今後の健康管理委員会

廃棄物等の掘削及び豊島側での均質化並びに陸上及び海上輸送が平成 28 年度に終了し、平成 29 年度の途中から中間処理施設の運転も終了する一方、豊島中間保管・梱包施設等の除去・除染及び解体・撤去が実施されるため、これに伴い、健康管理委員会の名称及び所掌事務が変更となることについて審議され、了承された。